

男女共同参画に関する住民アンケート 結果

●調査概要

○目 的

砥部町の住民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、令和3年度から10年間を計画期間とする「第2次砥部町男女共同参画計画」策定の基礎資料とし、さらなる施策の推進に取り組むことを目的とする。

○方 法

(1) 対象者

町内在住の20歳以上の男女 1,000名（住民基本台帳から無作為抽出）
男性 500名、女性 500名
20歳代～60歳代 男女 各80名、70歳代以上 男女 各100名

(2) 調査方法

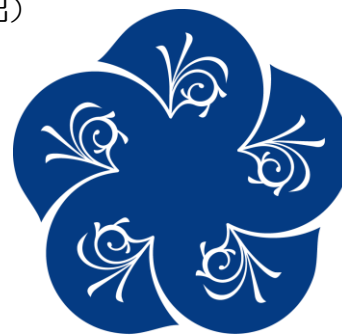
郵送による配布、回収

(3) 期 間

令和2年8月21日～9月18日

(4) 回収率

39.8%（男性：32.8%、女性：45.2%）



四 国 砥 部
えひめ I O B E

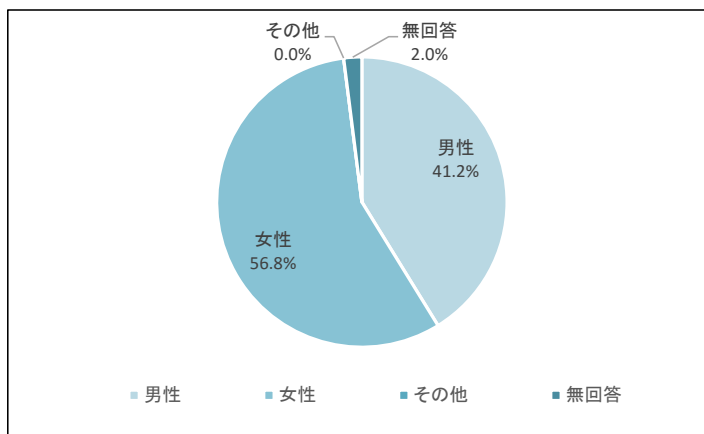
●結果概要

※端数処理のため合計が100%にならない場合があります。
※前回の調査とは、平成27年度の住民意識調査を指します。

問1. あなた自身のことについておたずねします。

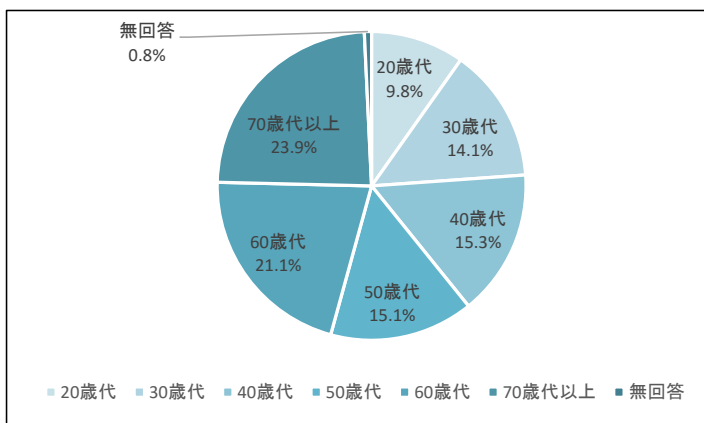
○性別

	件数
男性	164
女性	226
その他	0
無回答	8
合計	398



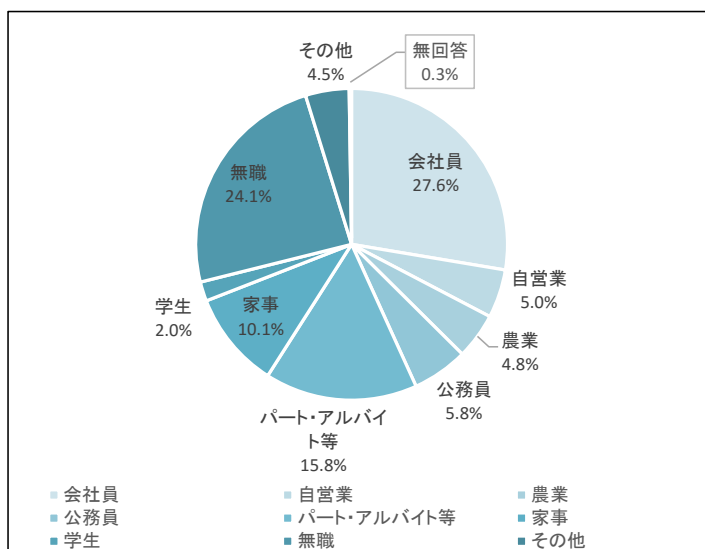
○年齢

	件数
20歳代	39
30歳代	56
40歳代	61
50歳代	60
60歳代	84
70歳代以上	95
無回答	3
合計	398



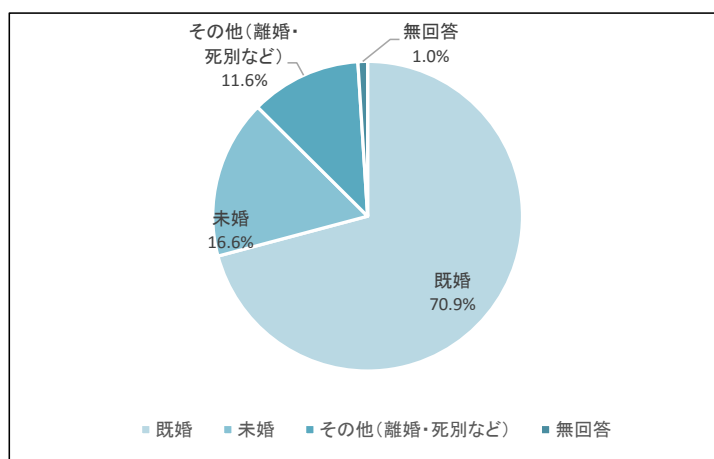
○職業

	件数
会社員	110
自営業	20
農業	19
公務員	23
パート・アルバイト等	63
家事	40
学生	8
無職	96
その他	18
無回答	1
合計	398



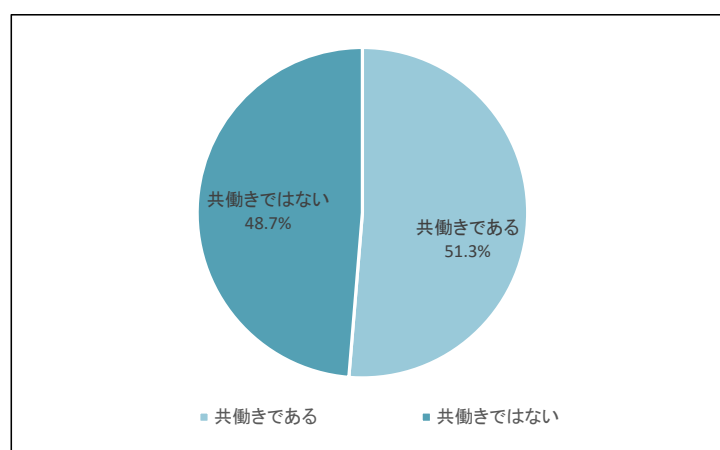
○結婚の経験（現在の状態）

	件数
既婚	282
未婚	66
その他（離婚・死別など）	46
無回答	4
合計	398



○既婚と答えた方のみ

	件数
共働きである	137
共働きではない	130
合計	267



問2. (1) から (13) の言葉をご存じですか。【択一式】

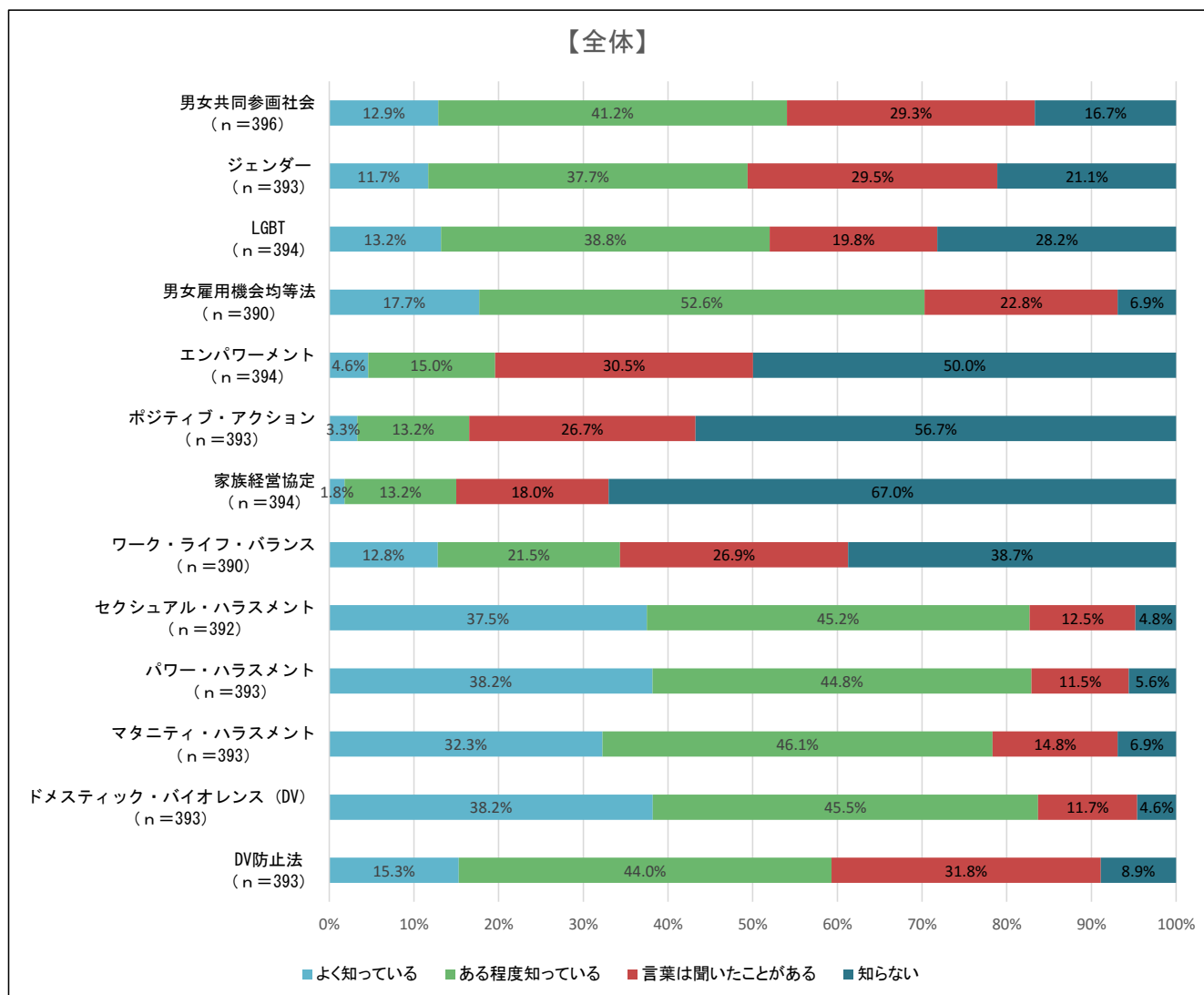
【分析結果】

「セクシャル・ハラスメント」「パワー・ハラスメント」「マタニティ・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス」「DV防止法」については概ね8割近い人が「知っている」と「言葉は聞いたことがある」と答えた。一方、エンパワーメント、ポジティブ・アクション、家族経営協定については、「知っている」と「言葉は聞いたことがある」と答えた人は2割以下だった。

年代別では、若い人と年配の人とで差が見られ、比較的新しいカタカナ語は若い世代が知っていると答える割合が多かった。

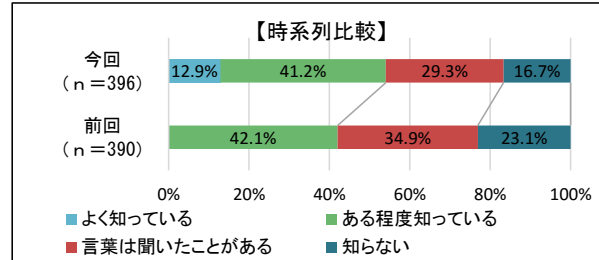
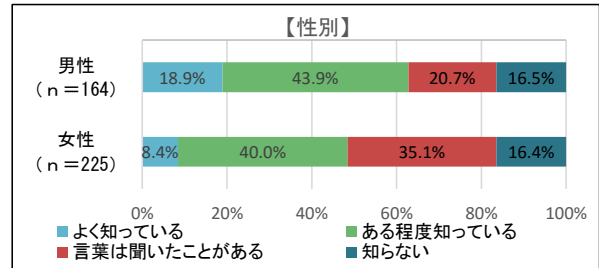
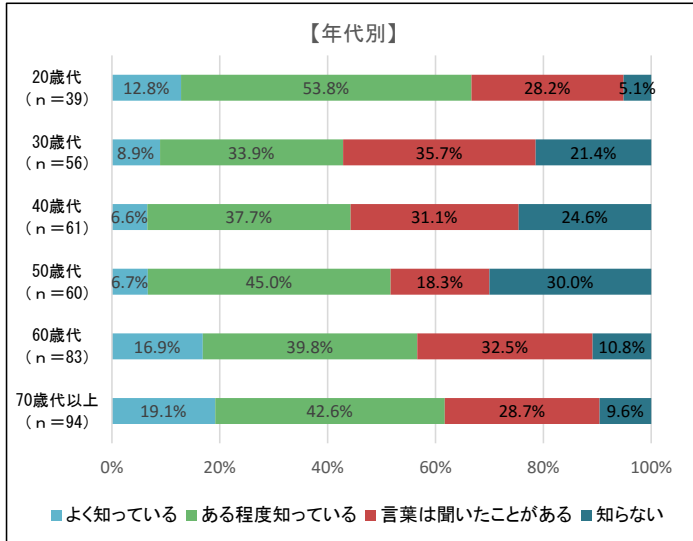
性別で見ると、「マタニティ・ハラスメント」と「DV防止法」に関して知っていると答える割合は女性の方が多かったが、それ以外の項目では男性の方が知っている割合が多かった。

前回の調査と比較すると、「DV防止法」以外は、知っていると答えた割合は、今回の調査の方が多かった。

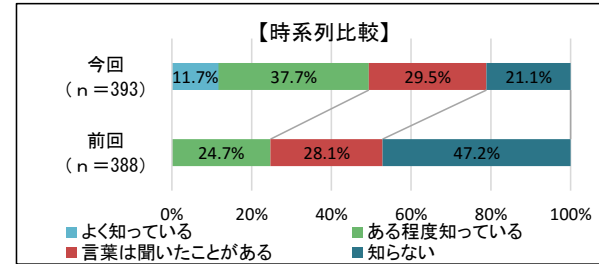
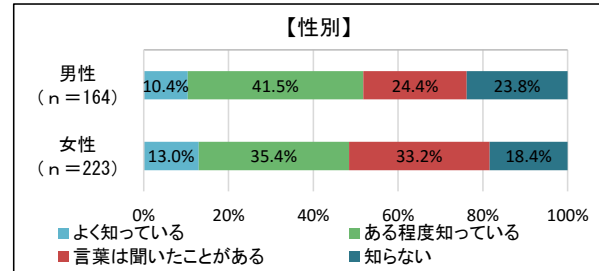
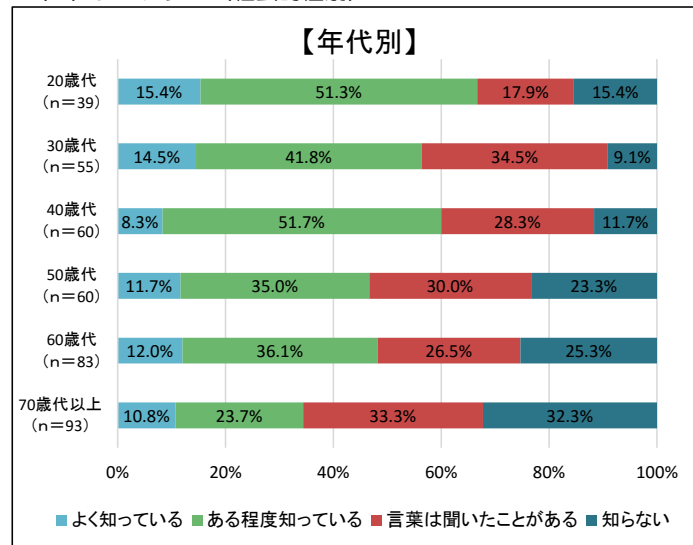


※前回調査では、「知っている」「名前ぐらいは知っている」「知らない」の三択

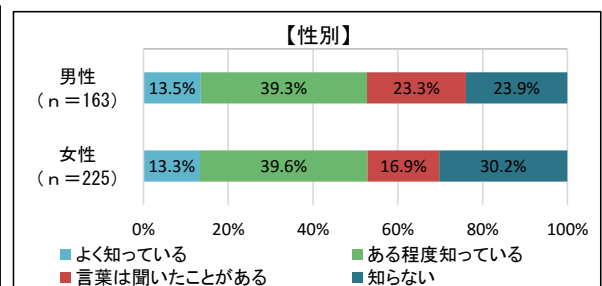
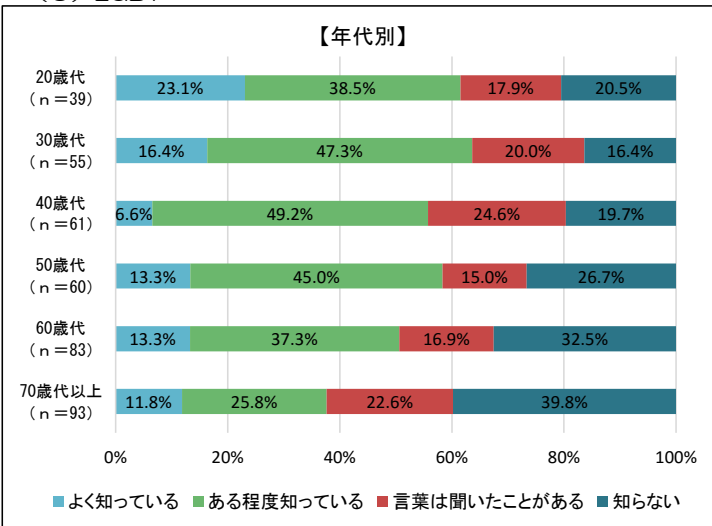
(1) 男女共同参画社会



(2) ジェンダー (社会的性別)

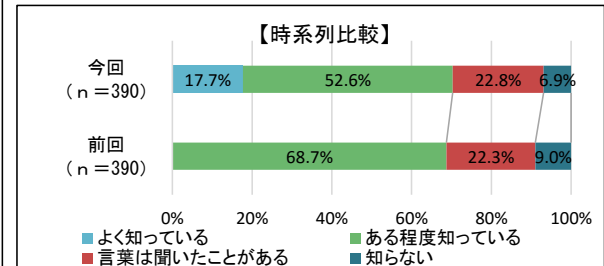
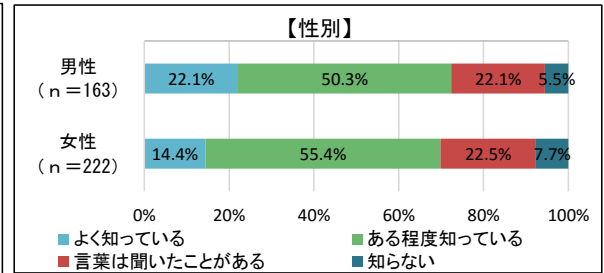
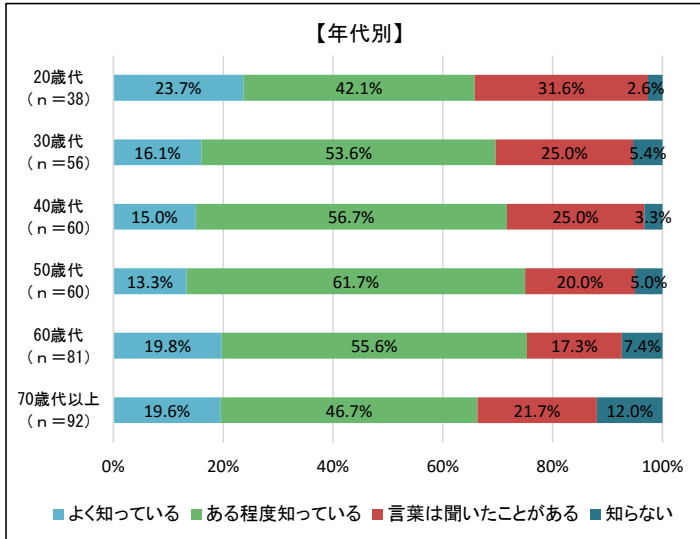


(3) LGBT

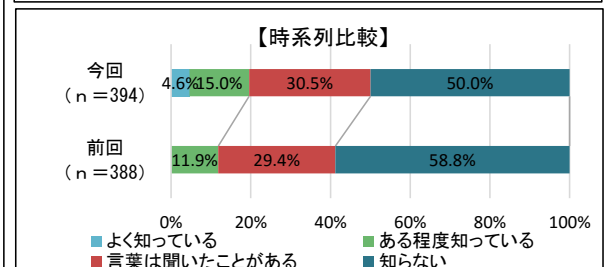
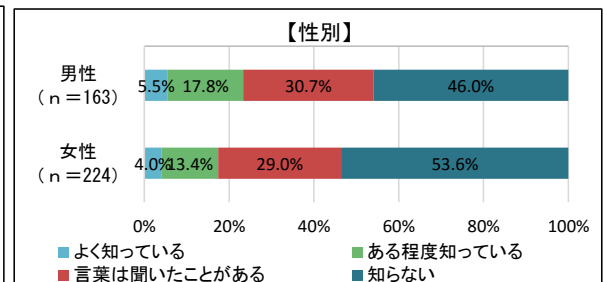
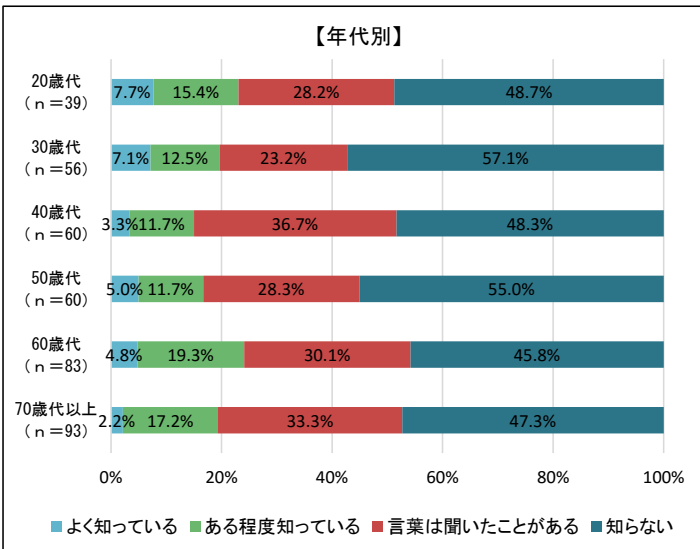


※今回新設項目

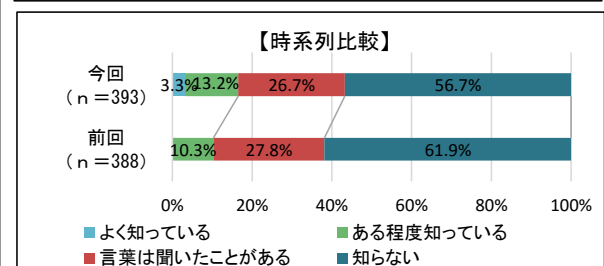
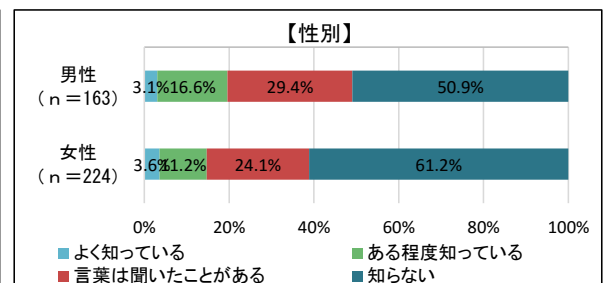
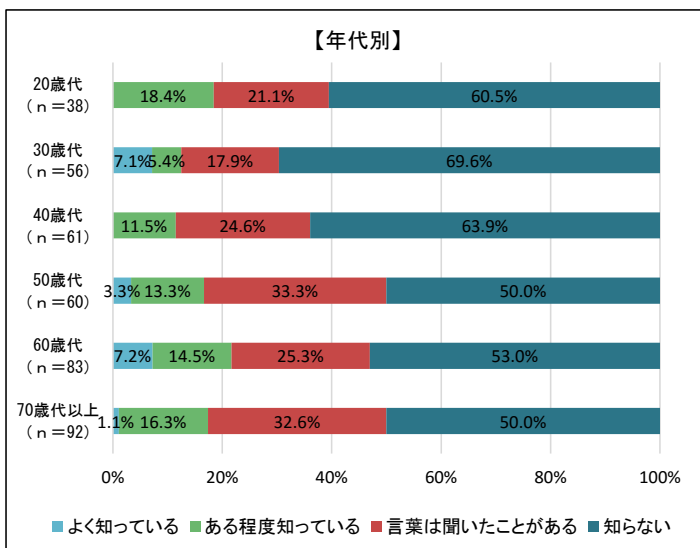
(4) 男女雇用機会均等法



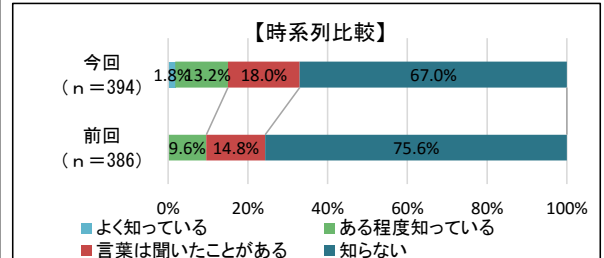
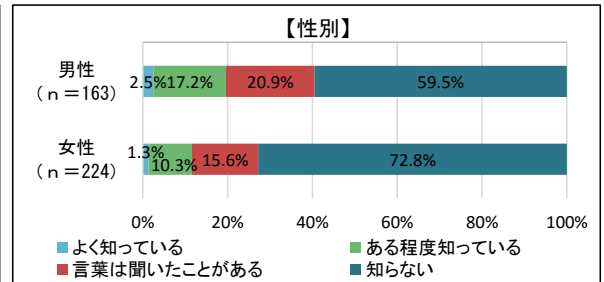
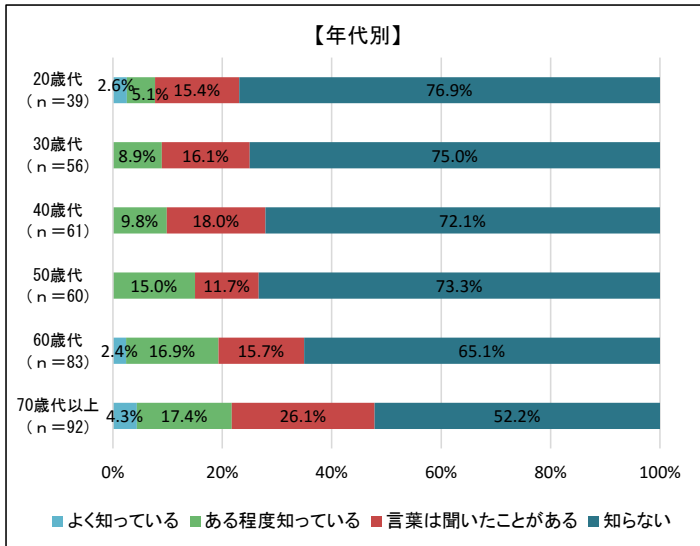
(5) エンパワーメント



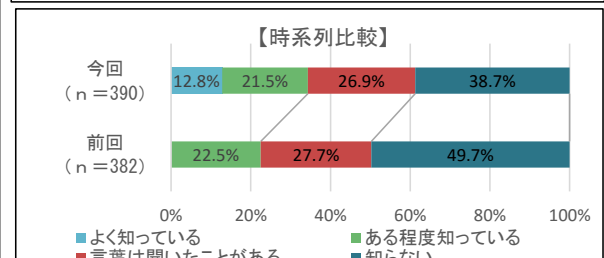
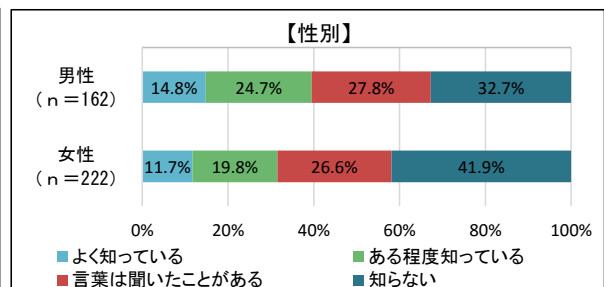
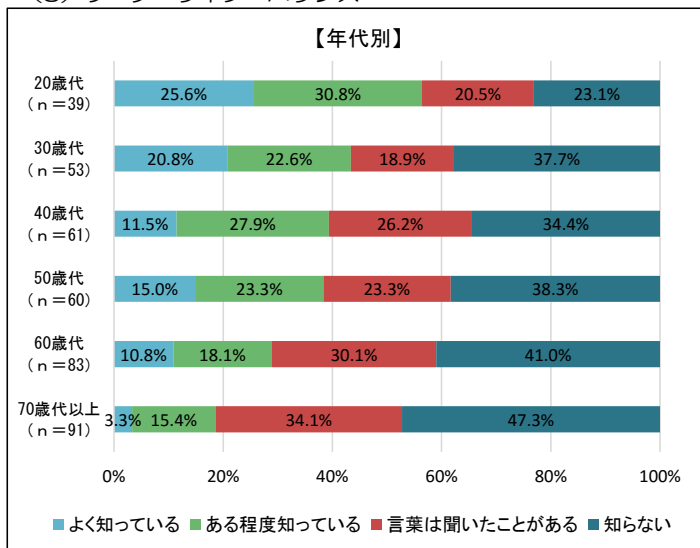
(6) ポジティブ・アクション



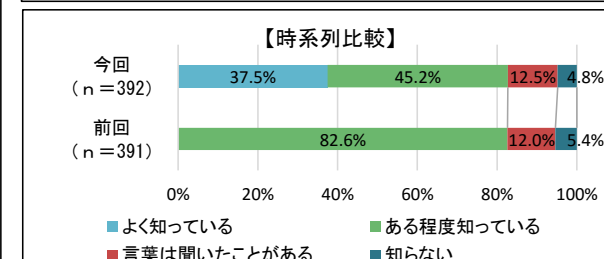
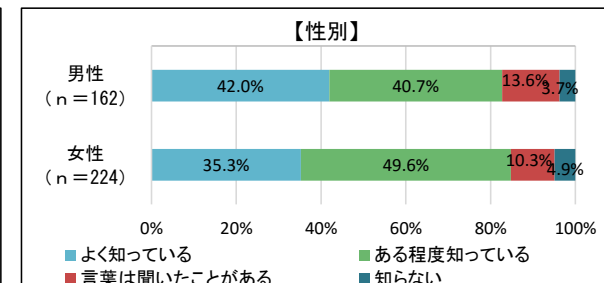
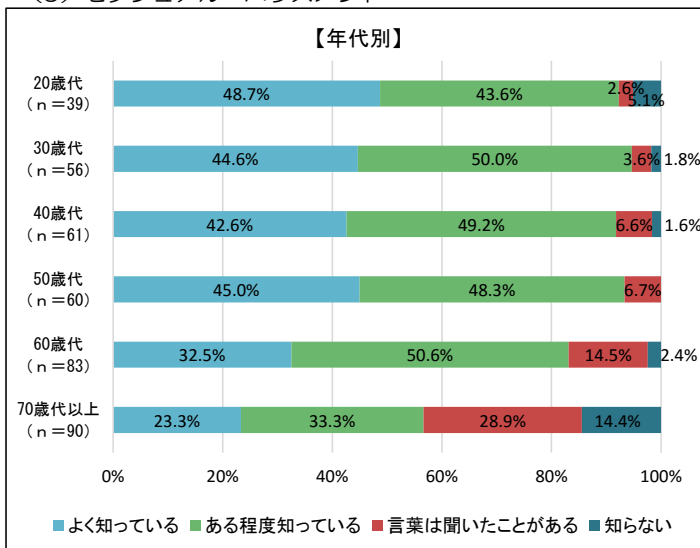
(7) 家族経営協定



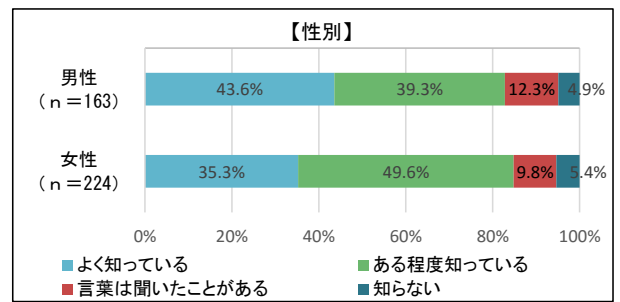
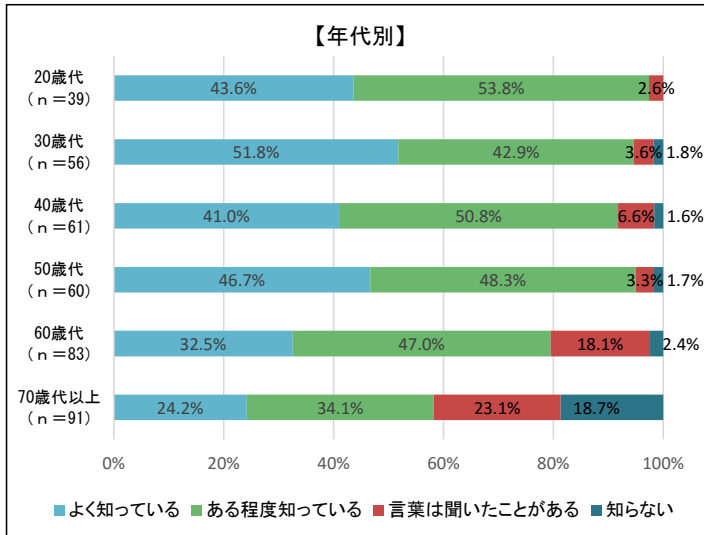
(8) ワーク・ライフ・バランス



(9) セクシュアル・ハラスメント

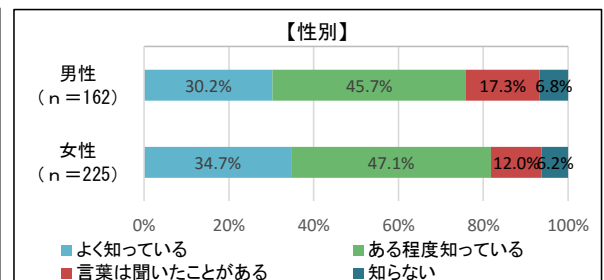
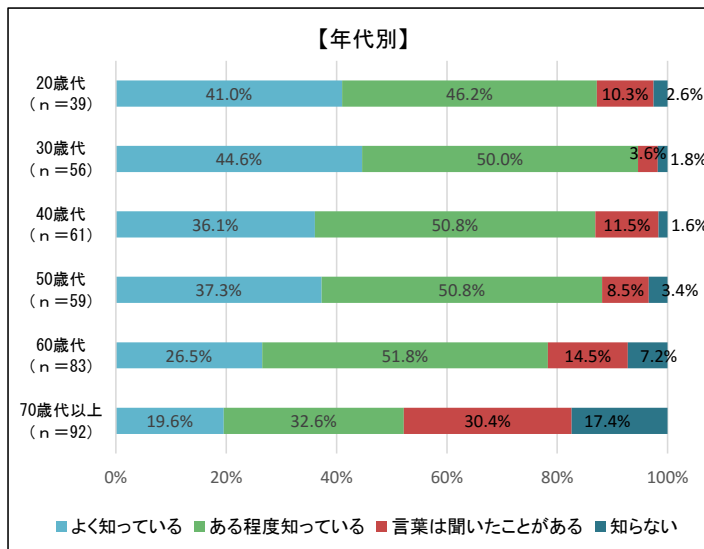


(10) パワー・ハラスメント



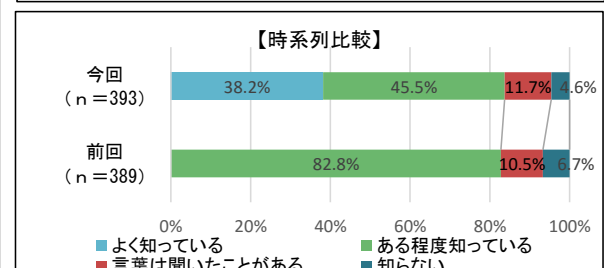
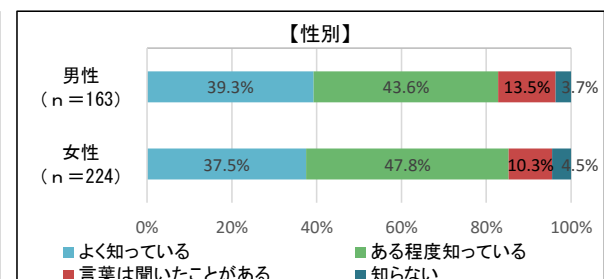
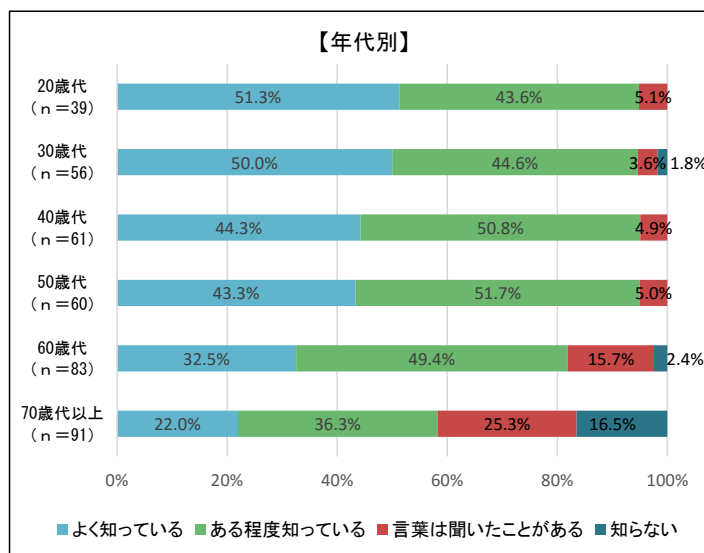
※今回新設項目

(11) マタニティ・ハラスメント

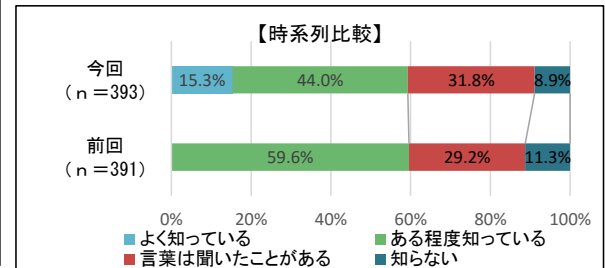
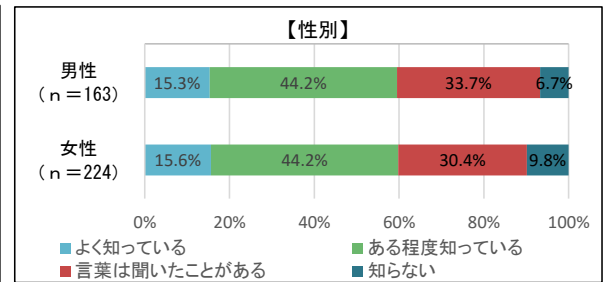
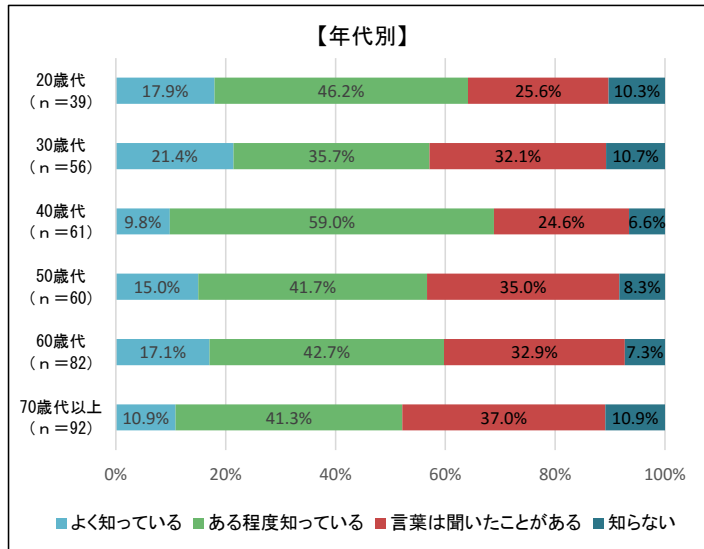


※今回新設項目

(12) ドメスティック・バイオレンス (DV)



(13) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律
(DV防止法)



問3. (1) から (6) の結婚、家庭生活についてあなたはどのように思いますか。【択一式】

【分析結果】

「男性も家事や子育てなど家庭の責任を分担して担うべきだ」、「男女が協力して家計を支えたり、家庭を守っていくべきだ」という項目において9割が「そう思う」「比較的そう思う」と回答している。また、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」という項目に対して、「そう思う」「比較的そう思う」と答えた割合は2割以下だった。このことから、性別による役割意識についてあまり考えていないといえる。

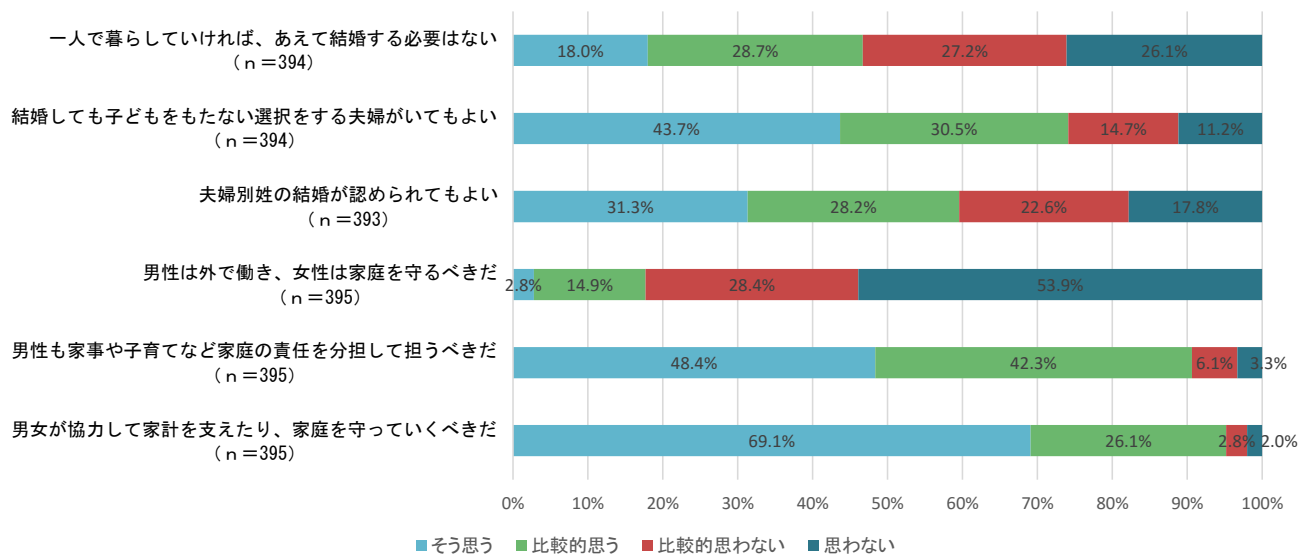
一方、結婚に関しては、「結婚しても子どもをもたない選択をする夫婦がいてもよい」について、「そう思う」「比較的そう思う」と回答している割合は8割ぐらいで、「夫婦別姓の結婚が認められてもよい」が約6割、「一人で暮らしていければ、あえて結婚する必要はない」が5割以下であった。

年代別に見ると、ほとんどの項目で違いが見られ、若い世代が、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」以外は、肯定的に捉えている傾向にあった。

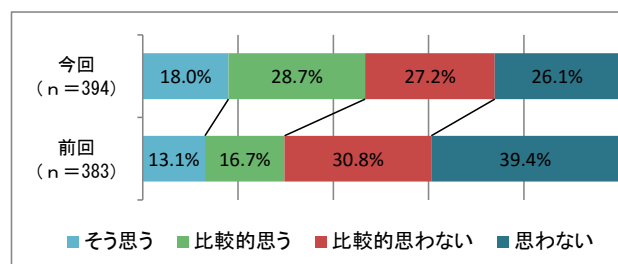
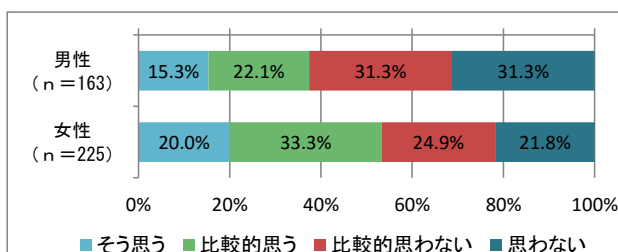
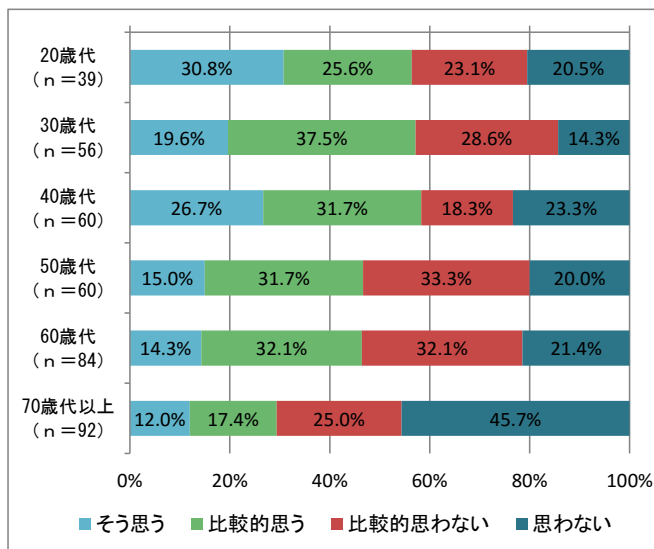
性別で見ると、女性の方が、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」以外は、肯定的に捉えている傾向にあった。

また、前回の調査と比較すると、今回の調査の方が「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」以外は、肯定的に捉えている傾向にあった。

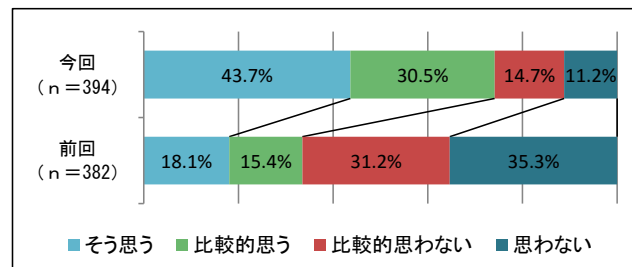
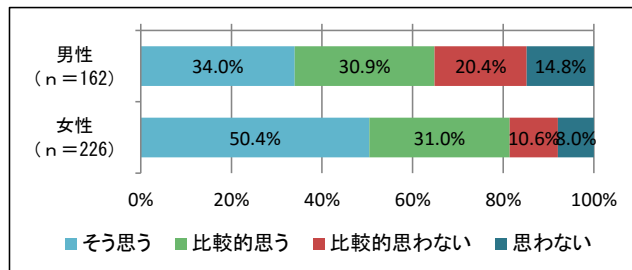
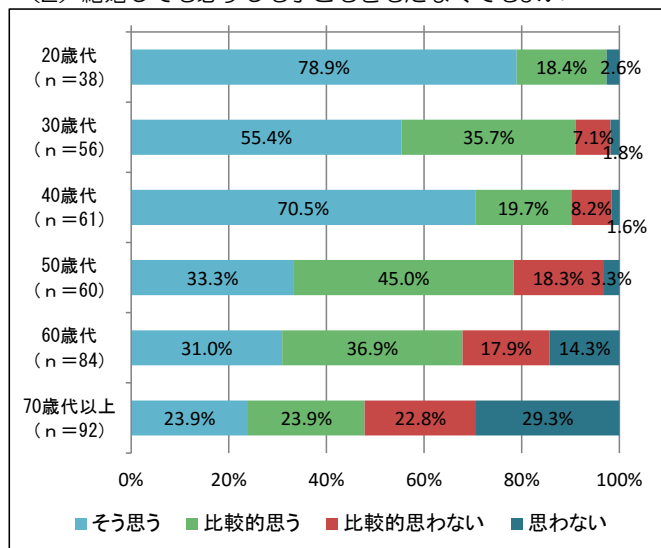
【全体】



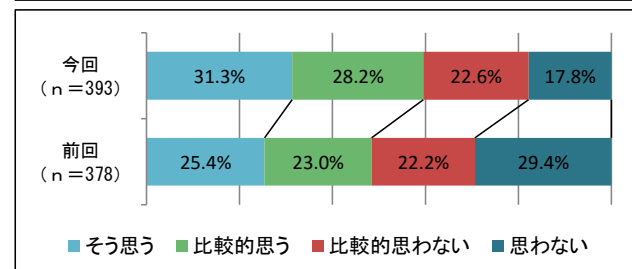
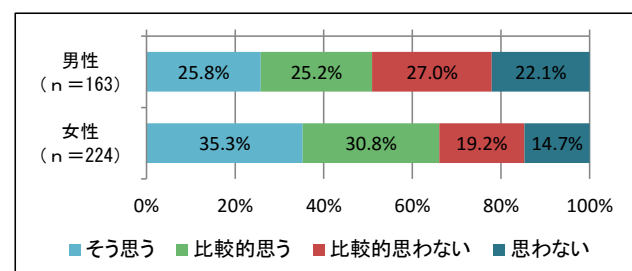
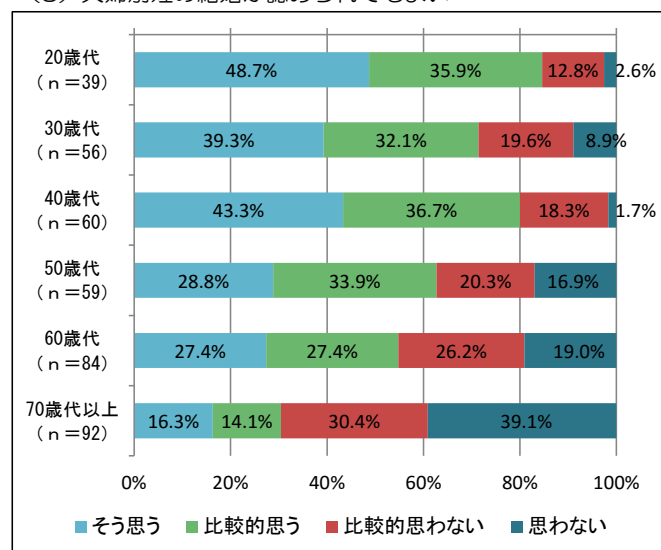
(1) 一人で暮らしていければ、あえて結婚する必要はない



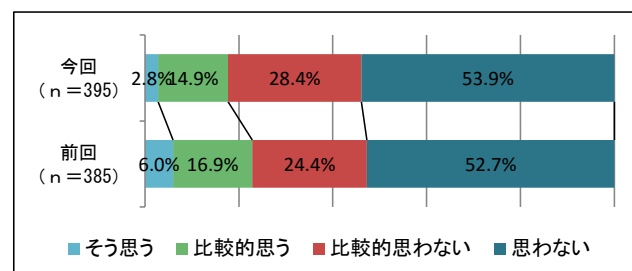
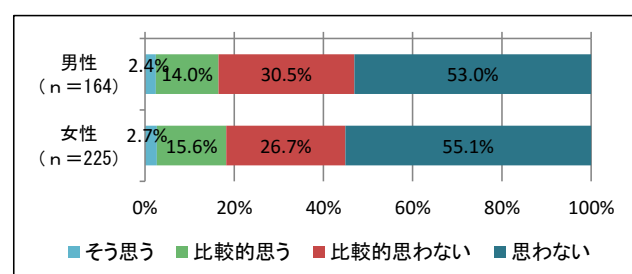
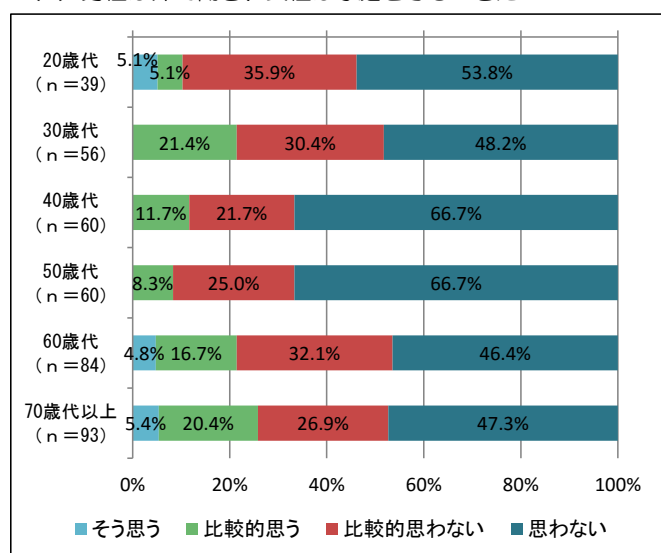
(2) 結婚しても必ずしも子どもをもたなくてもよい



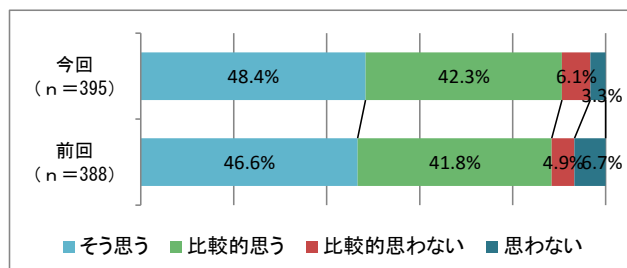
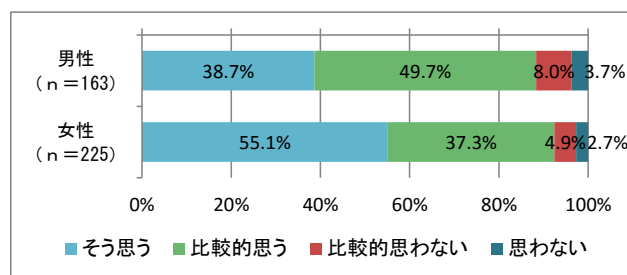
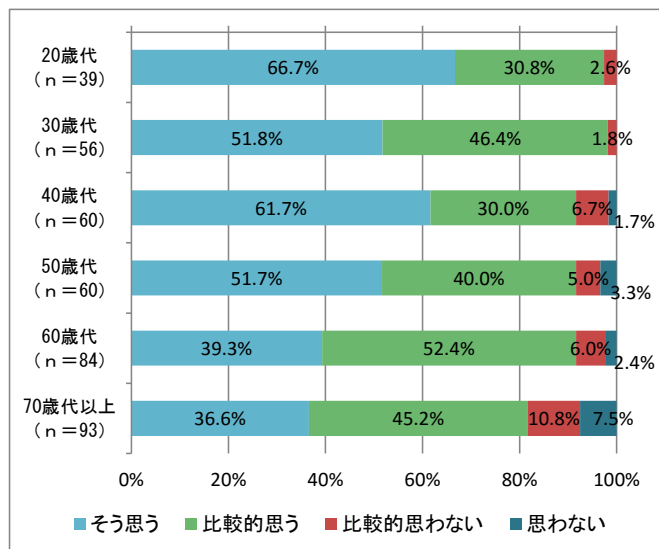
(3) 夫婦別姓の結婚が認められてもよい



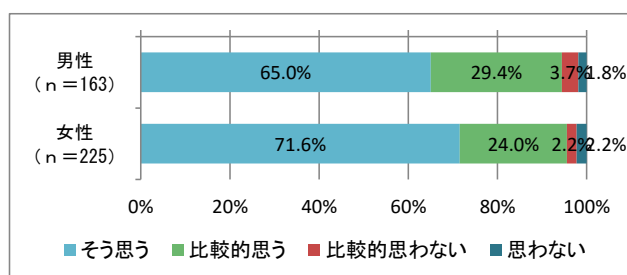
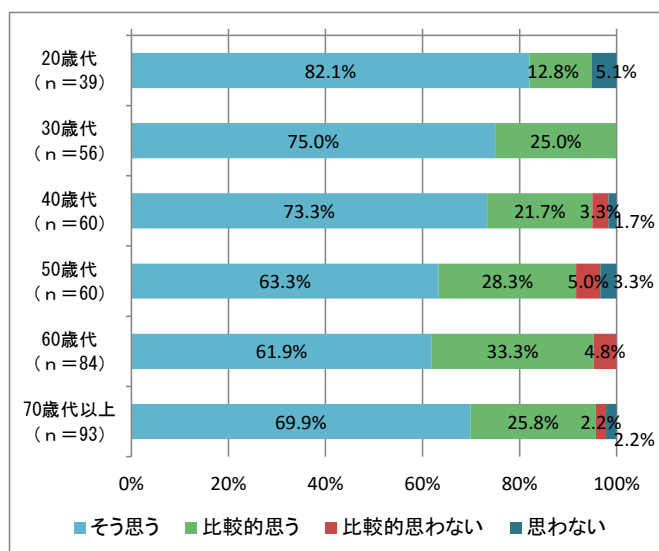
(4) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ



(5) 男性も家事や子育てなど家庭の責任を分担して担うべきだ



(6) 男女が協力して家計を支えたり、家庭を守っていくべきだ



※今回新設項目

問4. あなたの家庭では、（１）から（９）の役割は、どなたが主に担当されていますか。
【択一式】

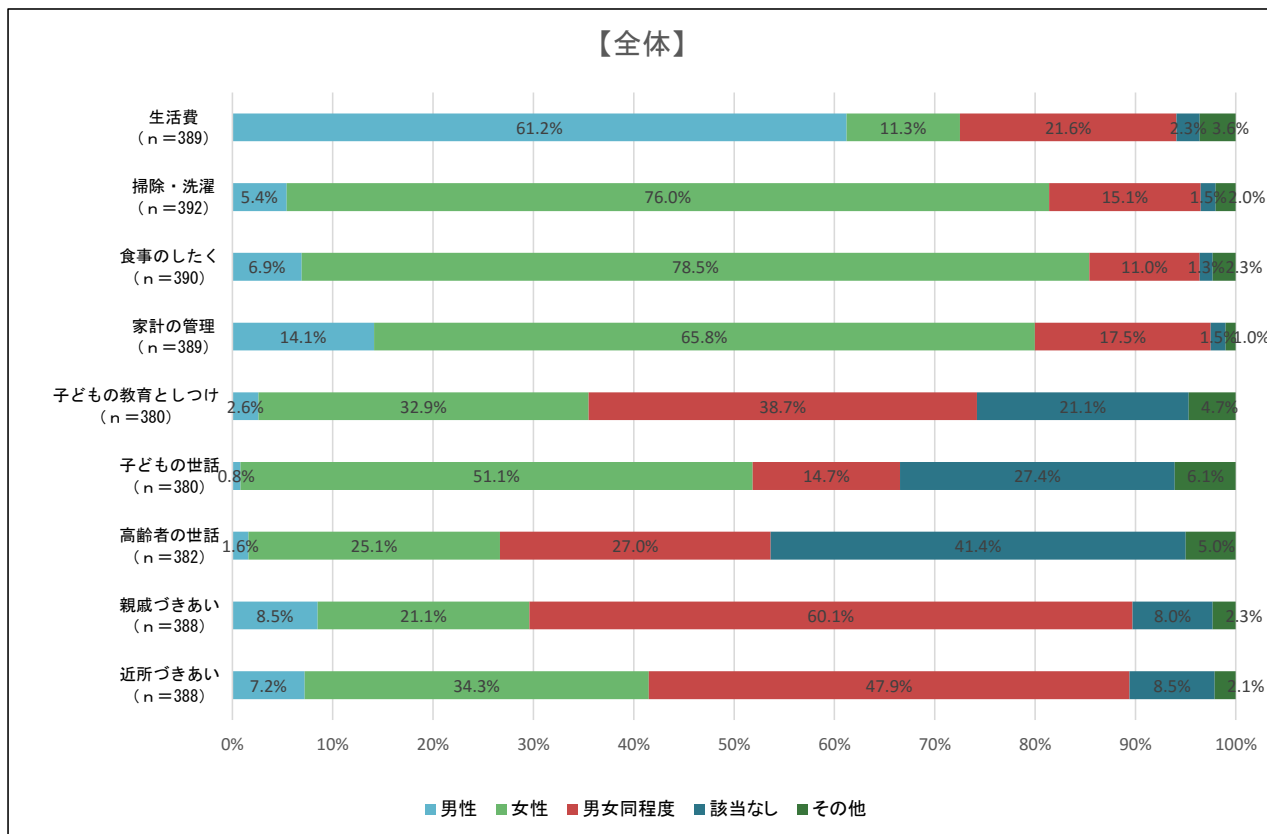
【分析結果】

家庭での分担で、男性が女性より担当している割合が多かったものは「生活費」（男性：61.2%、女性11.3%）のみであった。

「掃除・洗濯」「食事のしたく」は、女性が担当する割合が7割強であるのに対し、男性が担当する割合は1割以下だった。

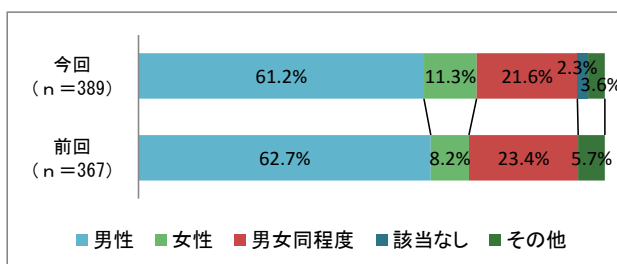
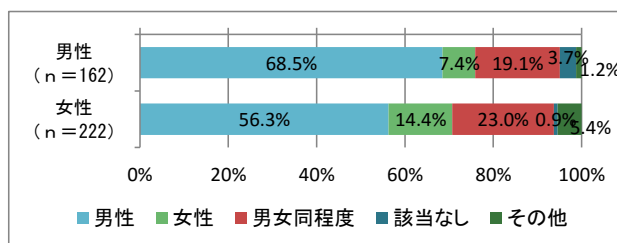
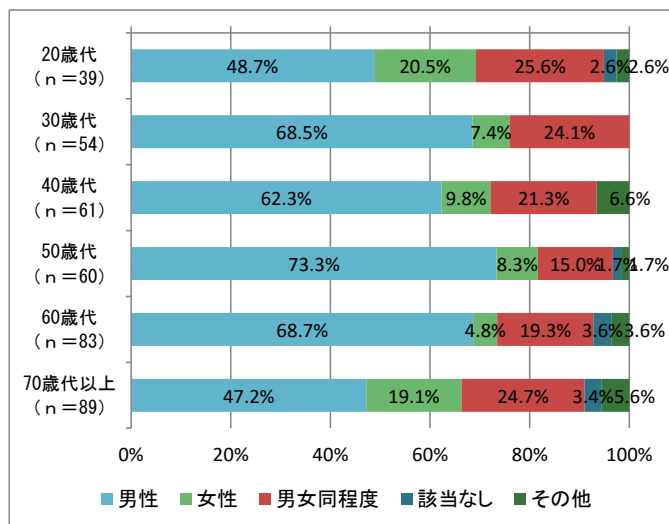
また、「子どもの教育としつけ」は、男女同程度が最も多かった。

前回調査との比較では、「掃除・洗濯」、「食事のしたく」、「家計の管理」、「子どもの教育としつけ」、「近所づきあい」で男性の分担割合が増えた。

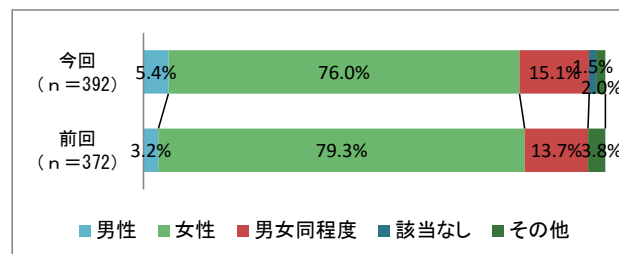
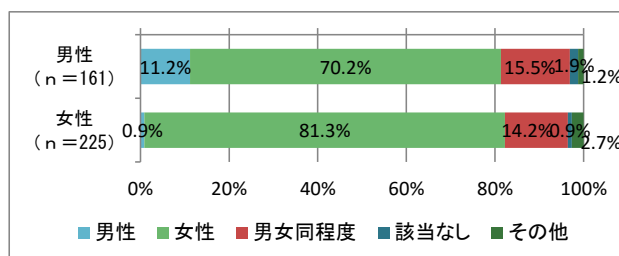
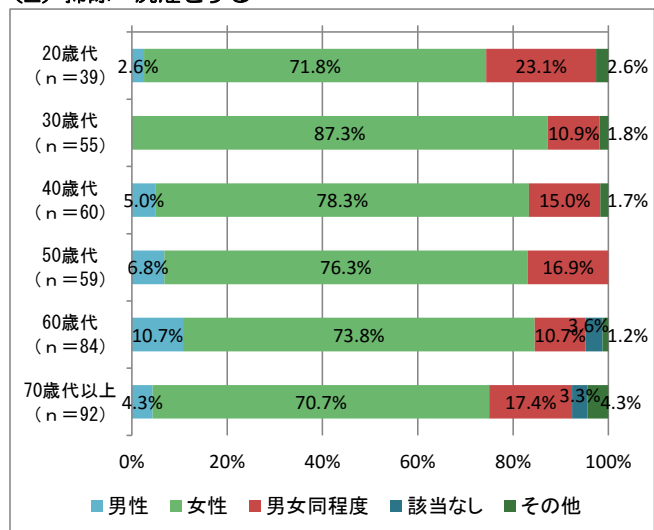


※前回調査では、「夫」「妻」「夫婦同程度」「その他」の四択

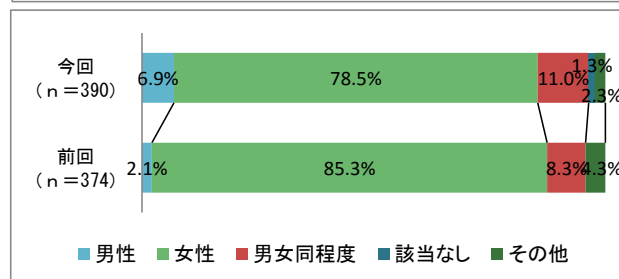
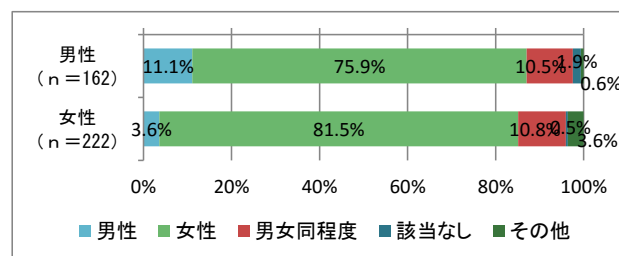
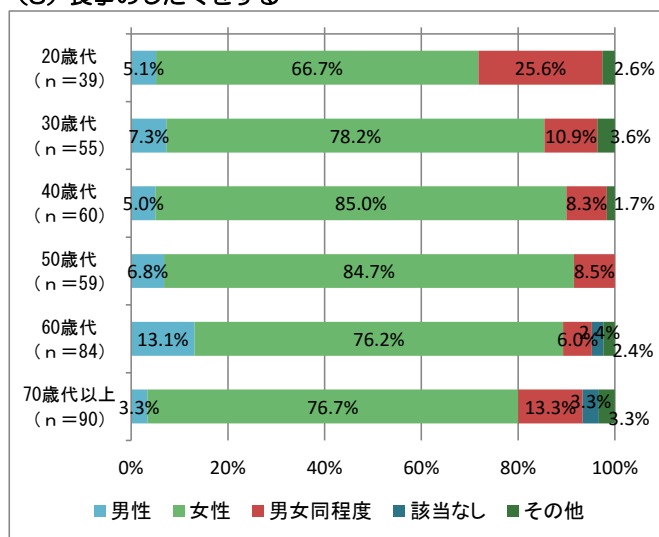
(1) 生活費を得る



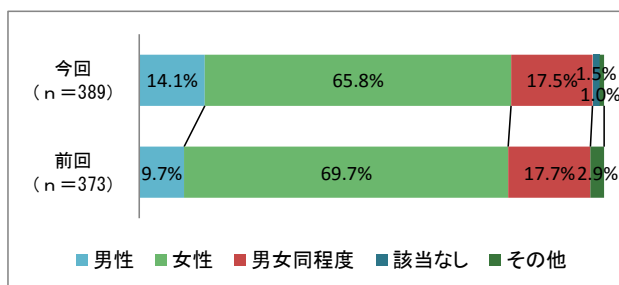
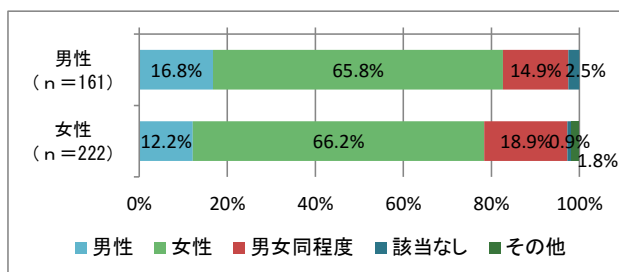
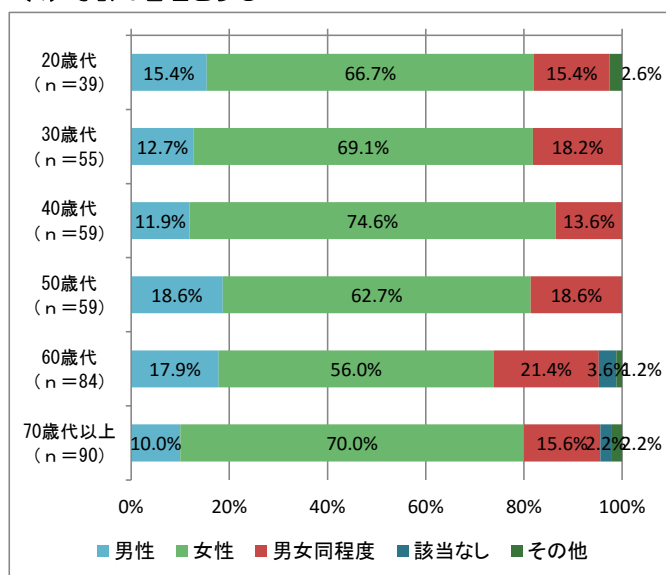
(2) 掃除・洗濯をする



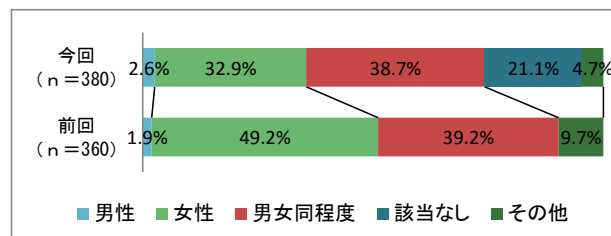
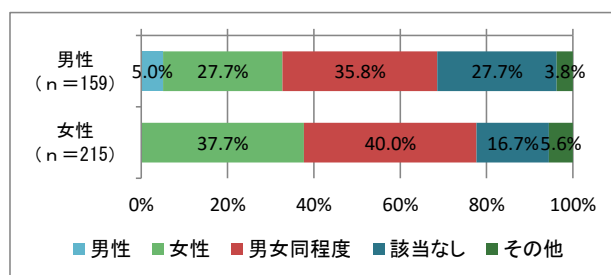
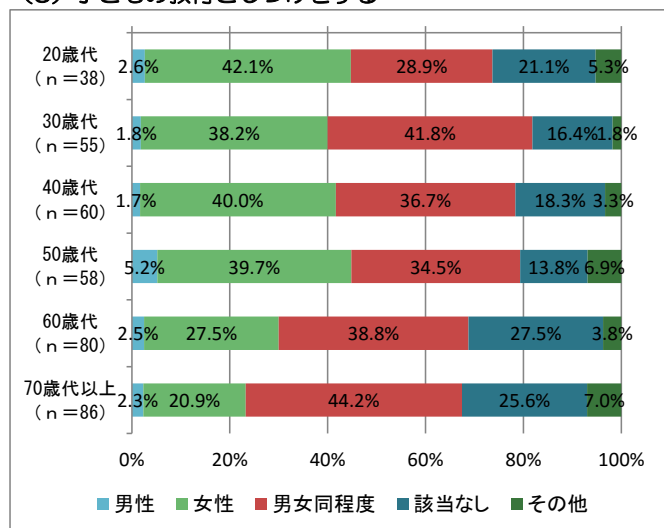
(3) 食事のしたくをする



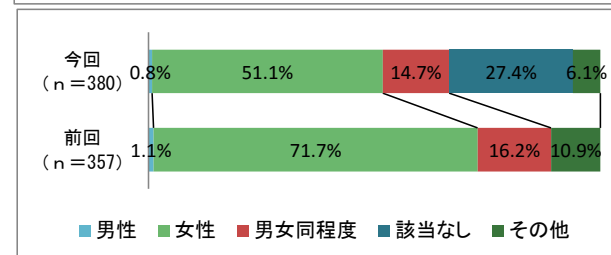
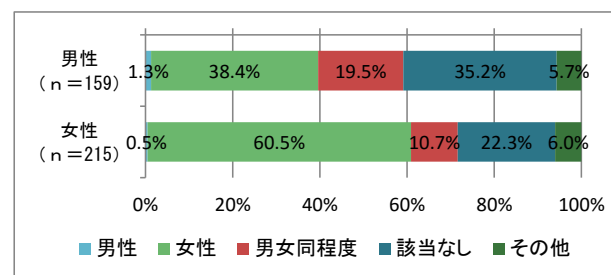
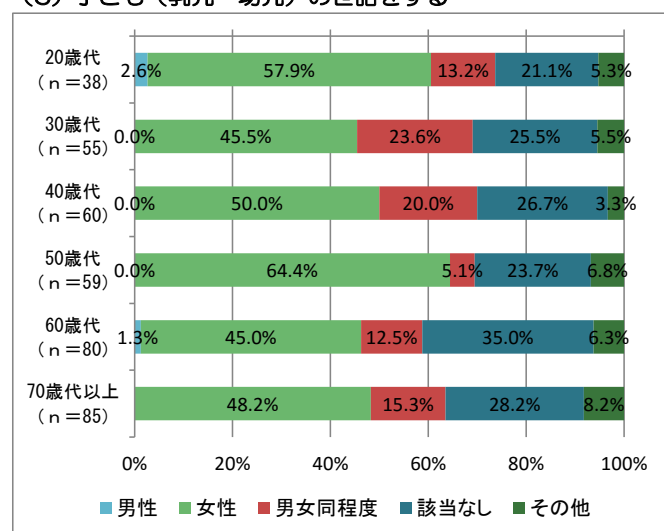
(4) 家計の管理をする



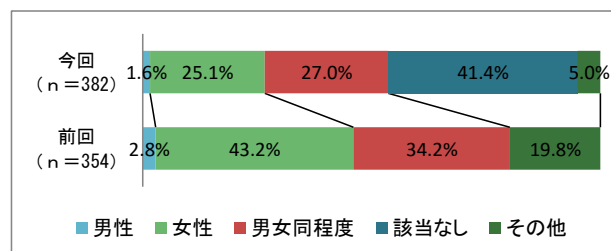
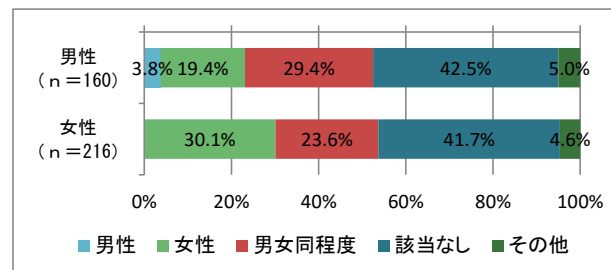
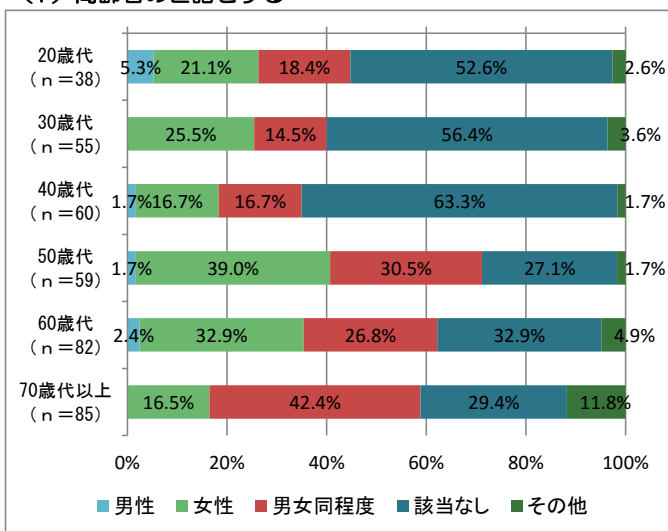
(5) 子どもの教育としつけをする



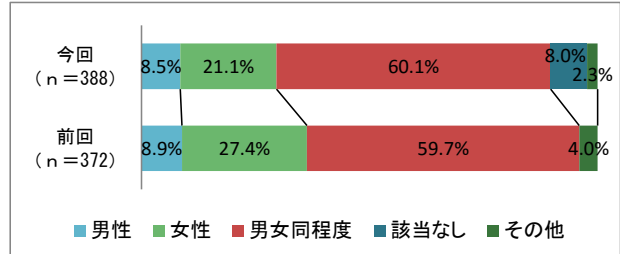
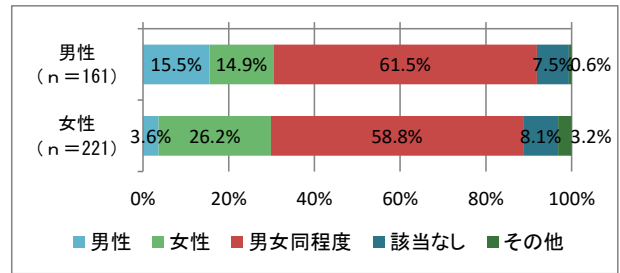
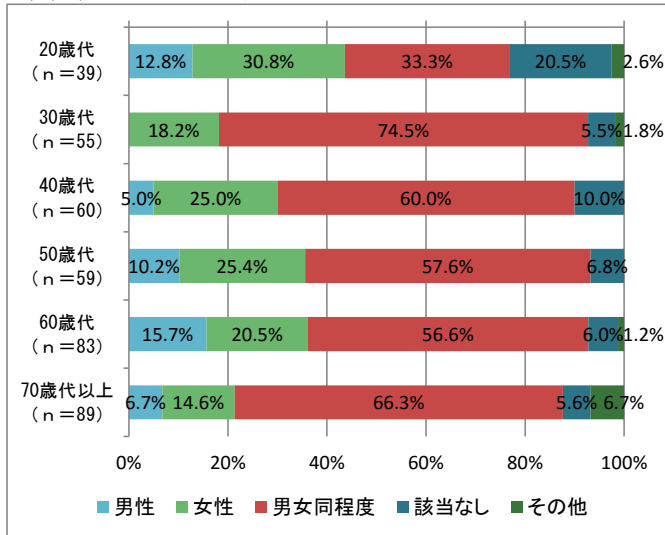
(6) 子ども（乳児・幼児）の世話をする



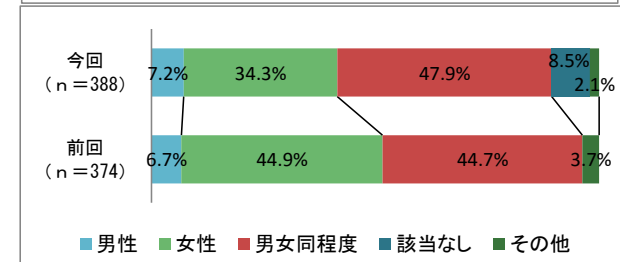
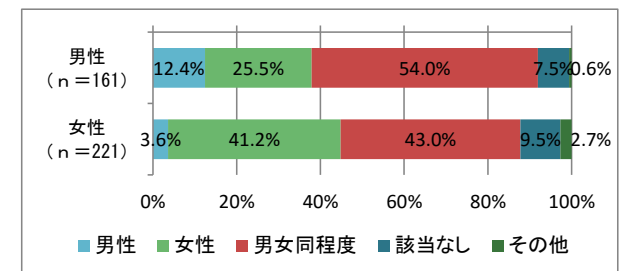
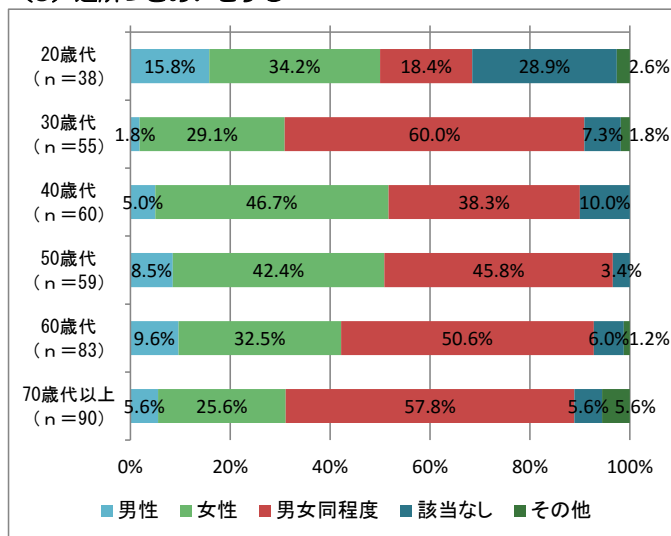
(7) 高齢者の世話をする



(8) 親戚づきあいをする



(9) 近所づきあいをする



問5. (1) から (5) の分野で男女が平等になっていると思いますか。【択一式】

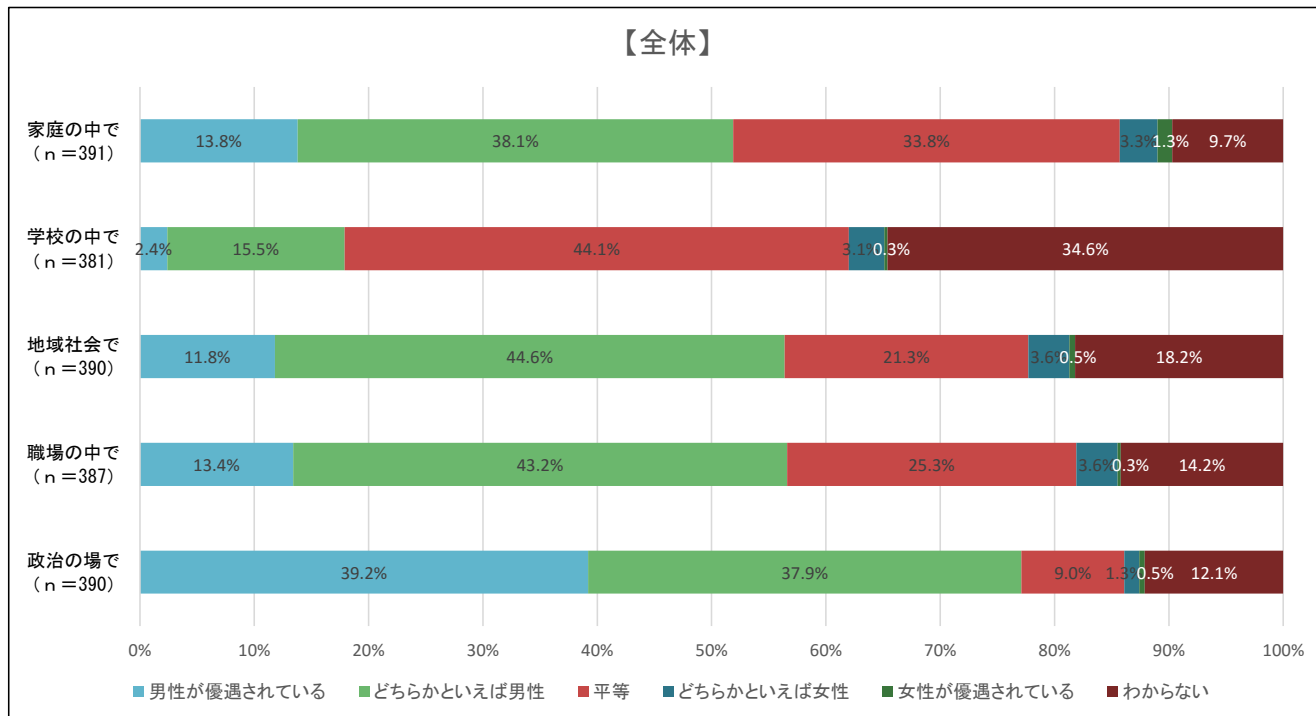
【分析結果】

男女が平等と思うものでは、「学校の中で」が最も多かった。

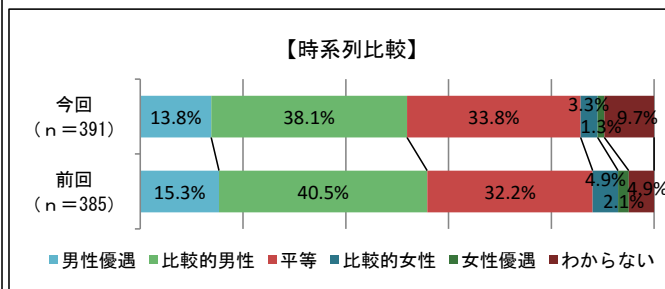
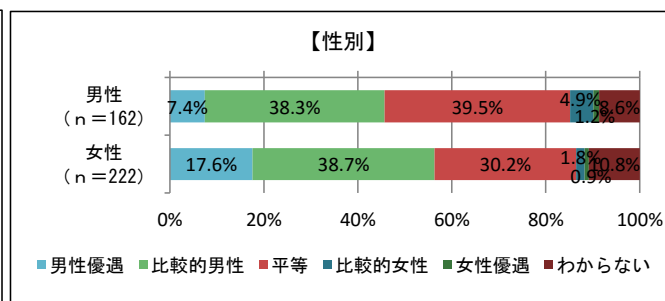
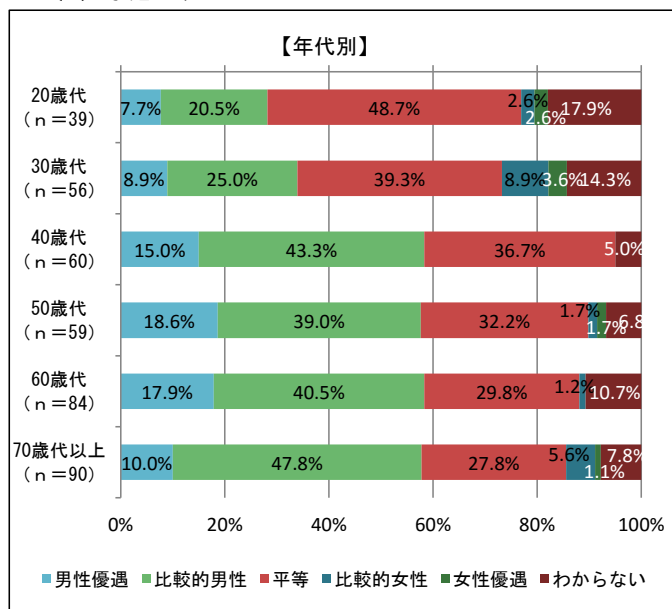
一方、「政治の場で」は、「男性が優遇されている」と答えた割合が多く、「優遇されている」「どちらかといえば優遇されている」を合わせると8割近くであった。また、「家庭の中で」「地域社会の中で」「職場の中で」もそれぞれ男性が優遇されていると答える割合が多かった。

回答者の性別で見ると、全ての項目において女性の回答者が、男性の方が優遇されていると答える割合が多かった。

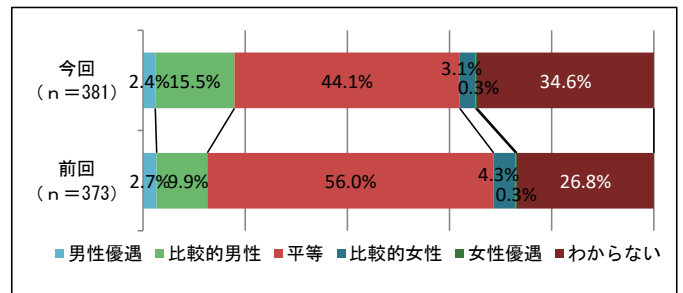
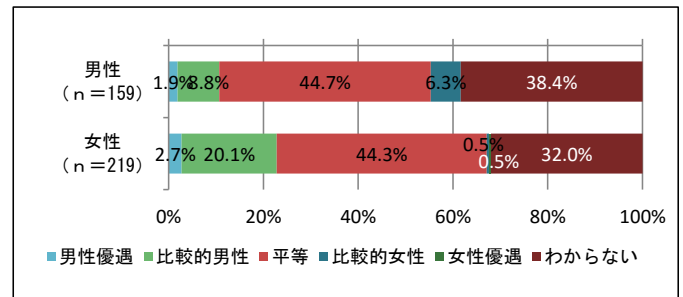
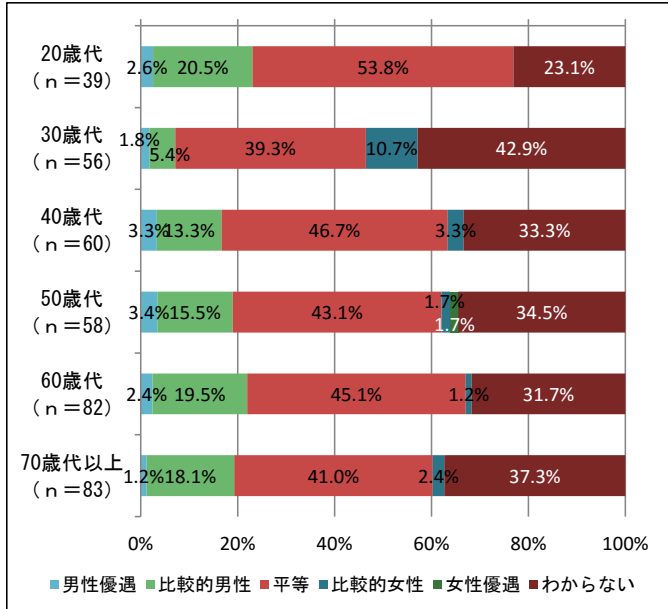
前回調査との比較では、今回の調査の方が「学校の中で」の項目以外は、男性が優遇されていると答える割合は減少した。



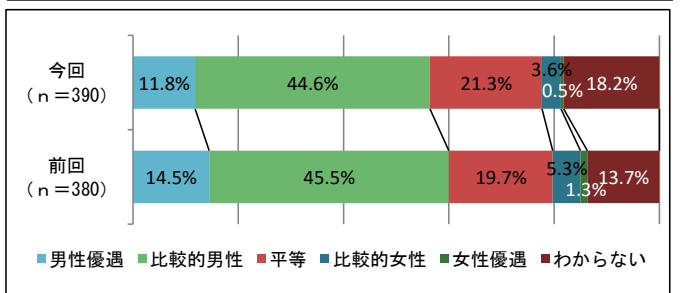
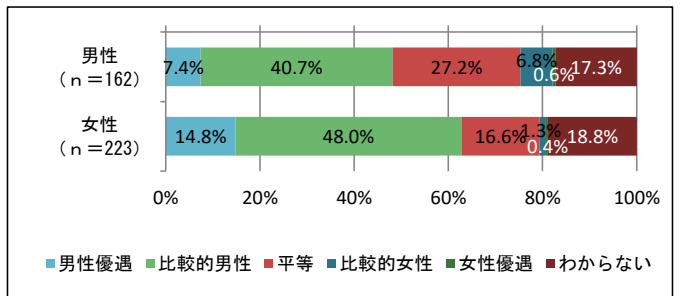
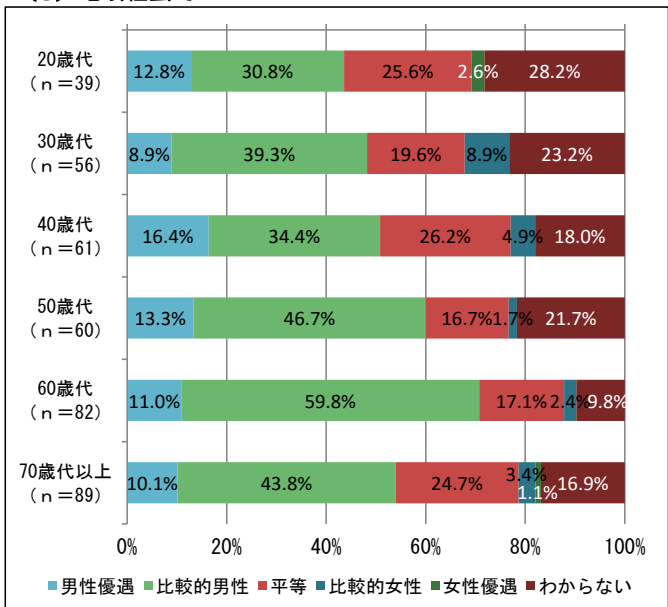
(1) 家庭の中で



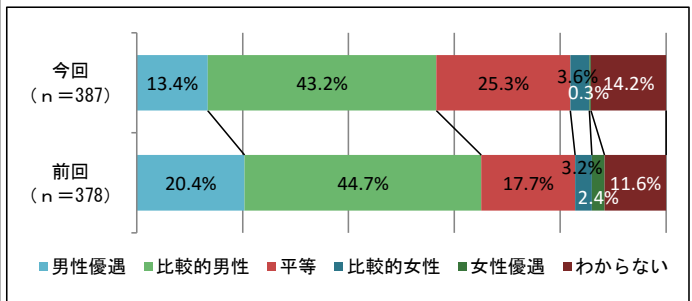
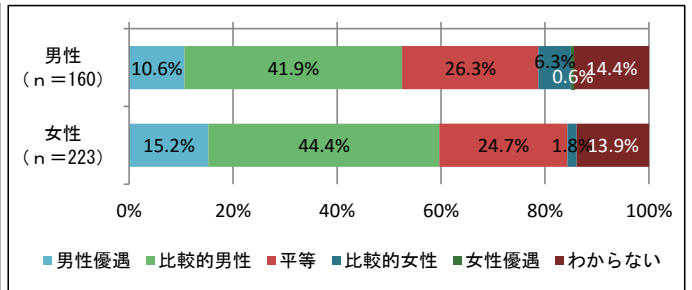
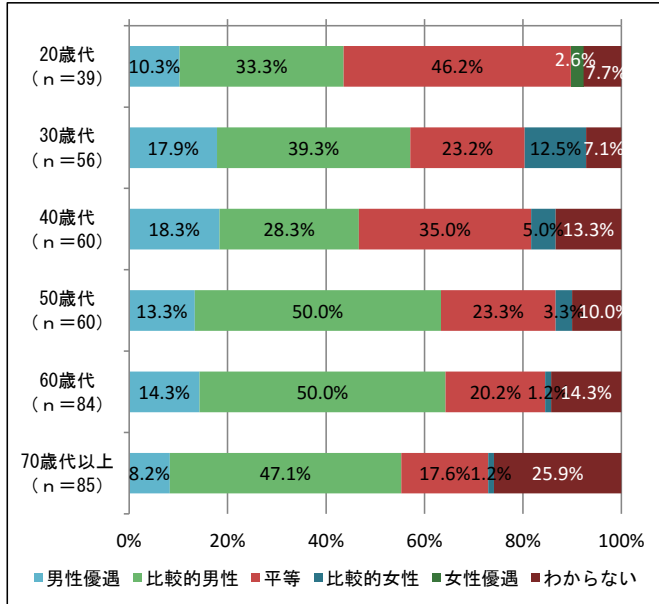
(2) 学校の中で



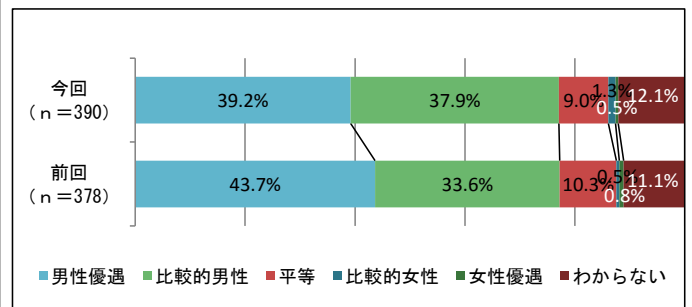
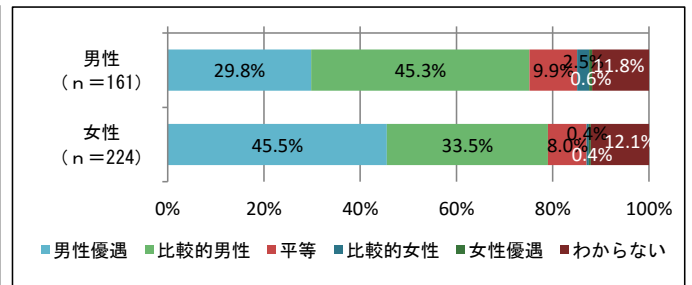
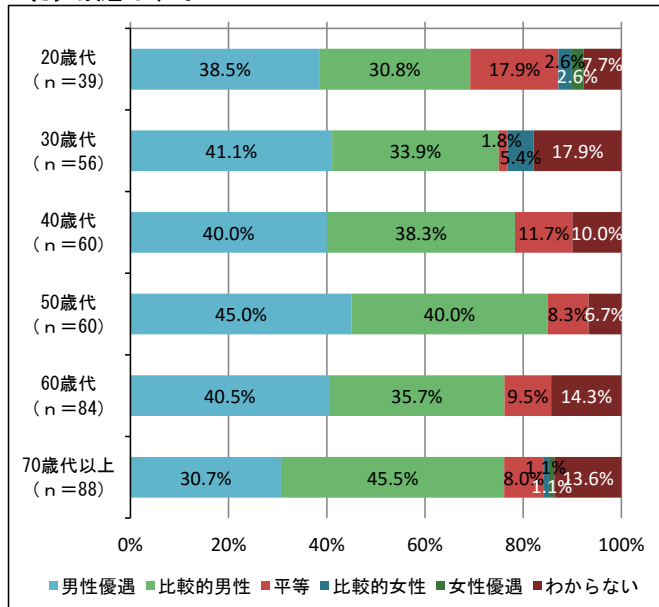
(3) 地域社会で



(4) 職場の中で



(5) 政治の中で



問6. お子さんの教育方針について、どうお考えですか。【択一式】

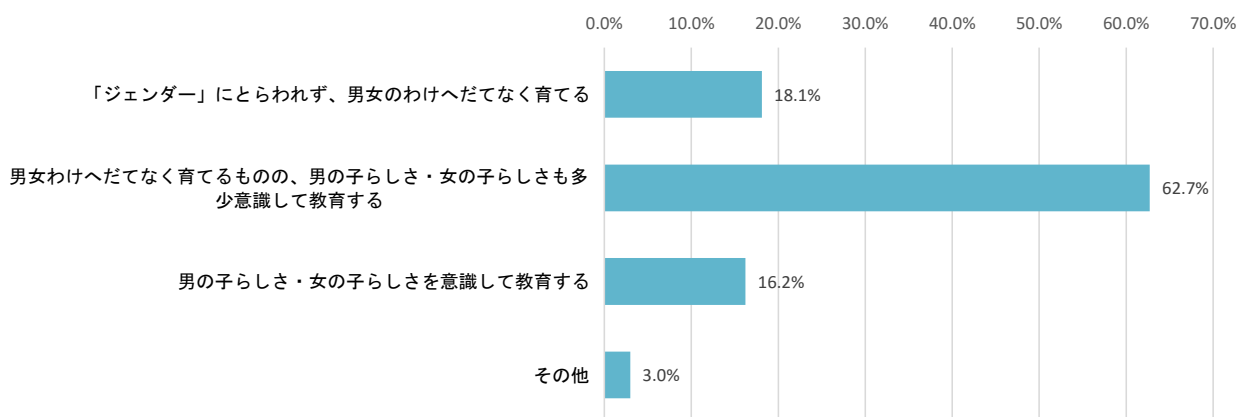
【分析結果】

教育方針では、「男女わけへだてなく育てるものの、男の子らしさ・女の子らしさも多少意識して教育する」が62.7%で最も多かった。

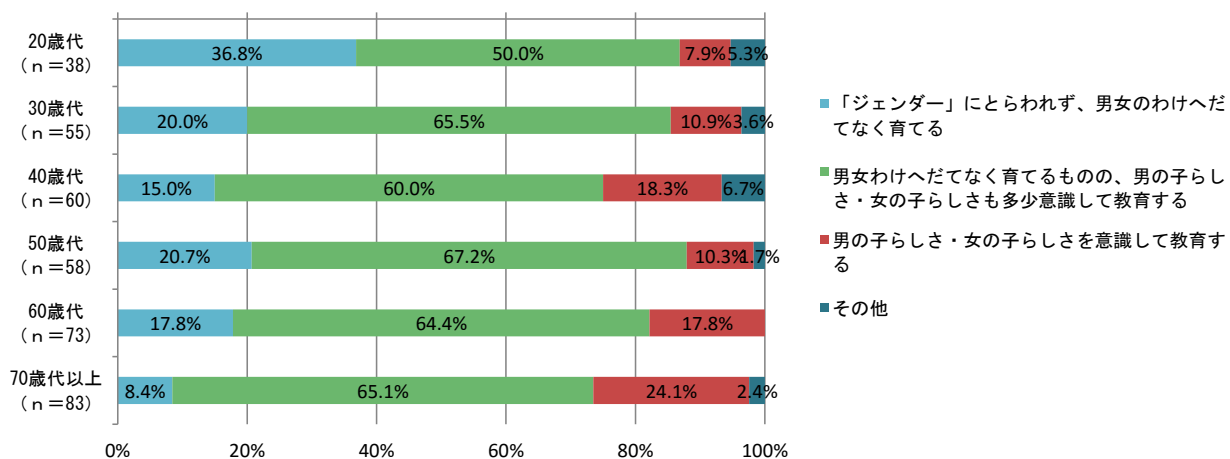
年代別では、20歳代が他の年代と比べ、「『ジェンダー』にとらわれず、男女のわけへだてなく育てる」と答えた割合が多かった。

回答者の性別では、女性の回答者が、「『ジェンダー』にとらわれず、男女のわけへだてなく育てる」、「男女わけへだてなく育てるものの、男の子らしさ・女の子らしさも多少意識して教育する」と答えた割合が多かった。

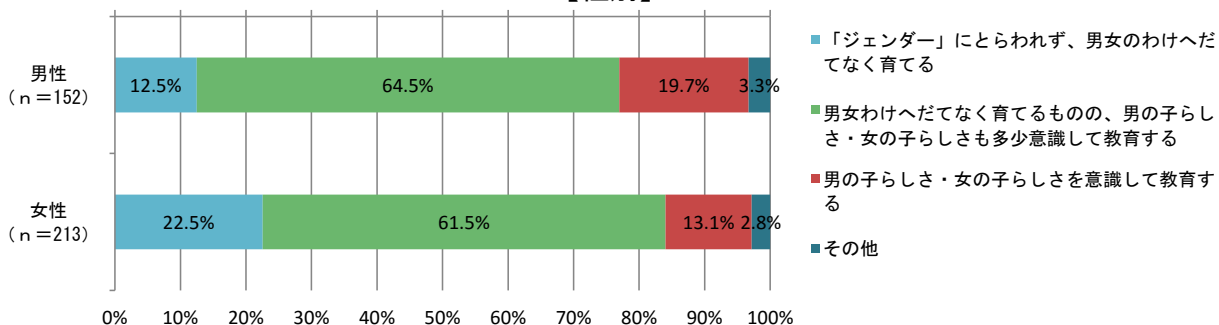
【全体】(n=370)



【年代別】



【性別】

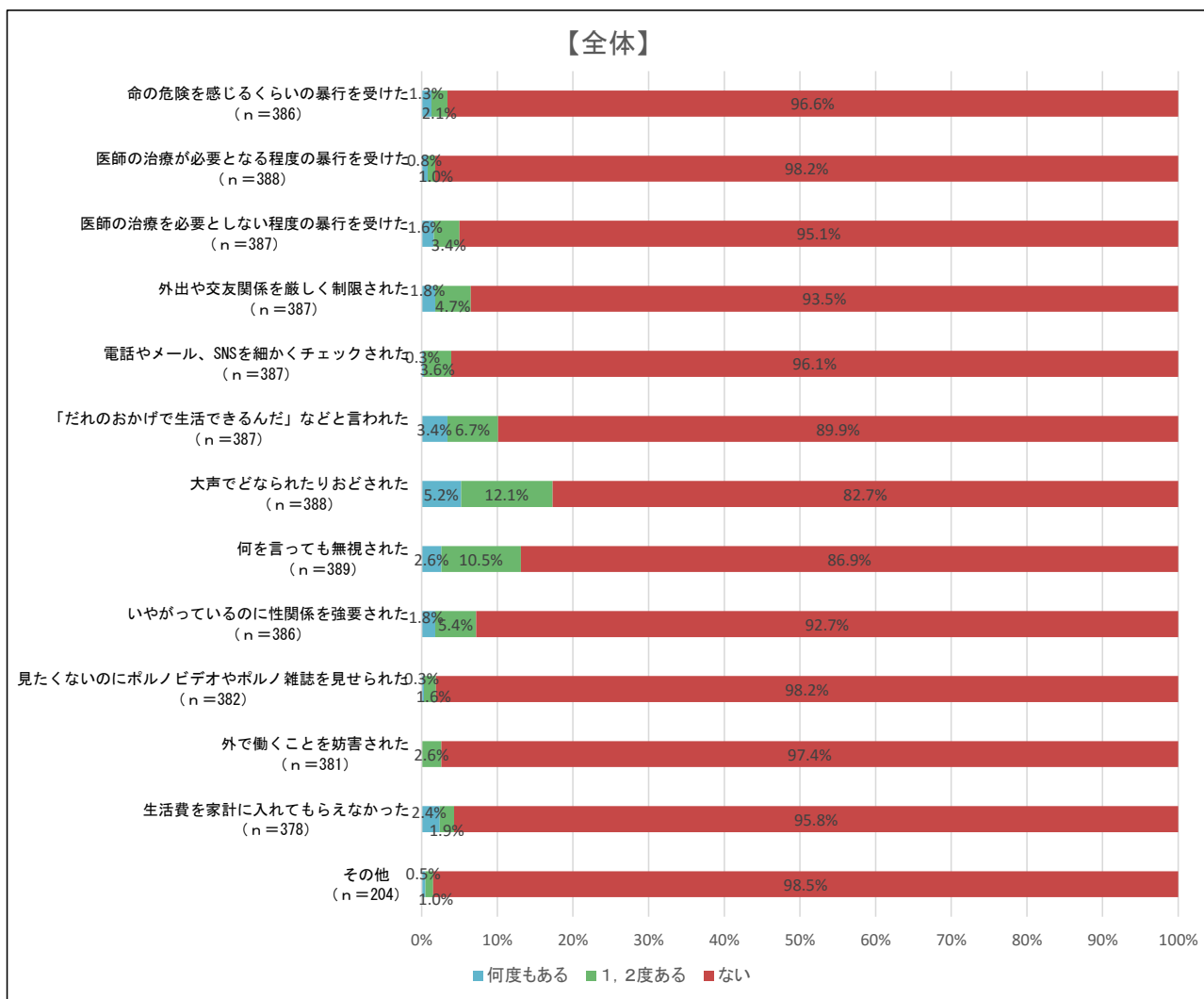


問7. あなたは、パートナーから（１）～（１３）のようなことをされる（された）ことがありますか。【複数回答式】

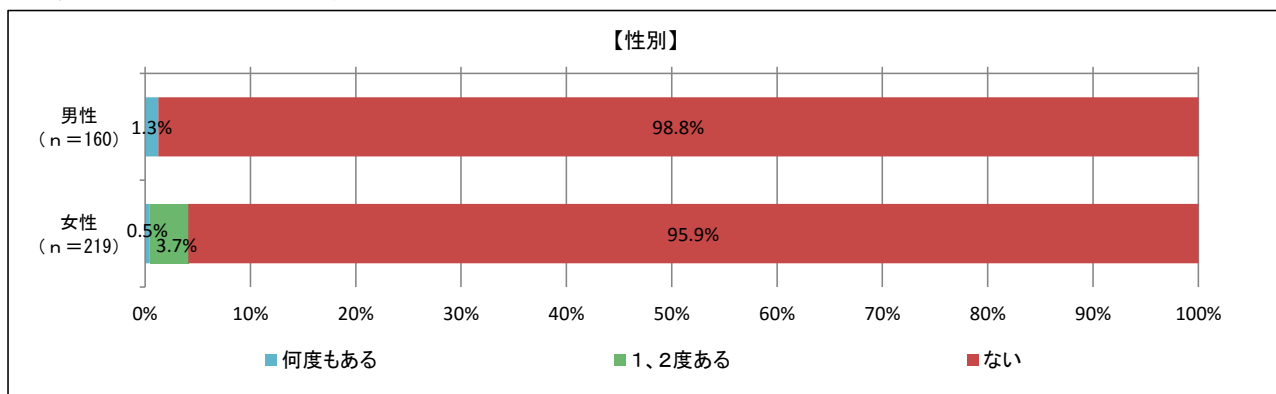
【分析結果】

パートナーからされたこととして最も多かったのは、「大声でどなられたりおどされた」で「何度もある」が5.2%、「1、2度ある」が12.1%であった。ついで多かったのは、「『だれのおかげで生活できるんだ』などと言われた」と「何を言っても無視された」だった。

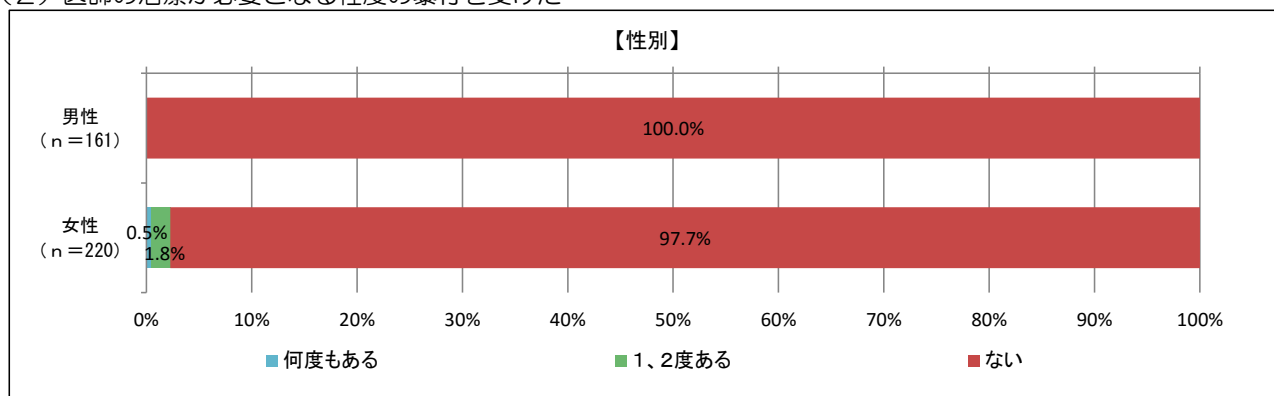
性別で見ると、女性の方が訴える割合が多かったが、男性が訴える項目もあった。



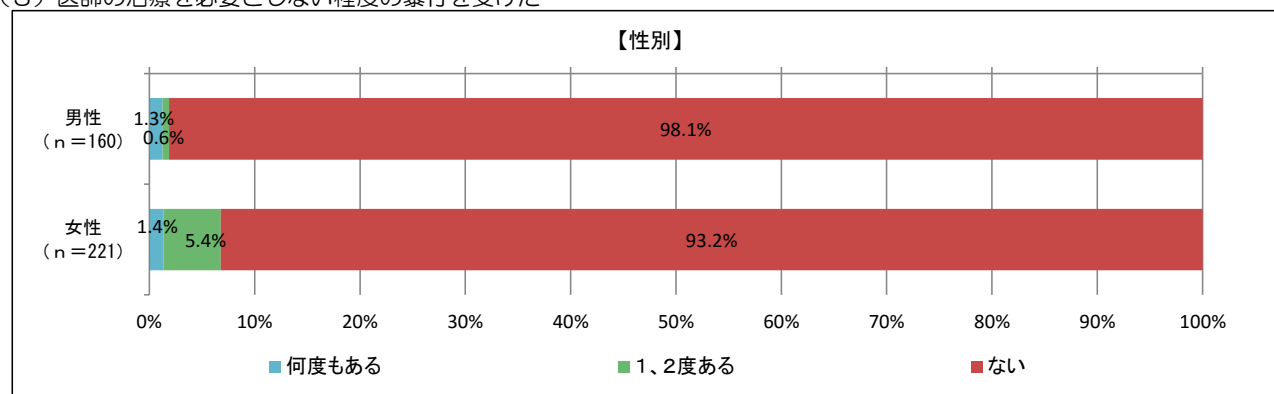
（１）命の危険を感じるくらいの暴行を受けた



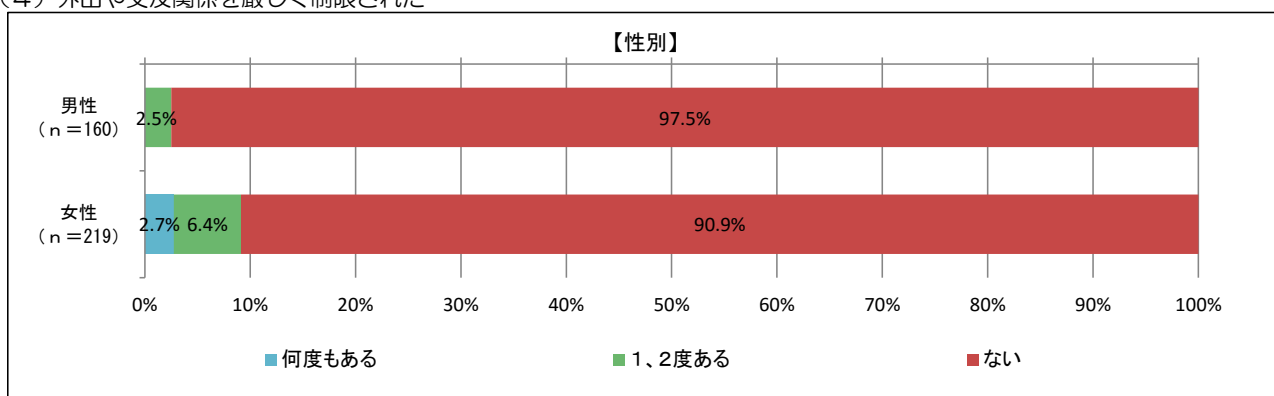
(2) 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた



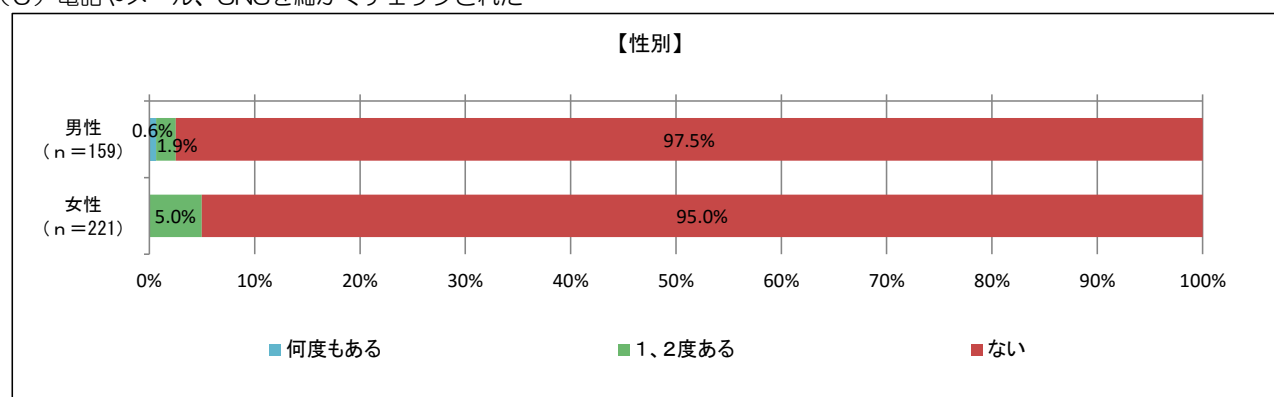
(3) 医師の治療を必要としない程度の暴行を受けた



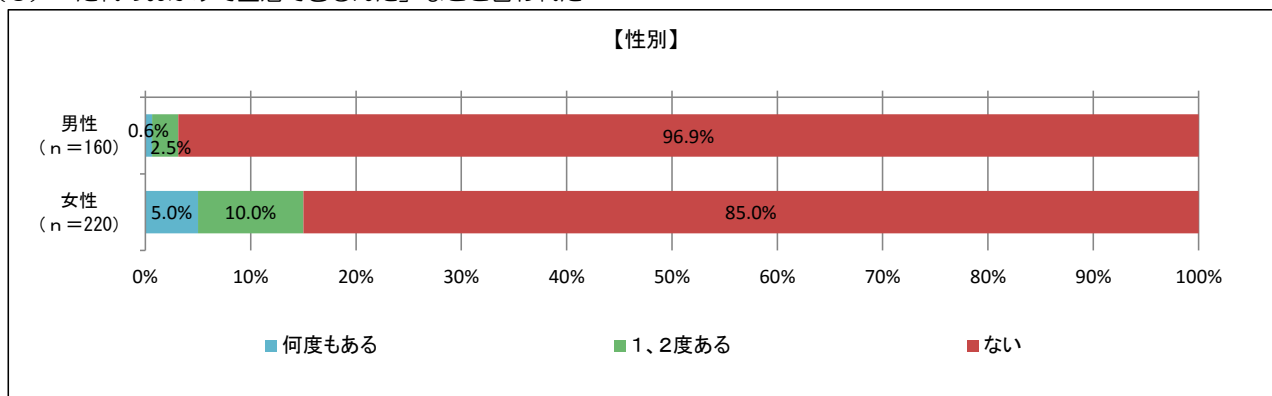
(4) 外出や交友関係を厳しく制限された



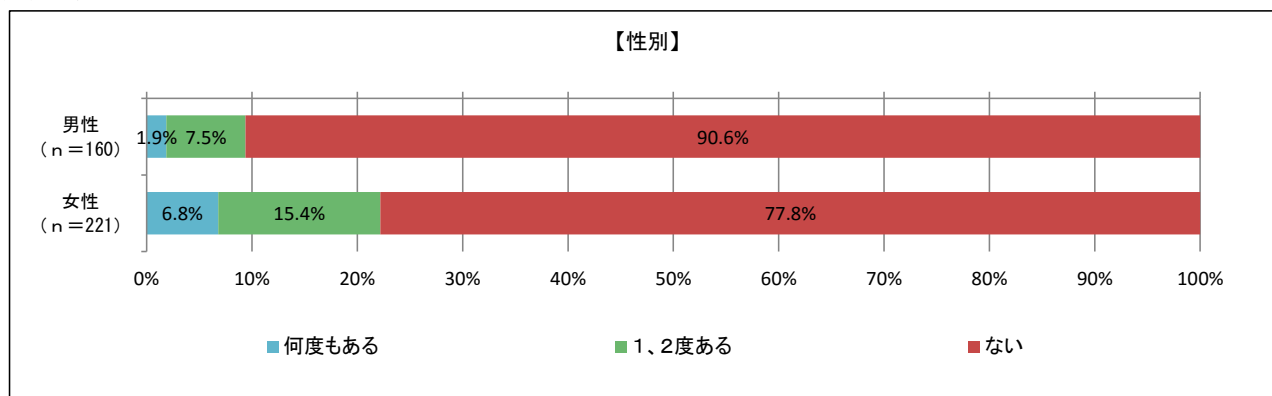
(5) 電話やメール、SNSを細かくチェックされた



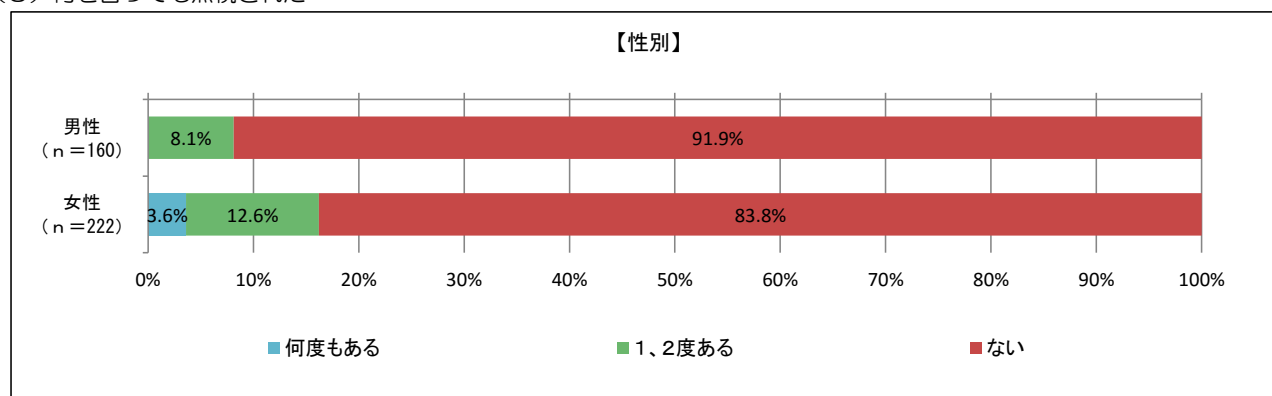
(6) 「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われた



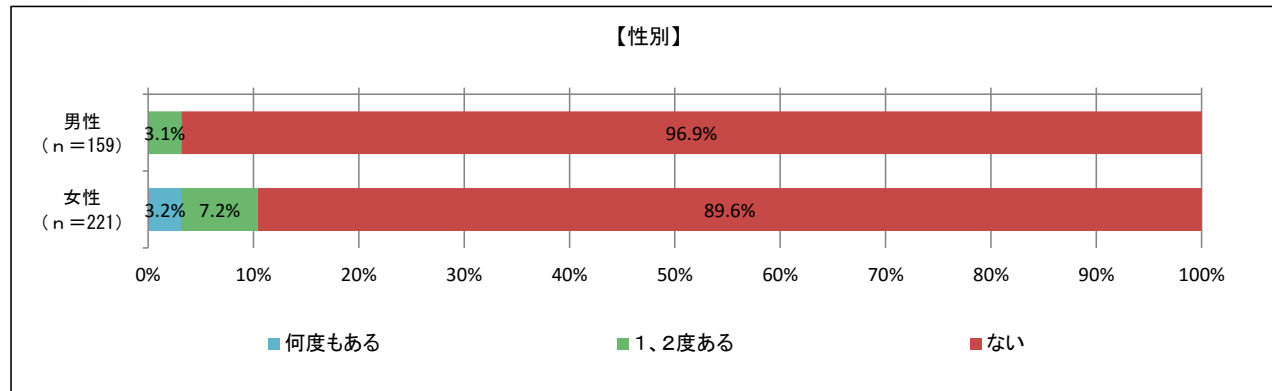
(7) 大声でどなられたりおどされた



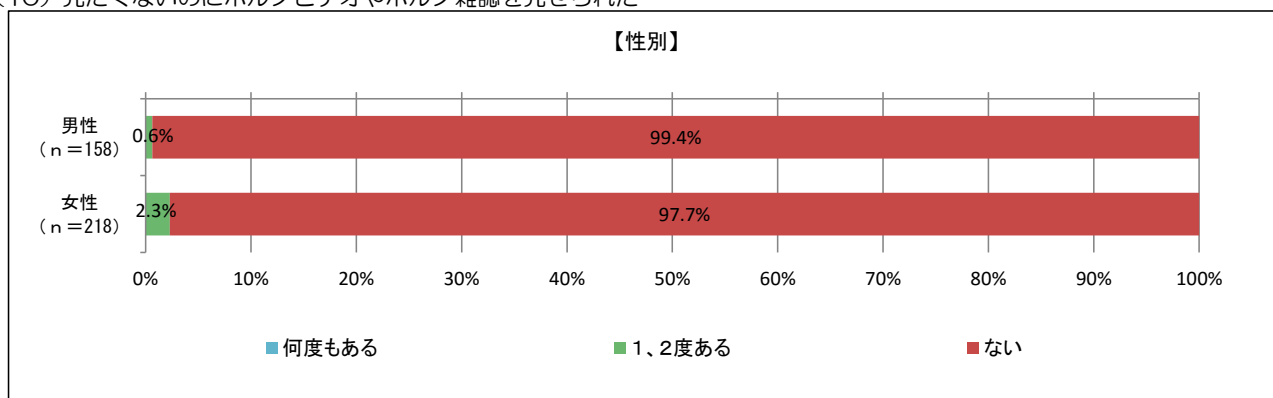
(8) 何を言っても無視された



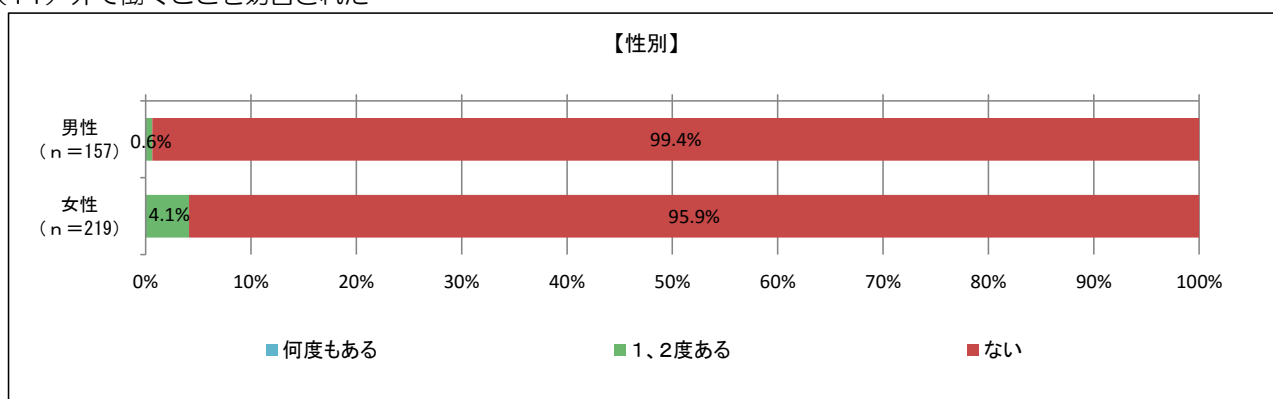
(9) いやがっているのに性関係を強要された



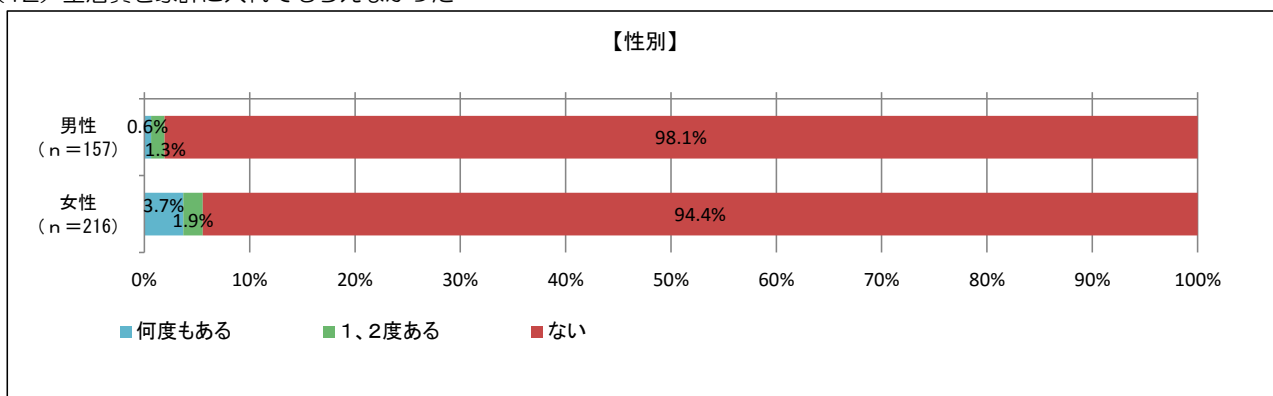
(10) 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた



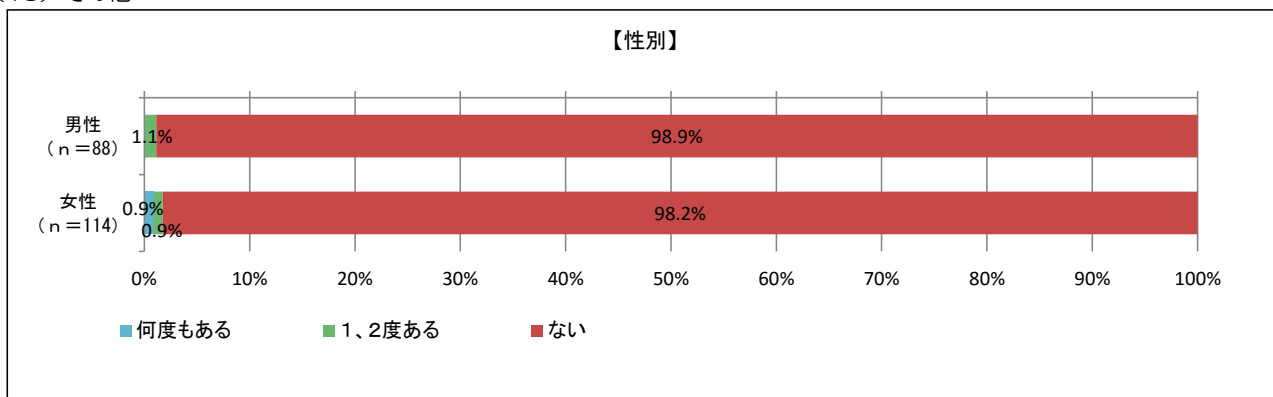
(11) 外で働くことを妨害された



(12) 生活費を家計に入れてもらえなかった



(13) その他

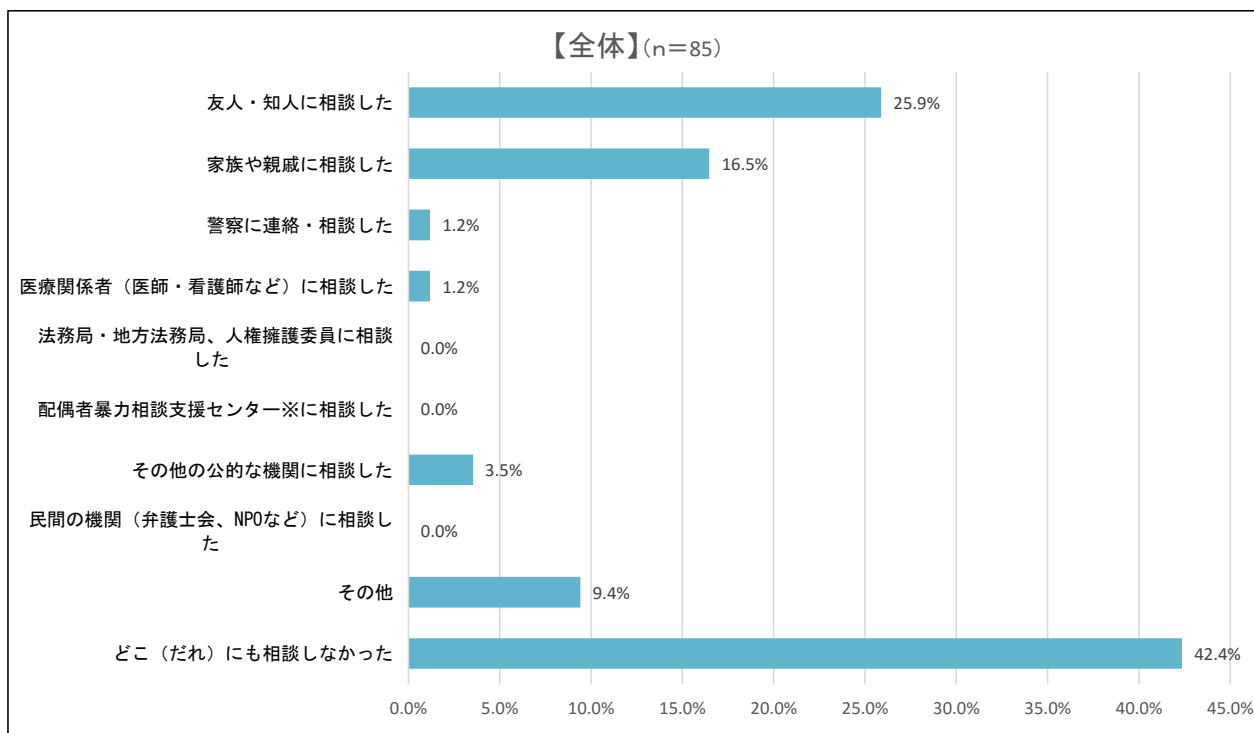


問8. 暴力を受けたことについて、誰かに相談しましたか。【複数回答式】

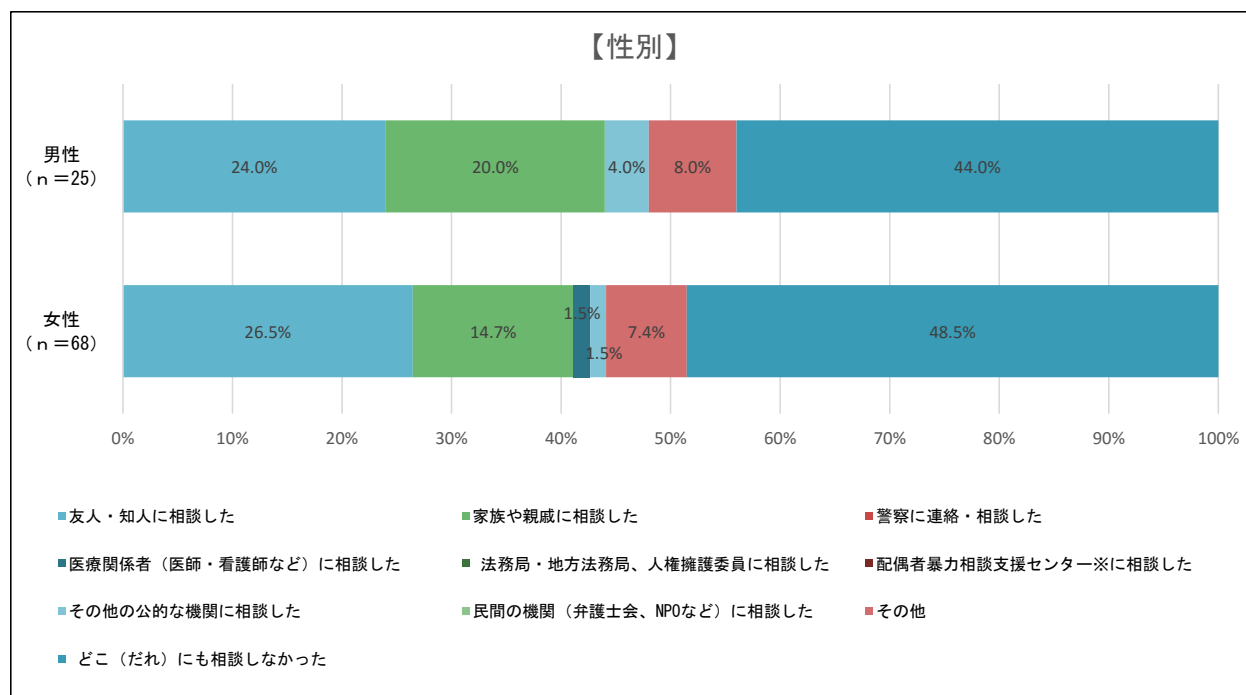
※問7で1項目以上「何度もある」または「1、2度ある」と回答した方のみ

【分析結果】

暴力の相談では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が42.4%で最も多かった。次に多かったのは「友人・知人に相談した」25.9%、「家族や親戚に相談した」16.5%であった。



※愛媛県男女共同参画センター、愛媛県福祉総合支援センター・



問9. どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

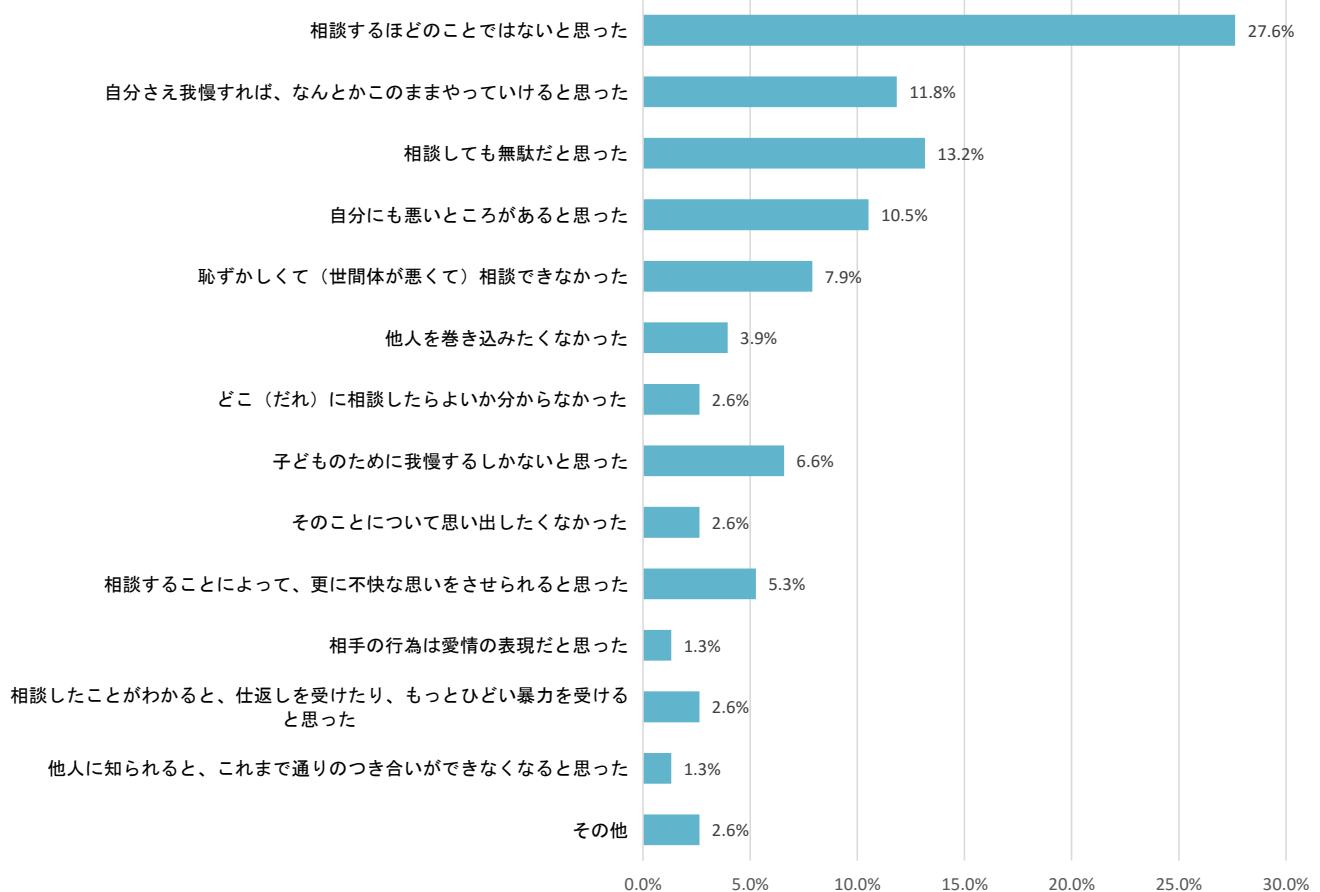
【複数回答式】

※問8で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方のみ

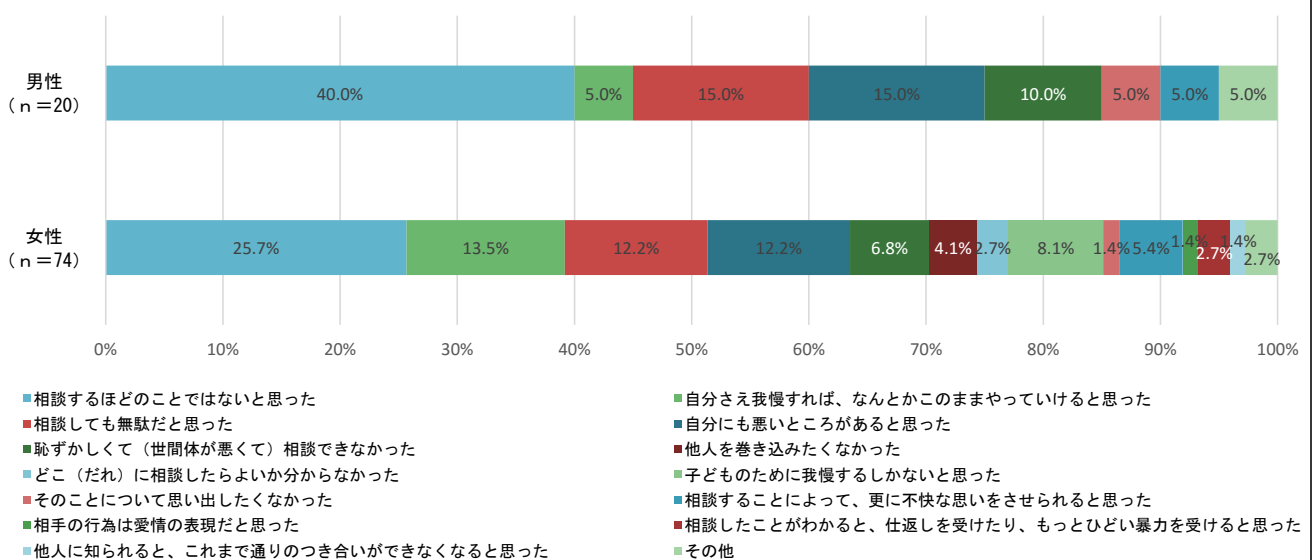
【分析結果】

相談しなかった理由として、「相談するほどのことではないと思った」が27.6%で最も多かった。特に男性にこの回答が多かった。

【全体】(n=76)



【性別】

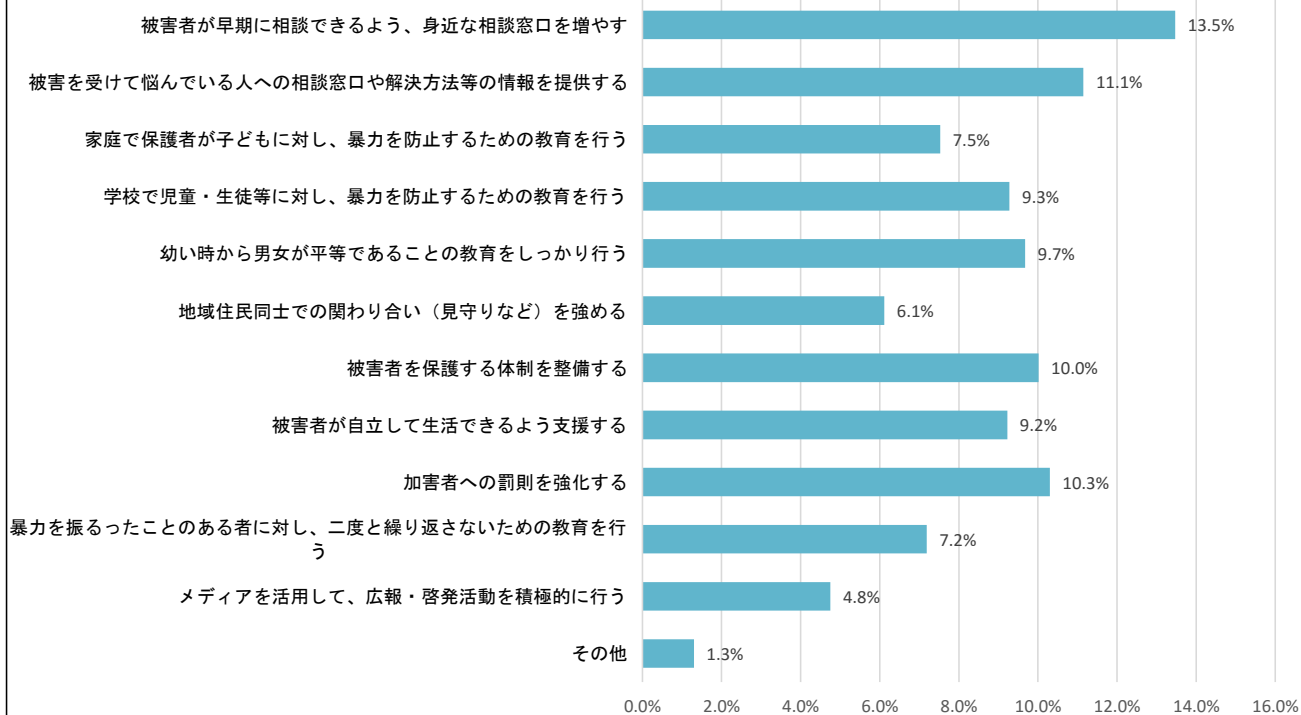


問10. 配偶者からの暴力をはじめとする男女間における暴力を防止するためには、 どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答式】

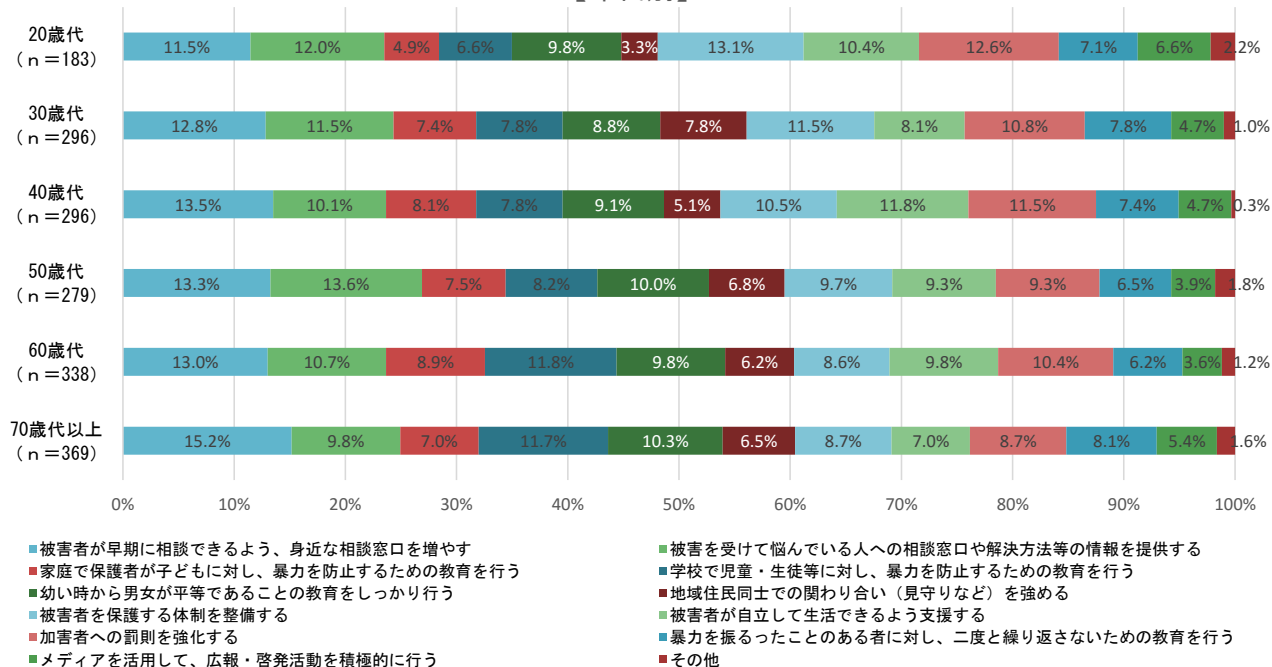
【分析結果】

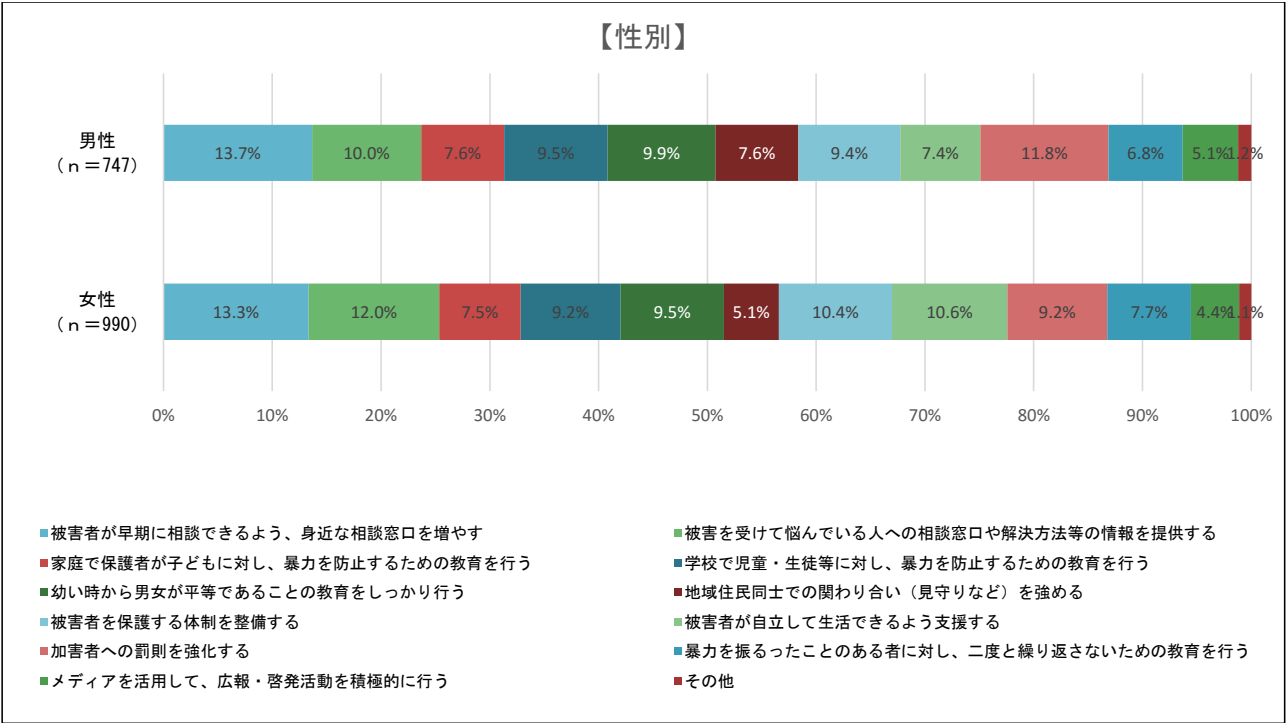
暴力防止に必要なこととして、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が13.5%で最も多かった。次に多かったのは、「被害を受けて悩んでいる人への相談窓口や解決方法等の情報を提供する」11.1%、「加害者への罰則を強化する」10.3%、「被害者を保護する体制を整備する」10%の順であった。年代、性別での比較ではほとんど差はなかった。

【全体】(n=1,767)



【年代別】





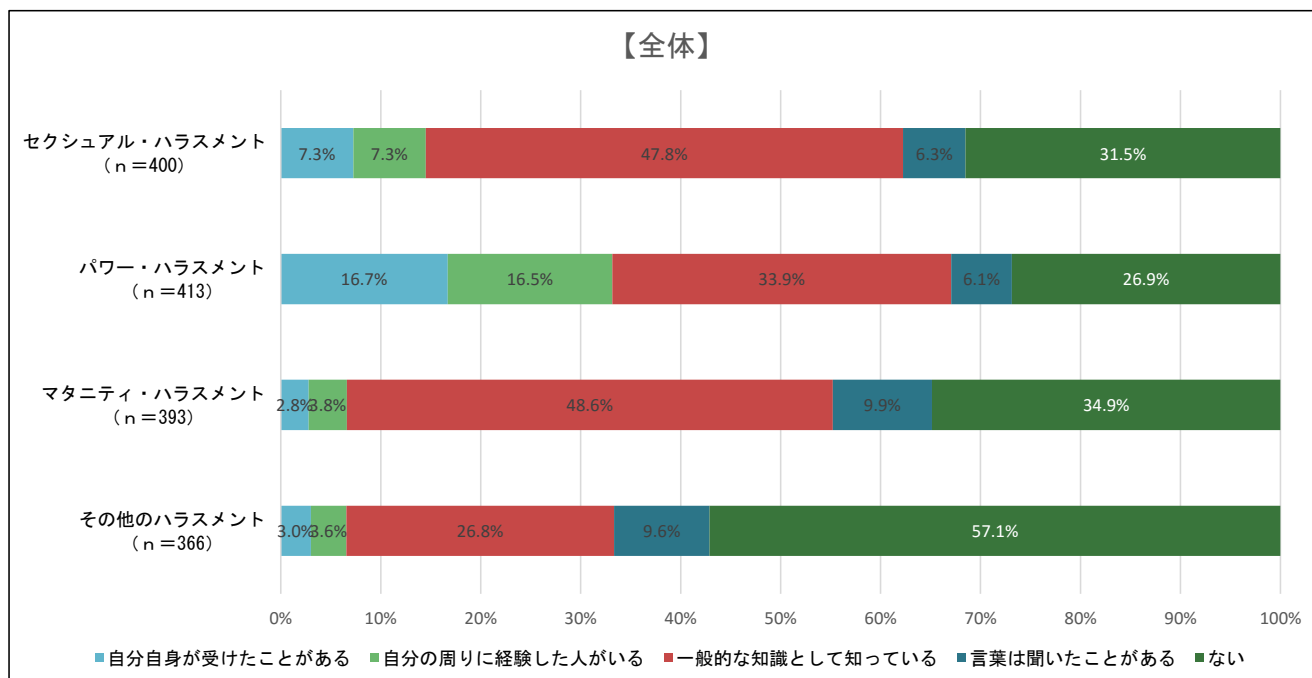
問11. (1) から (4) のハラスメントを経験したり、見聞きしたりしたことはありますか。【複数回答式】

【分析結果】

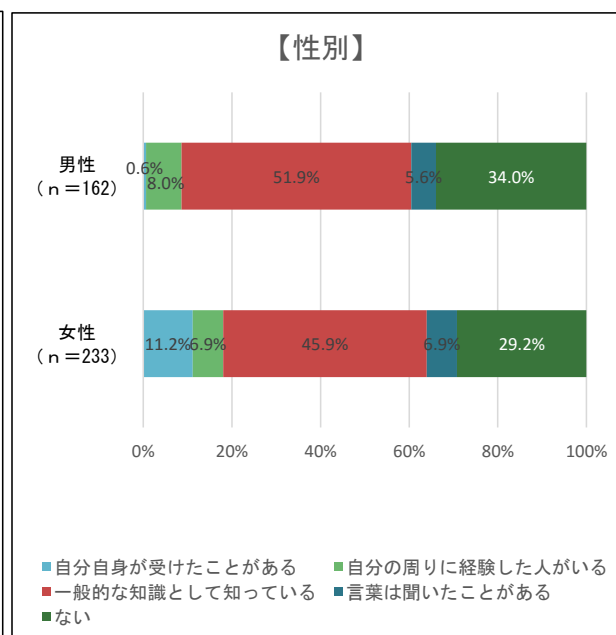
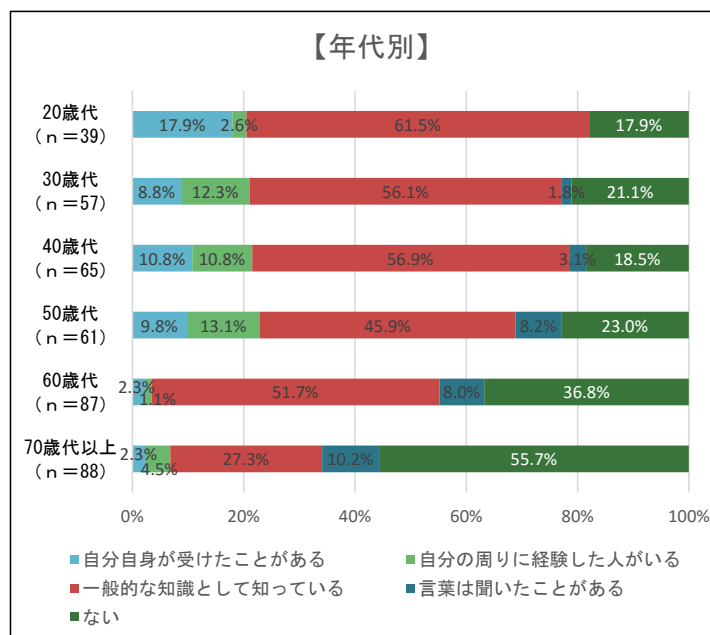
ハラスメントについて自分自身が受けたり、周りに受けた人がいると答えた割合は、「パワー・ハラスメント」が33.2%と最も高かった。

年代別では、20～50歳代と60歳代以上で自分自身が受けたり、周りに受けた人がいると答えた割合に差が見られた。

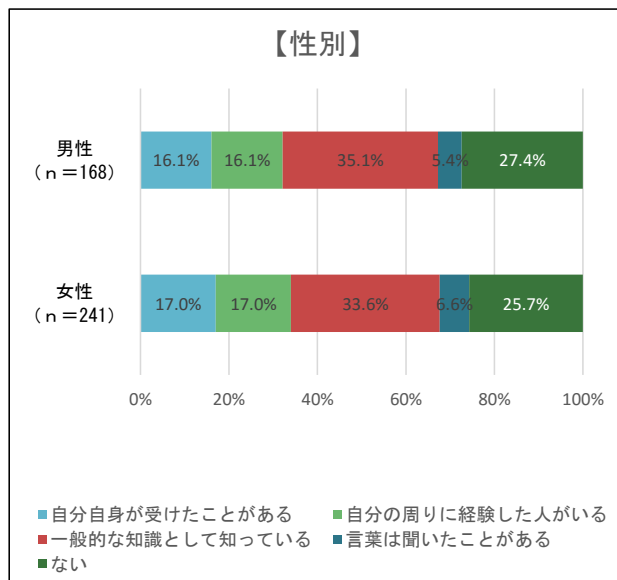
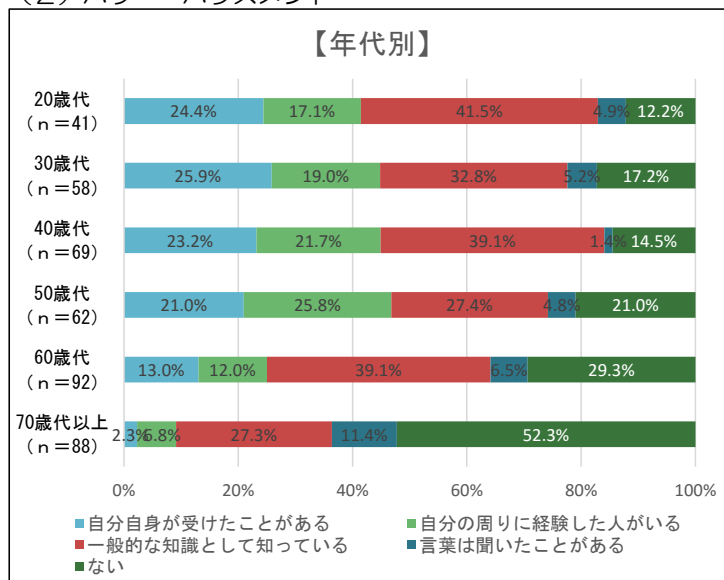
性別では、「セクシュアル・ハラスメント」「マタニティ・ハラスメント」において自分自身が受けたり、周りに受けた人がいると答えた割合が男性よりも女性の方が高かった。



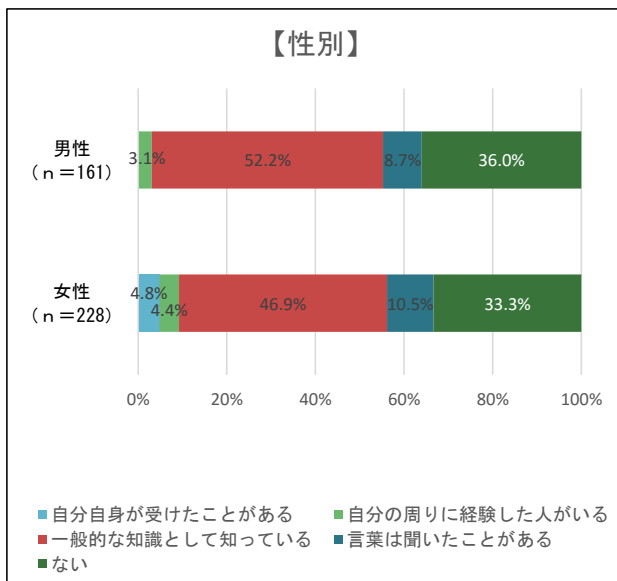
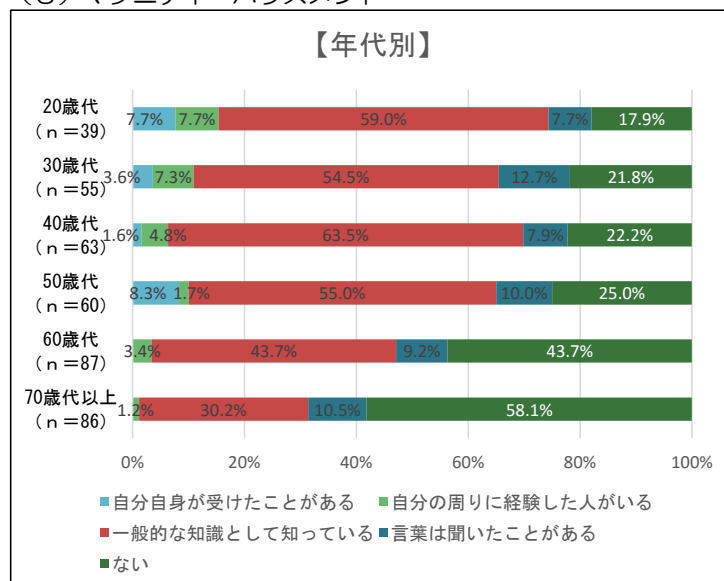
(1) セクシュアル・ハラスメント



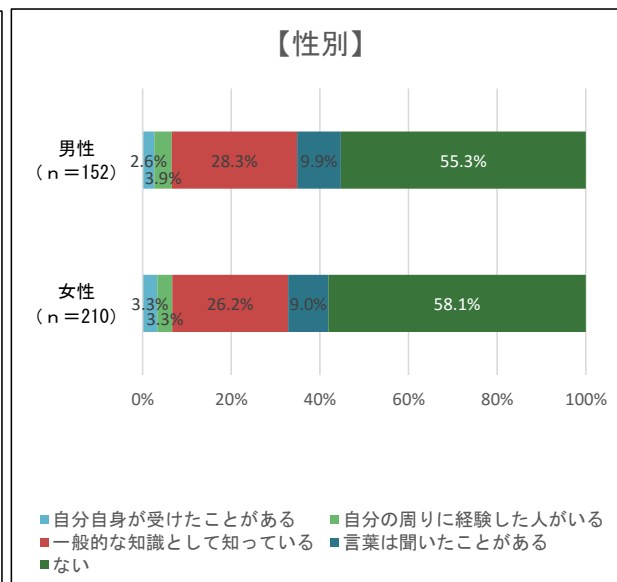
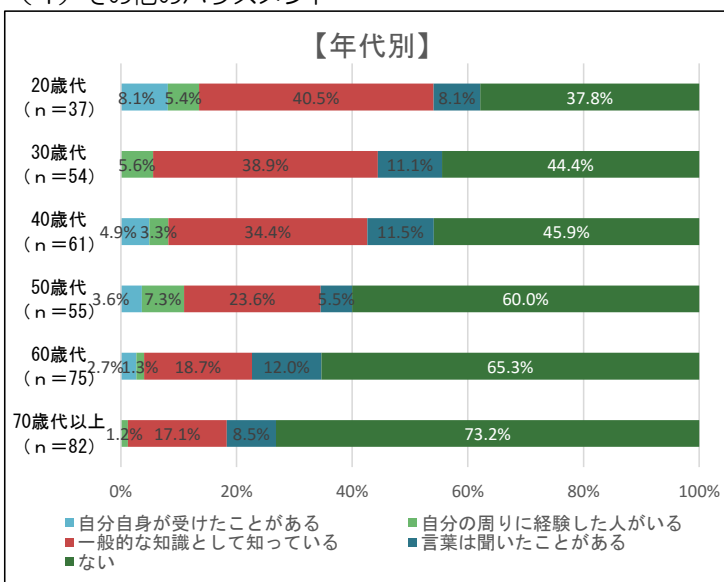
(2) パワー・ハラスメント



(3) マタニティ・ハラスメント



(4) その他のハラスメント

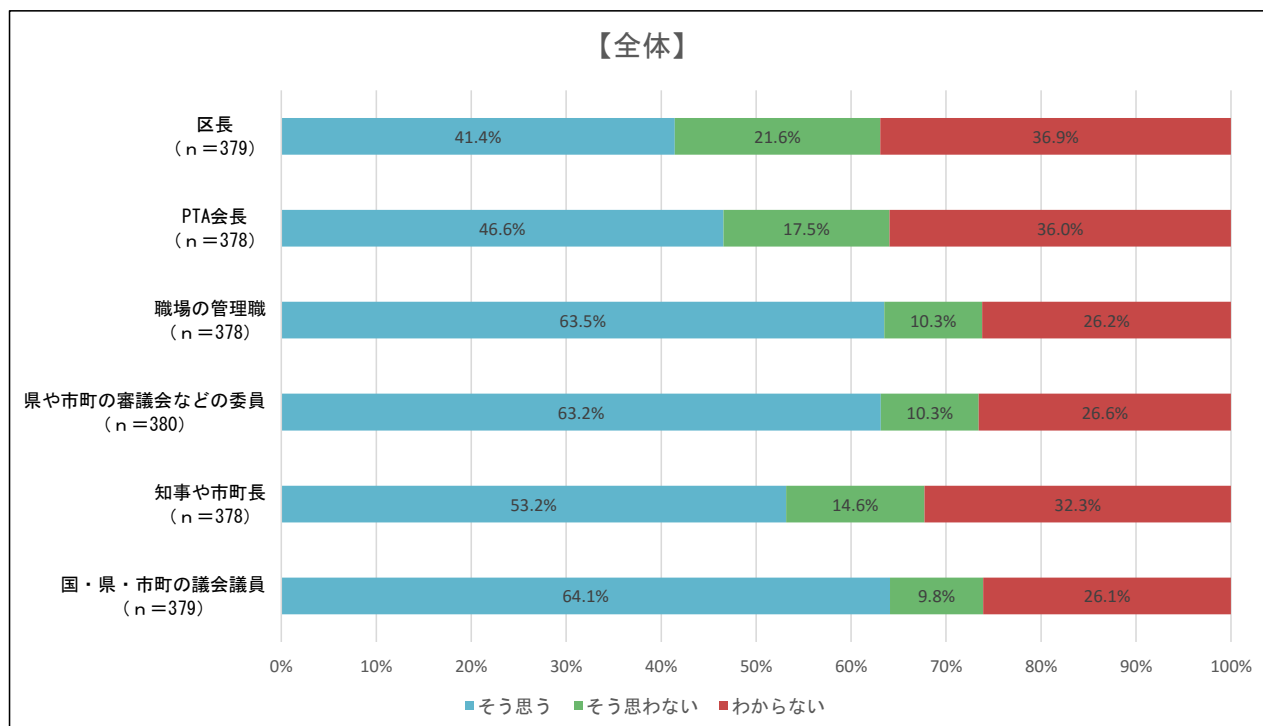


問12. (1) から (6) の役職や公職に女性がもっとついた方がよいと思いますか。【択一式】

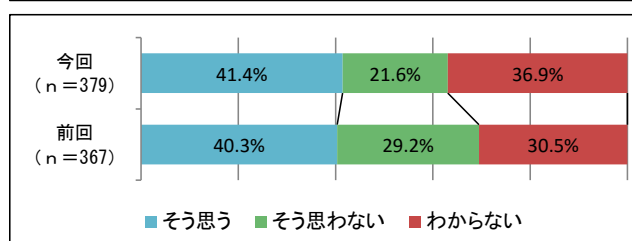
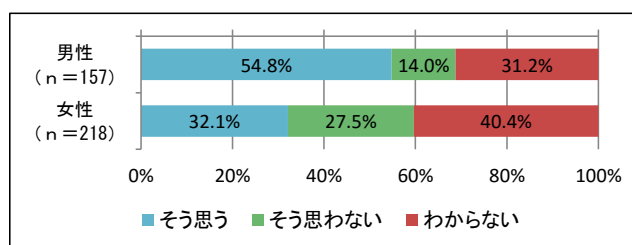
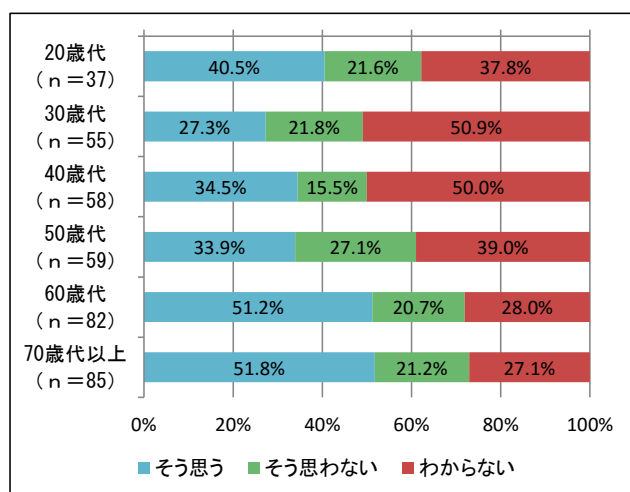
【分析結果】

女性がもっとついた方がよい役職等では、「国・県・市町の議会議員」が64.1%と最も多く、ついで「職場の管理職」63.5%、「県や市町の審議会などの委員」63.2%となった。

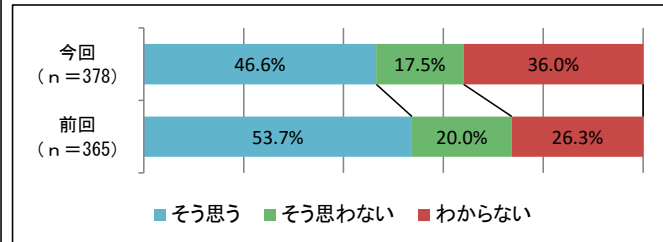
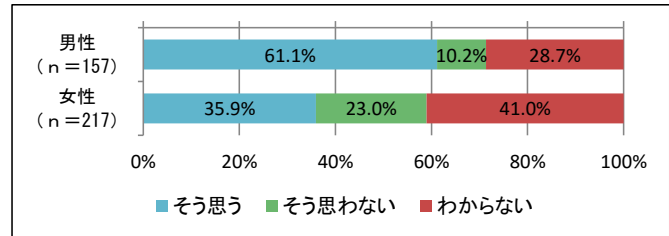
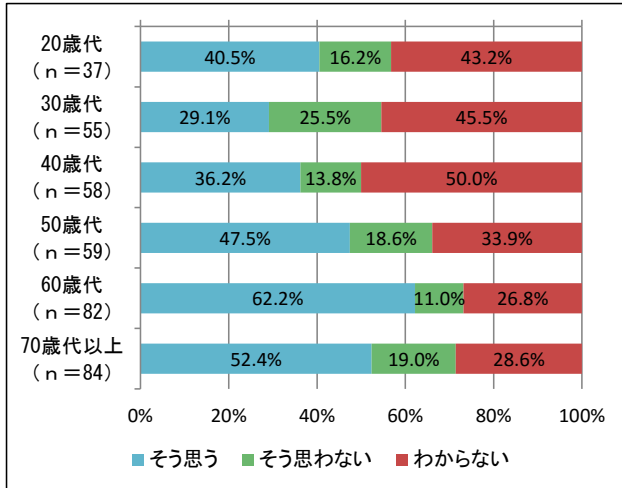
性別では、どの役職・公職においても、女性より男性の方が女性がもっとついた方がよいと思っている割合が多い結果となった。



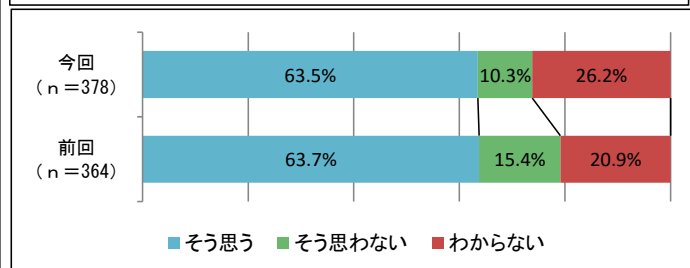
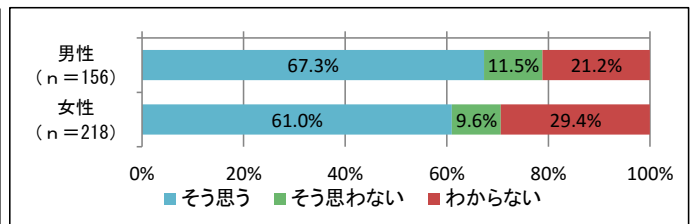
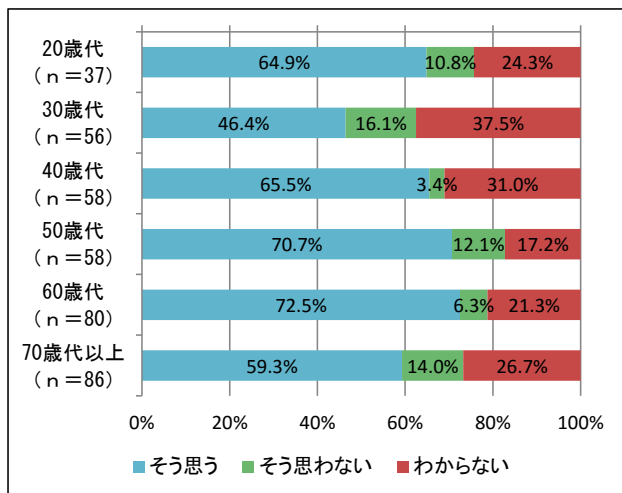
(1) 区長 (自治会長)



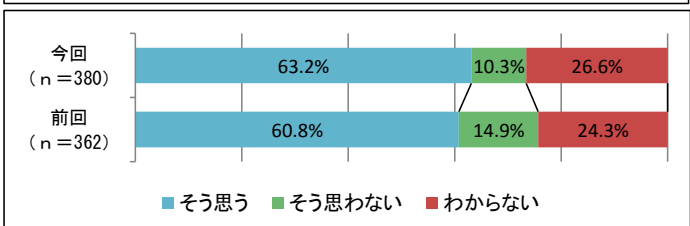
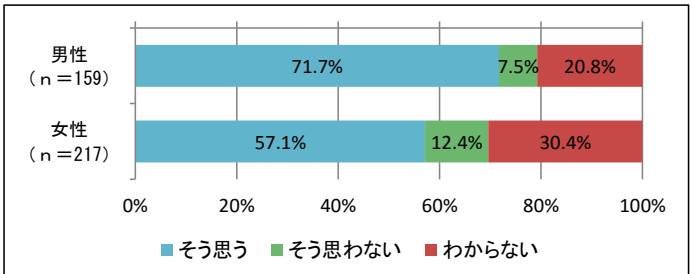
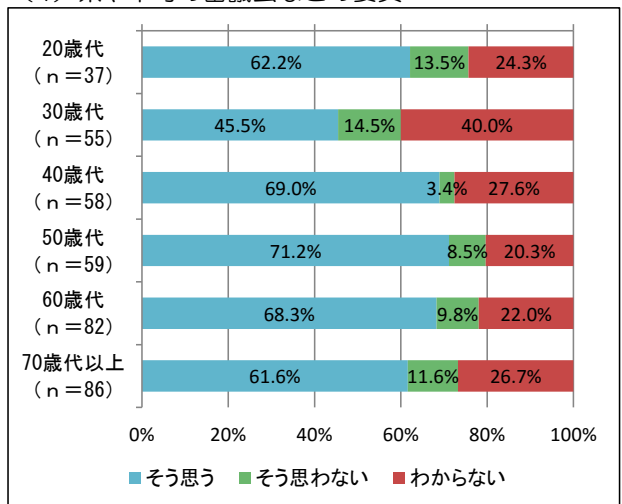
(2) PTA会長



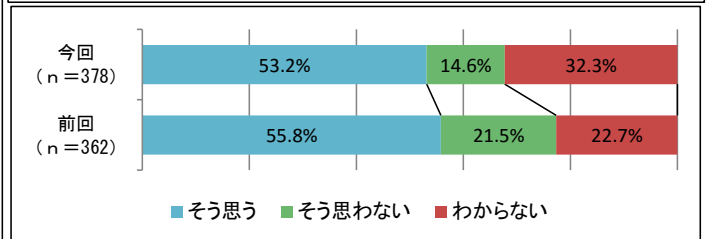
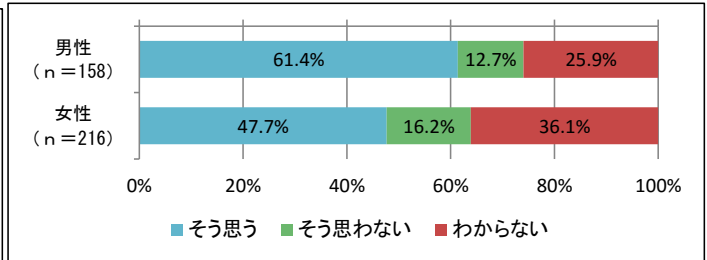
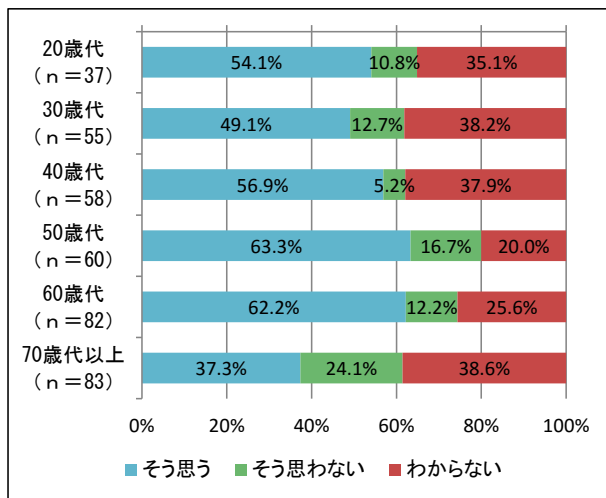
(3) 職場の管理職



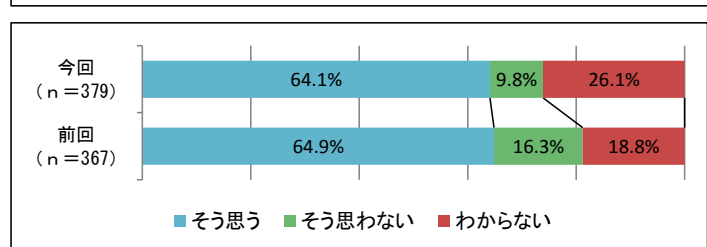
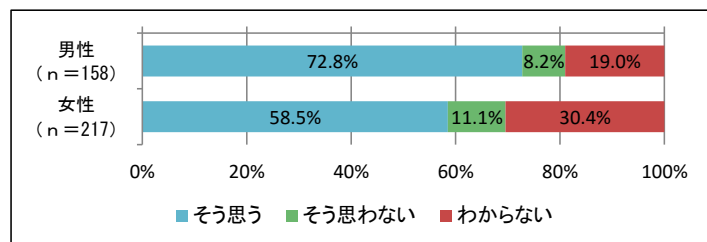
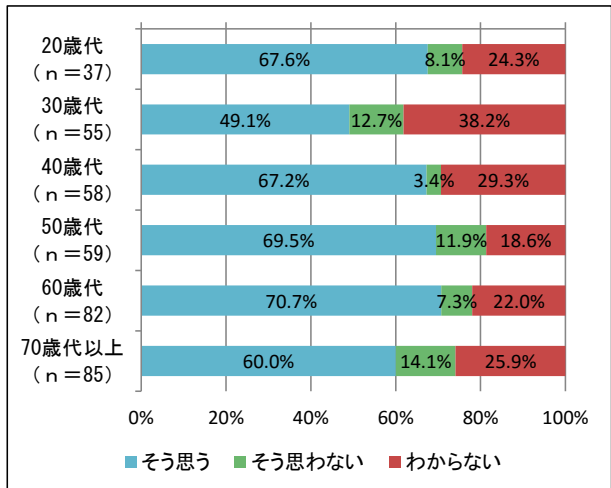
(4) 県や市町の審議会などの委員



(5) 知事や市町長



(6) 国・県・市町の議会議員



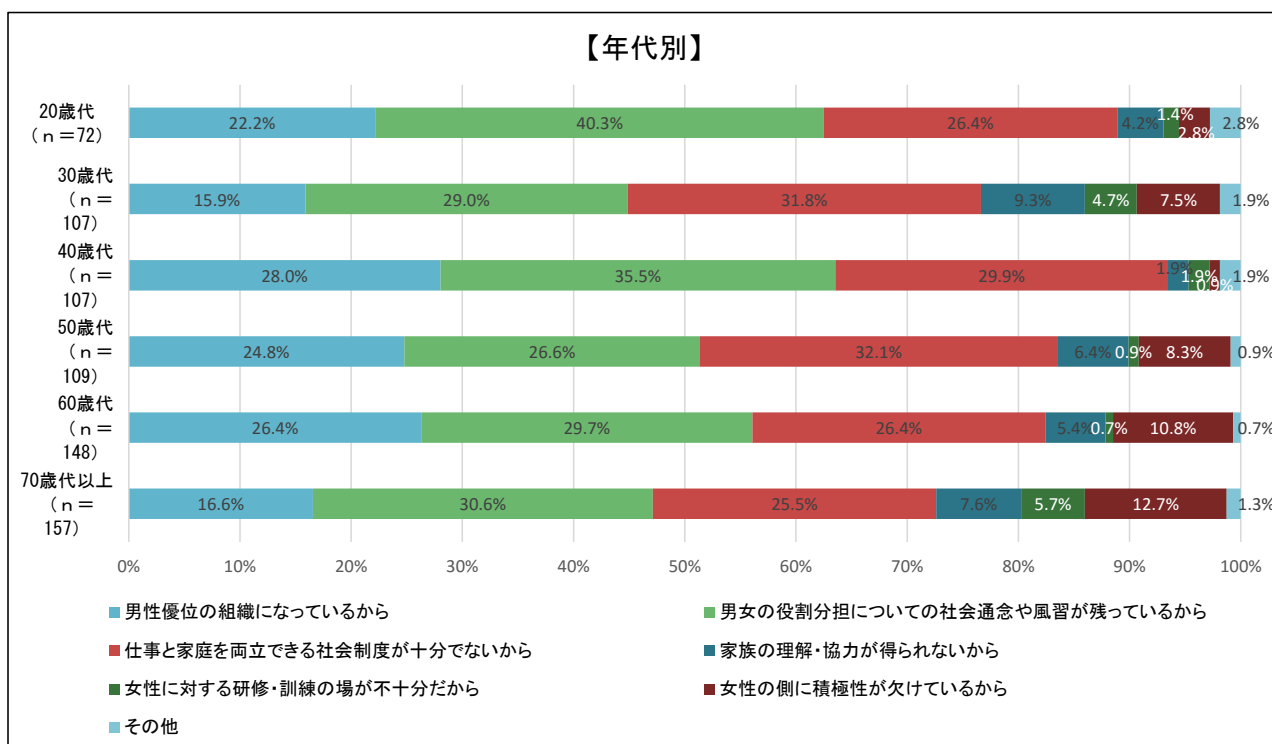
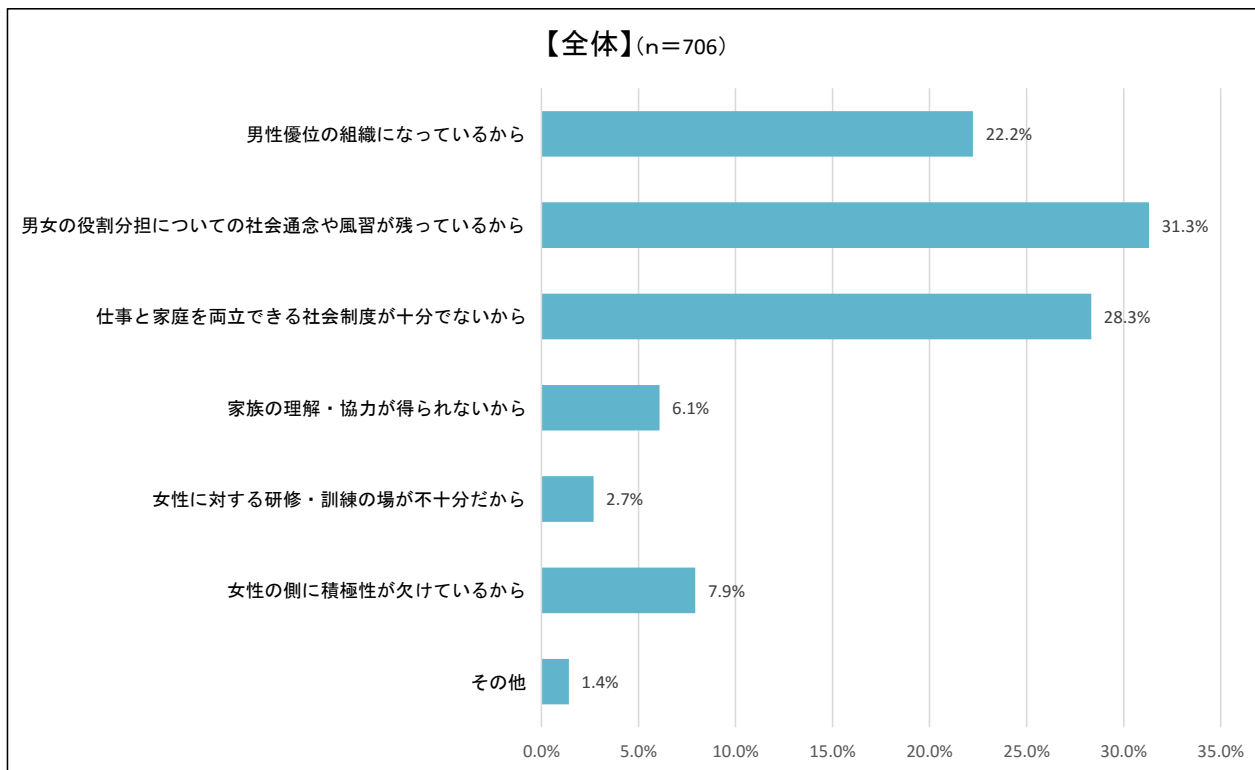
問13. 職場や地域社会において企画や方針決定の場に女性が少ない理由はなんだと思いますか。【複数回答式：2つ以内】

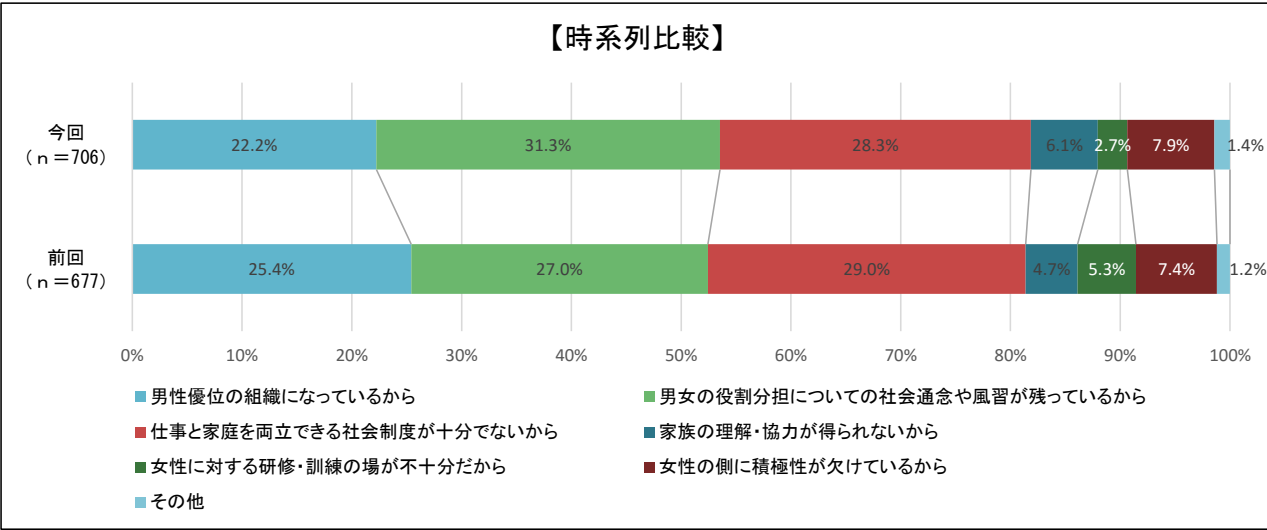
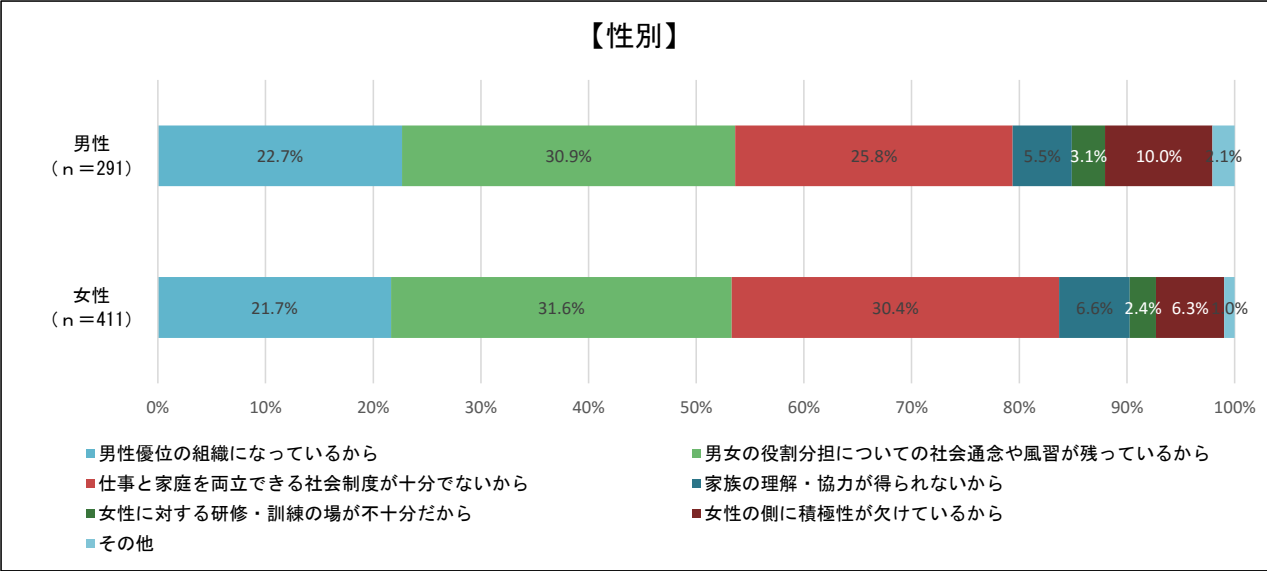
【分析結果】

女性が少ない理由として、「男女の役割分担についての社会通念や風習が残っているから」と答えた割合が31.3%で最も多かった。

次に、「仕事と家庭を両立できる社会制度が十分でないから」28.3%、「男性優位の組織になっているから」22.2%であった。

年代別、性別、前回調査との比較での差は見られなかった。





問14. 女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いますか。【複数回答式：2つ以内】

【分析結果】

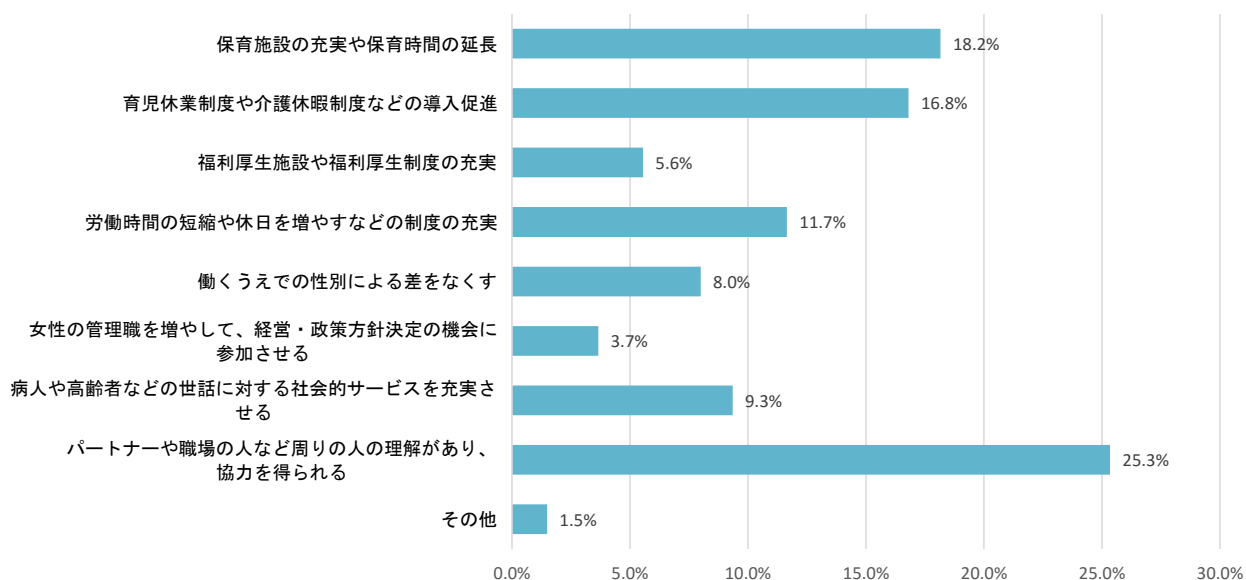
女性が働き続けるために必要なことは「パートナーや職場の人など周りの人の理解があり、協力を得られる」25.3%で最も多かった。

その他には、「保育施設の充実や保育時間の延長」18.2%、「育児休業制度や介護休暇制度などの導入促進」16.8%の順で多かった。

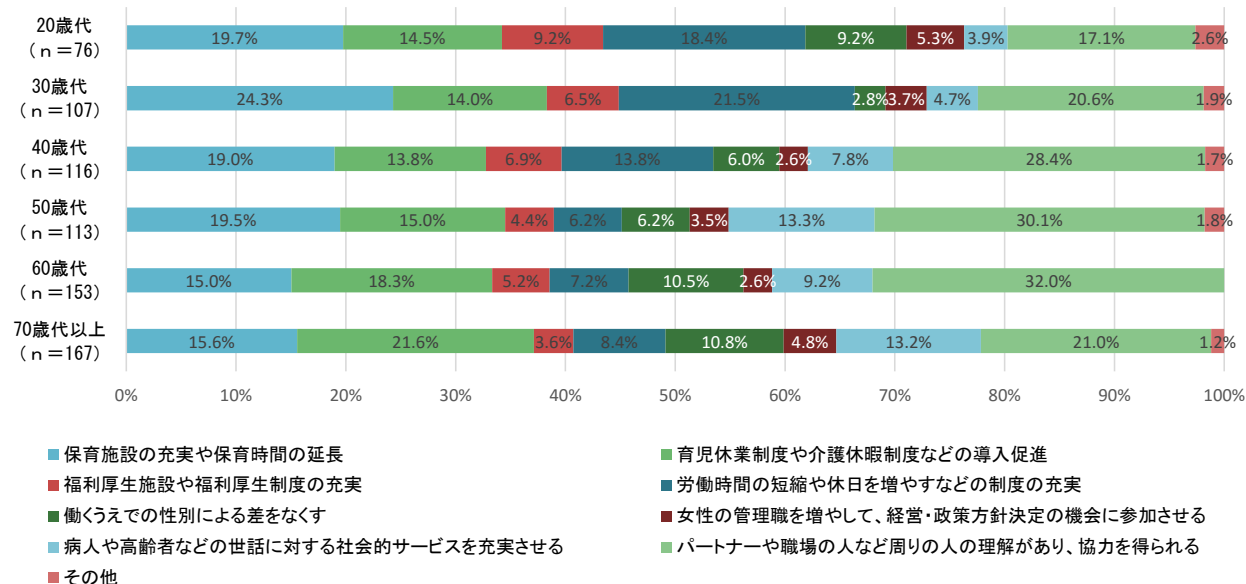
年代別、性別での差は見られなかった。

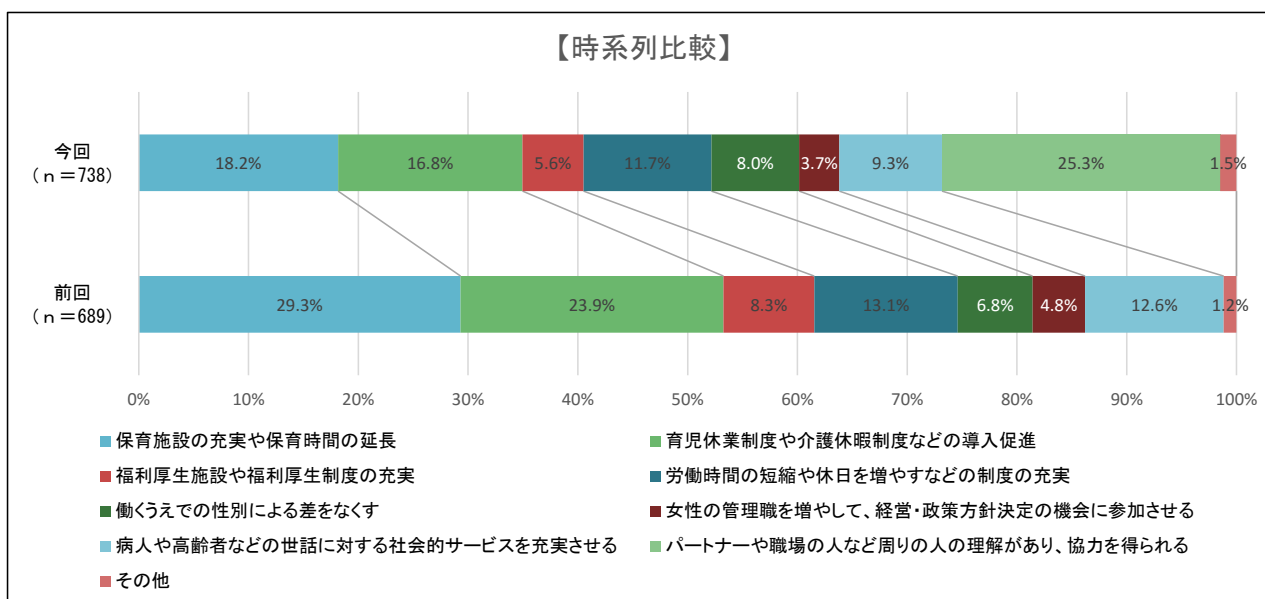
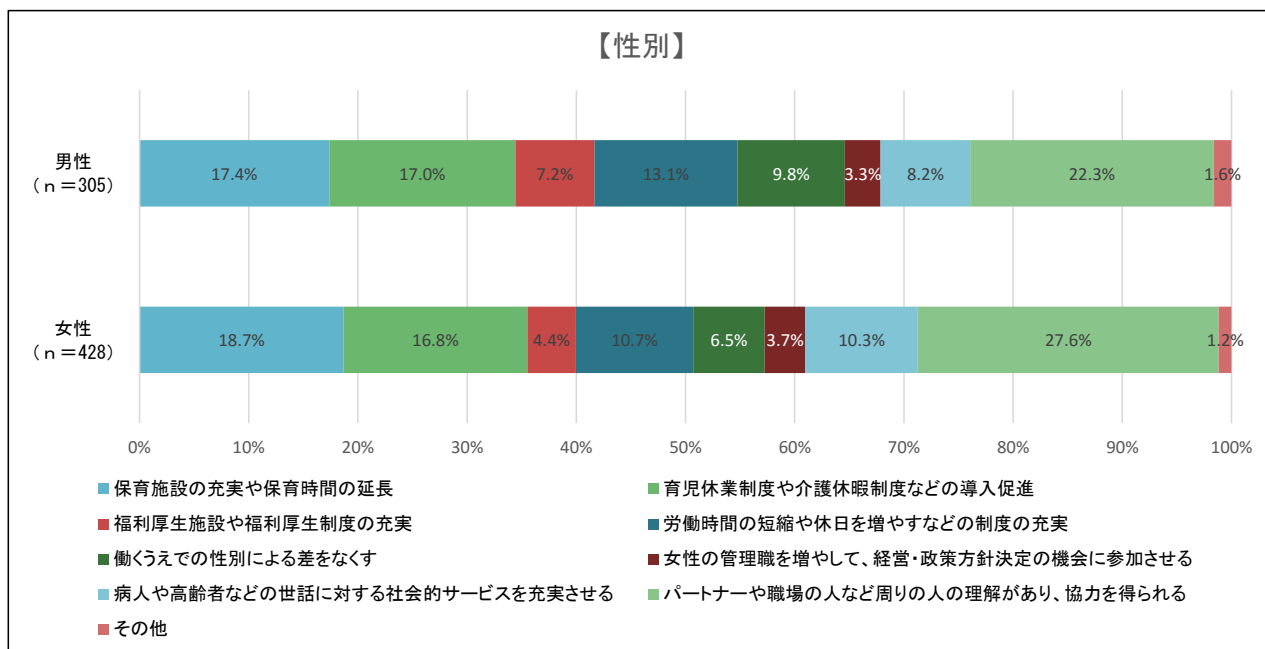
前回調査との比較では、今回の調査では、「保育施設の充実や保育時間の延長」「育児休業制度や介護休暇制度などの導入促進」と答えた割合は少なかった。

【全体(n=738)】



【年代別】



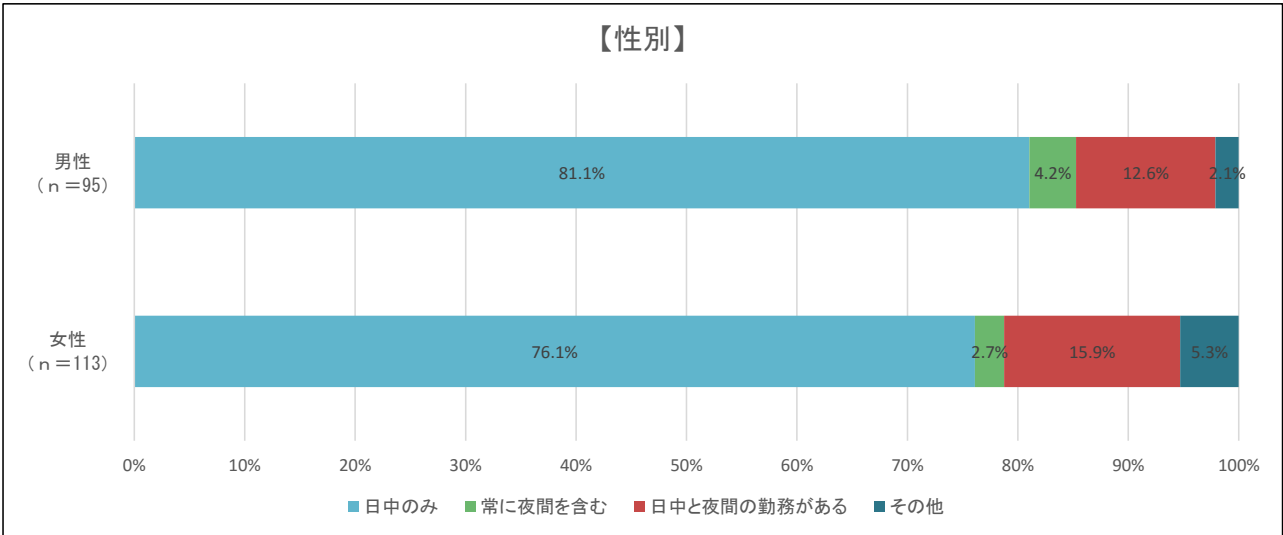
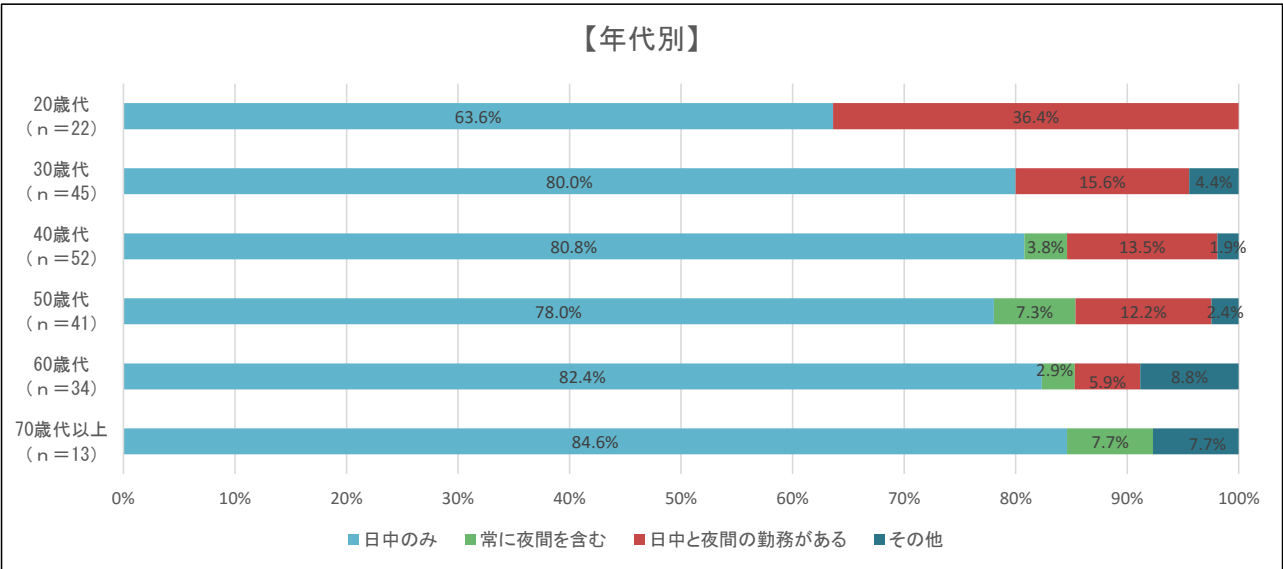
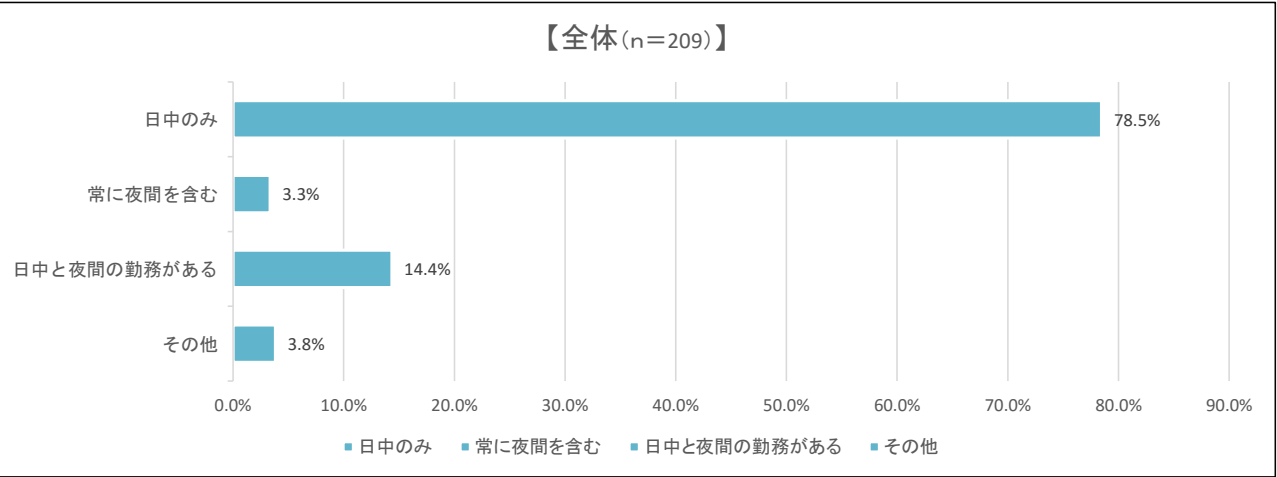


※「パートナーや職場の人など周りの人の理解があり、協力を得られる」は、今回新設の選択肢

※問15～22は、現在就労されている方のみを調査対象としています。

問15. 勤務時間帯について、教えてください。【択一式】

【分析結果】
勤務時間は、「日中のみ」が78.5%と最も多く、性別での差は男性が81.1%で女性が76.1%であった。



問16. 残業や休日勤務について、教えてください。【択一式】

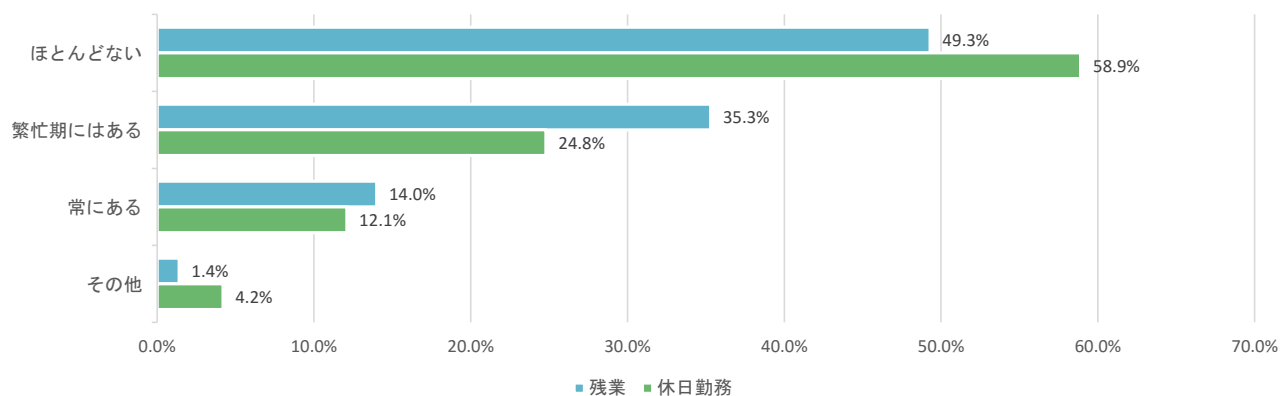
【分析結果】

残業や休日勤務については、「ほとんどない」がそれぞれ半数以上で多かった。

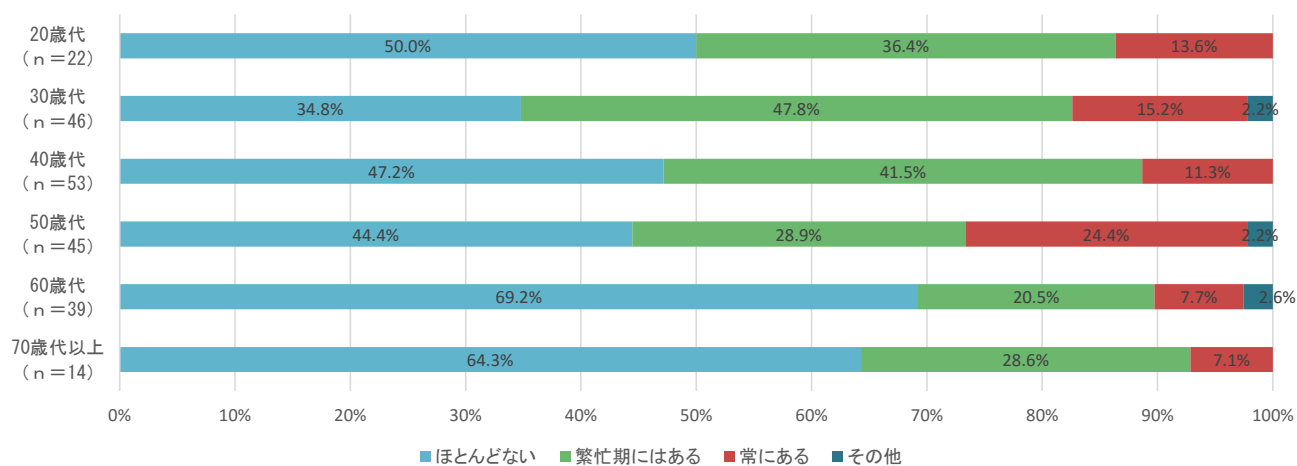
年代別では、30歳代、40歳代、50歳代の残業と休日で「繁忙期にある」「常にある」の割合が多かった。

性別では、男性が「ほとんどない」「繁忙期にはある」がそれぞれ39.2%だったのに対し、女性は「ほとんどない」が58.5%で多かった。

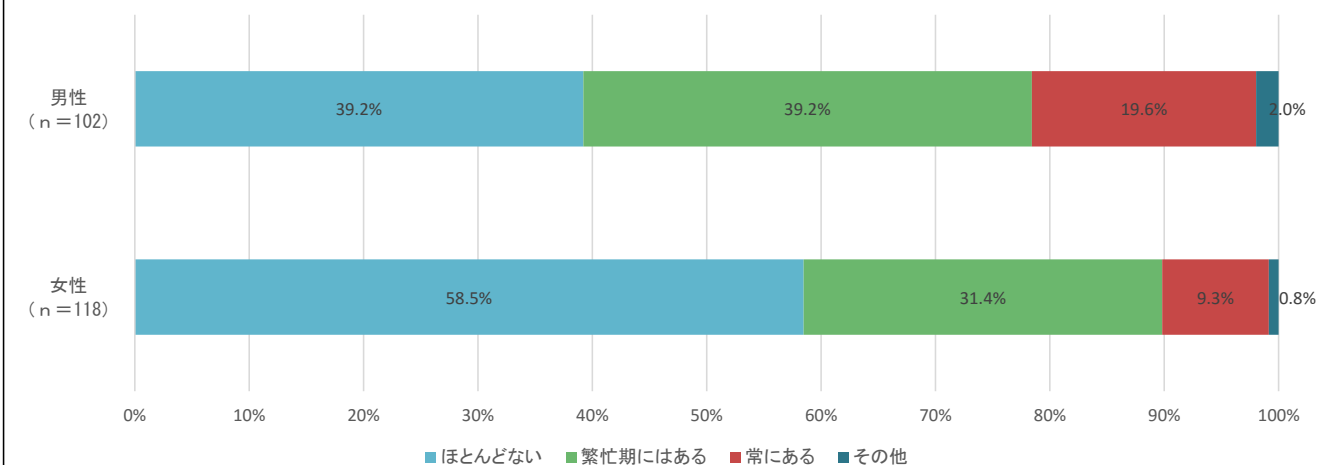
【全体(残業:n=221、休日勤務:n=214)】



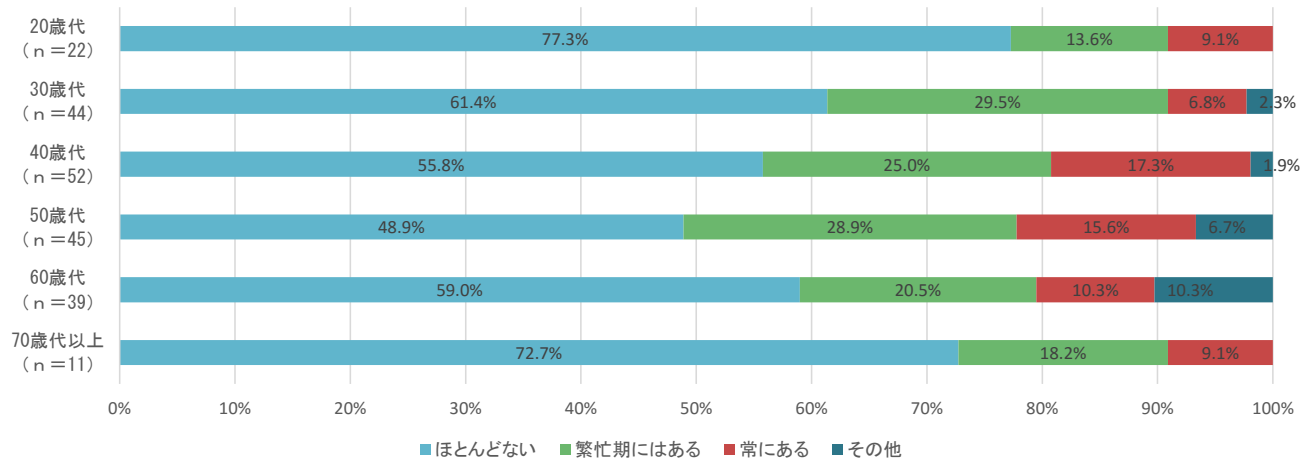
【残業・年代別】



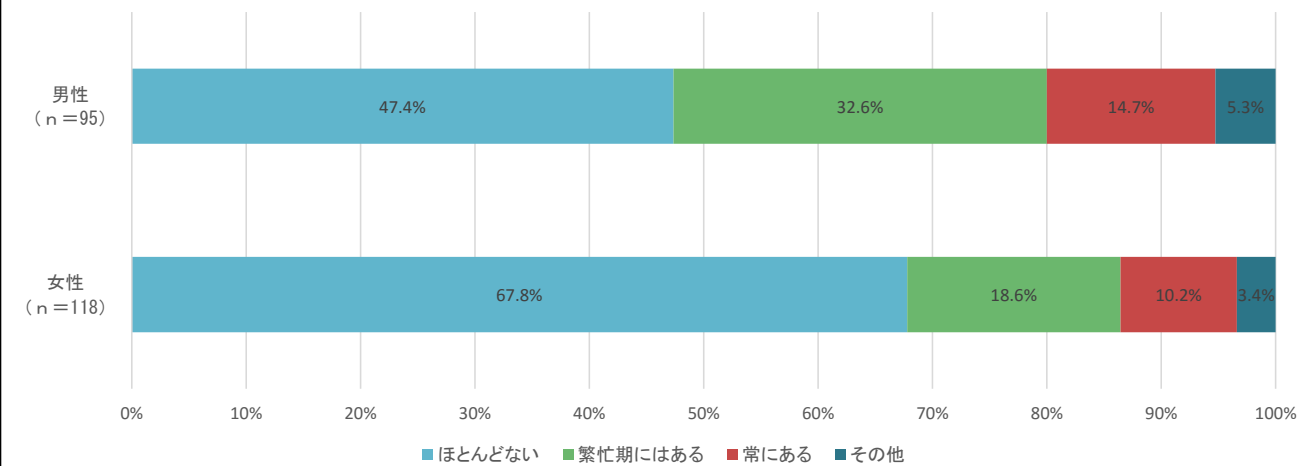
【残業・性別】



【休日・年代別】



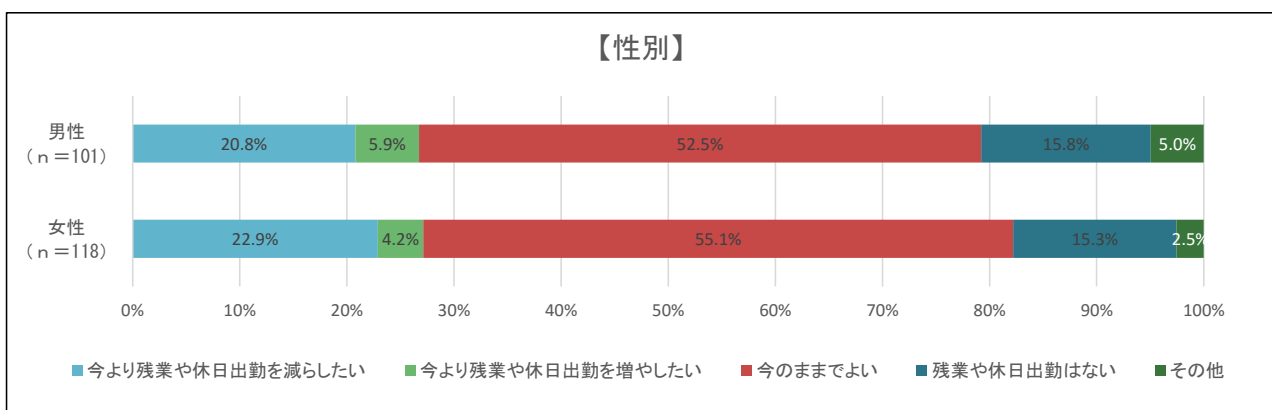
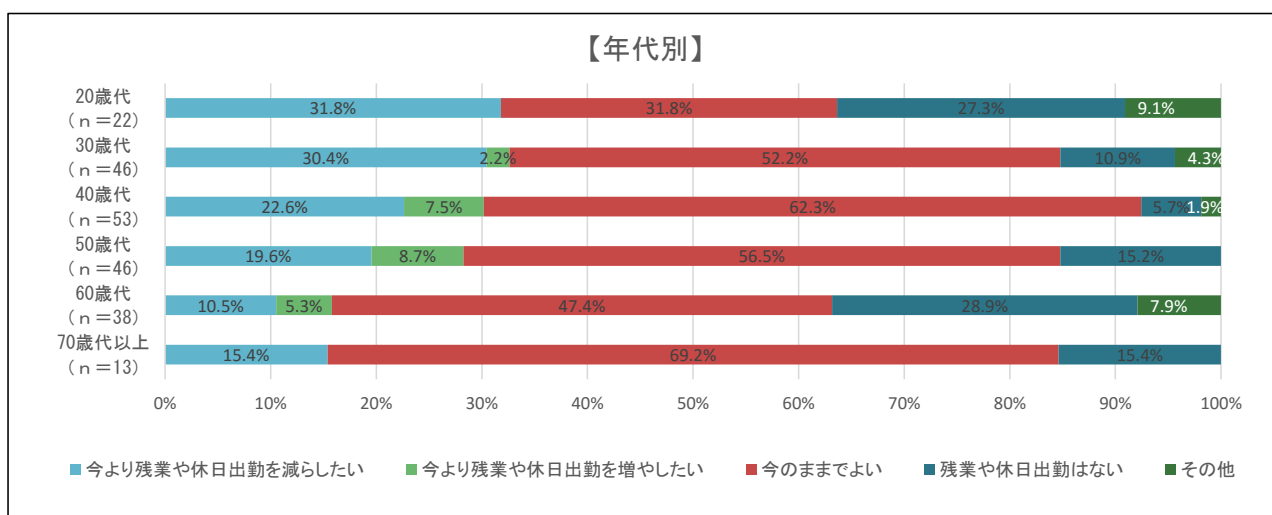
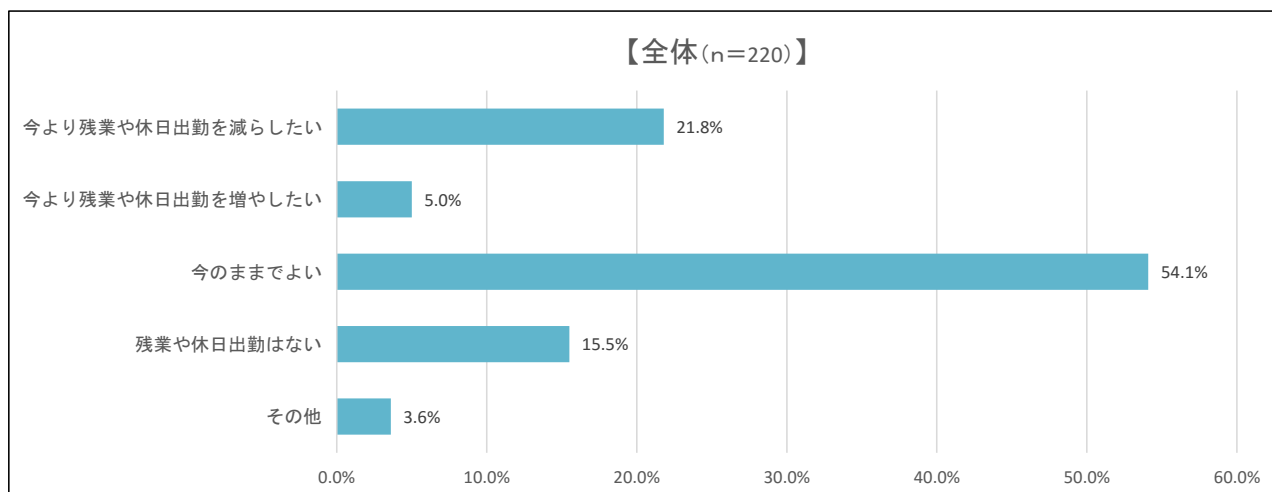
【休日・性別】



問17. 残業時間や休日勤務に対する希望について、教えてください。【択一式】

【分析結果】

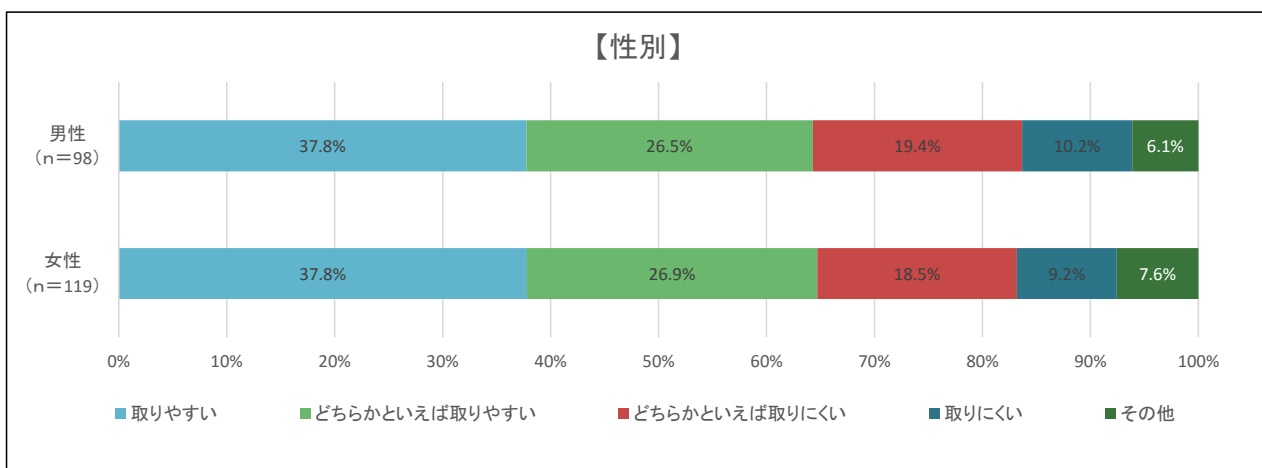
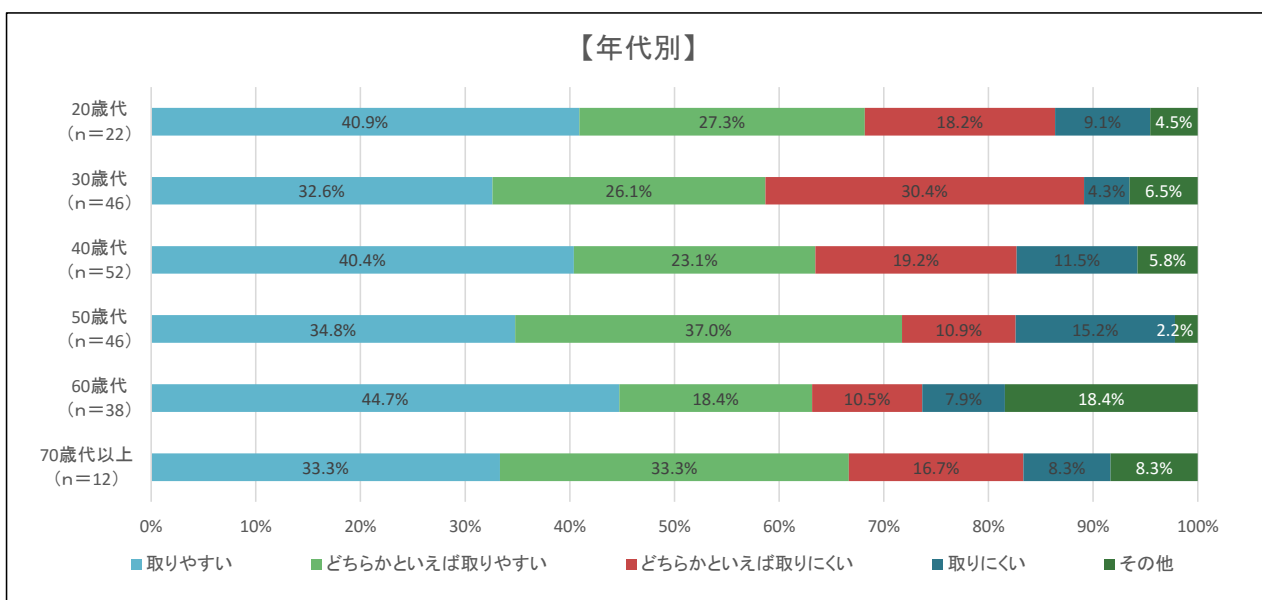
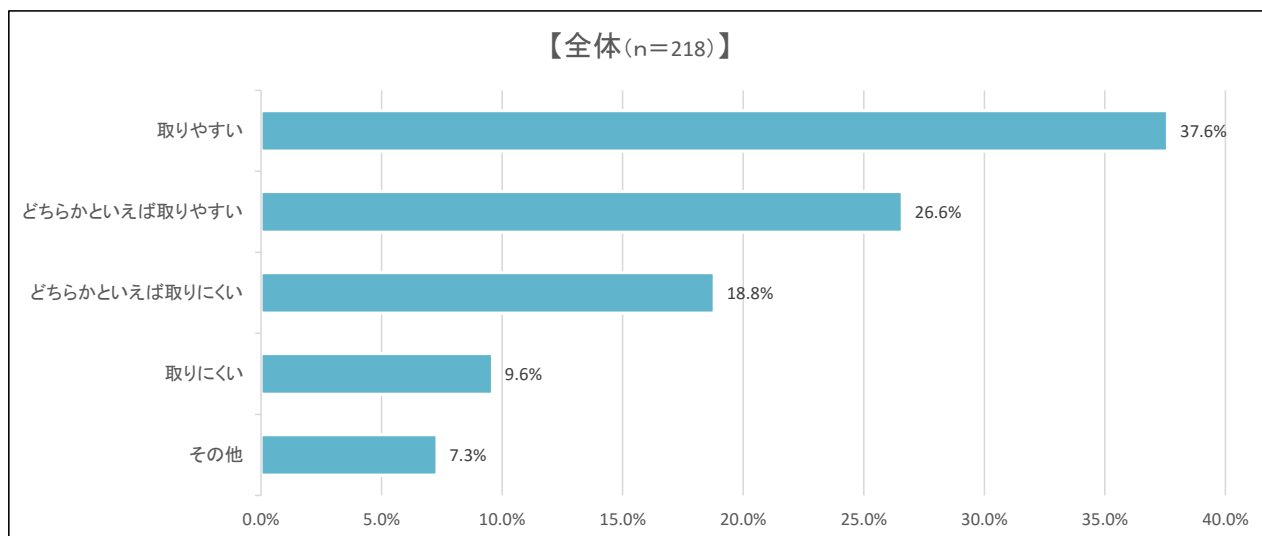
残業時間や休日勤務に対する希望では、「今のままでよい」が最も多く、54.1%である、性別においても、男女ともに最も多い割合となった。



問18. あなたの職場では年次有給休暇は取りやすいですか。【択一式】

【分析結果】

年次有給休暇の取りやすさでは、「取りやすい」37.6%、「どちらかといえば取りやすい」26.6%と多かった。



問19. 年次有給休暇を取りにくい理由を教えてください。【複数回答式：2つ以内】

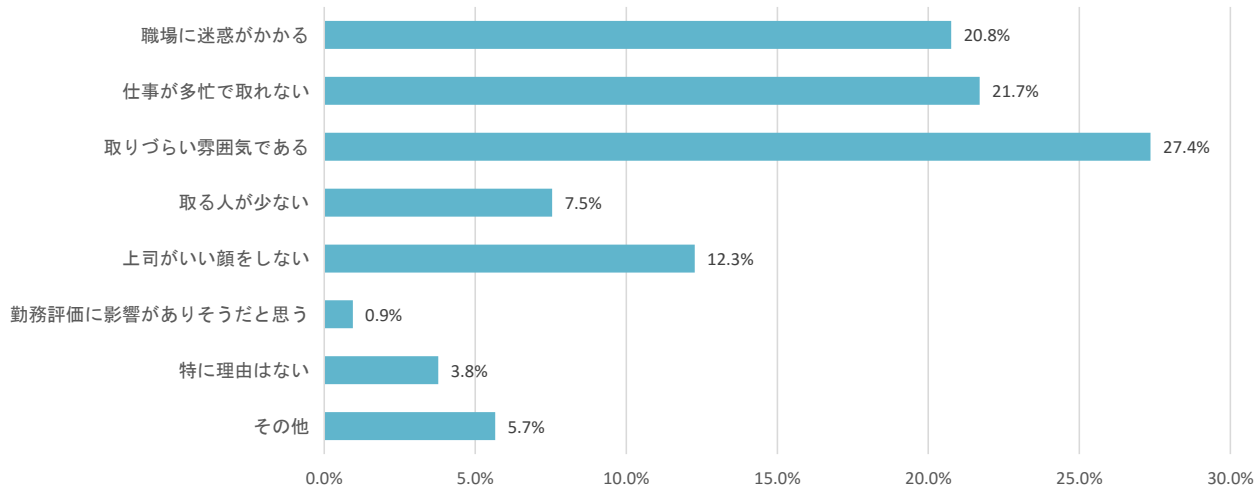
※問18で「どちらかといえば取りにくい」「取りにくい」と答えた方のみ

【分析結果】

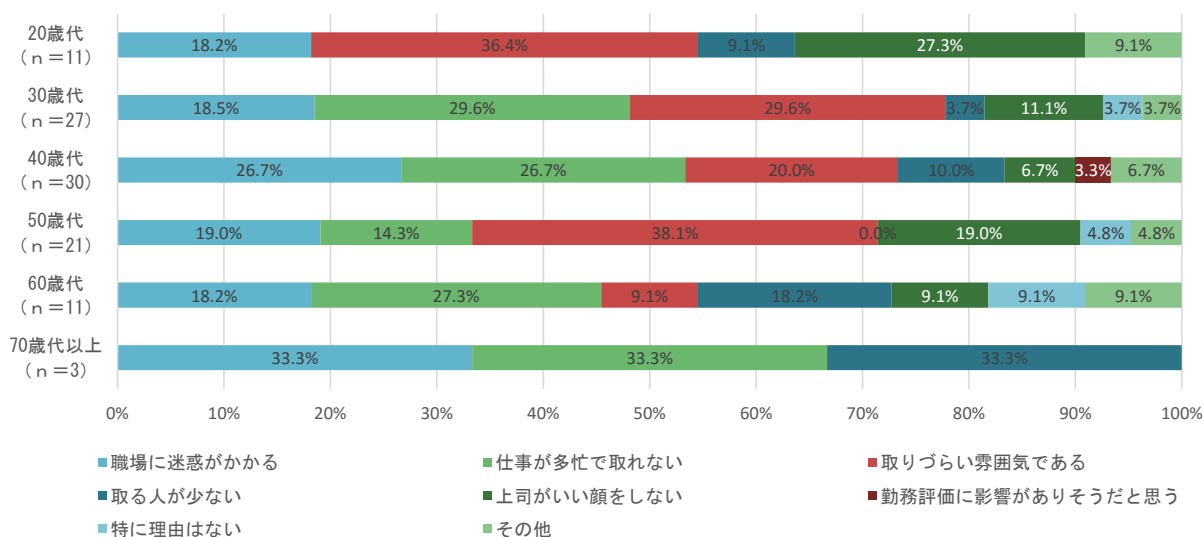
年次有給休暇を取りにくい理由は、「取りづらい雰囲気である」が27.4%と最も多く、次に「仕事が多忙で取れない」21.7%、「職場に迷惑がかかる」20.8%の順であった。

性別で見ると、女性の方が「取りづらい雰囲気である」と答えた割合が多かった。

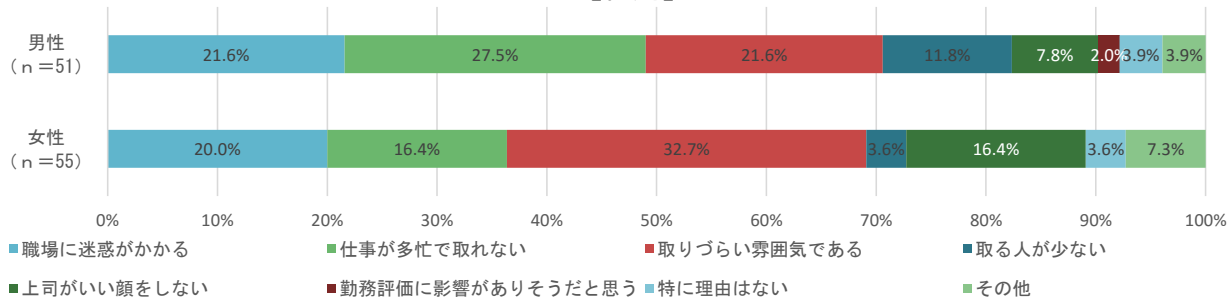
【全体 (n=106)】



【年代別】



【性別】



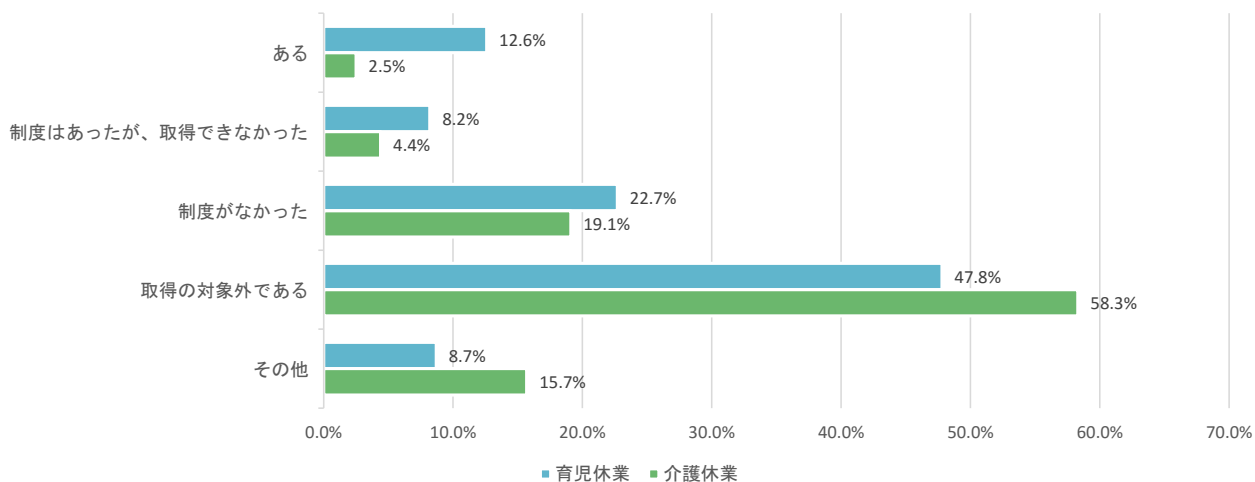
問20. 育児休業や介護休業をこれまでに取得したことがありますか。【択一式】

【分析結果】

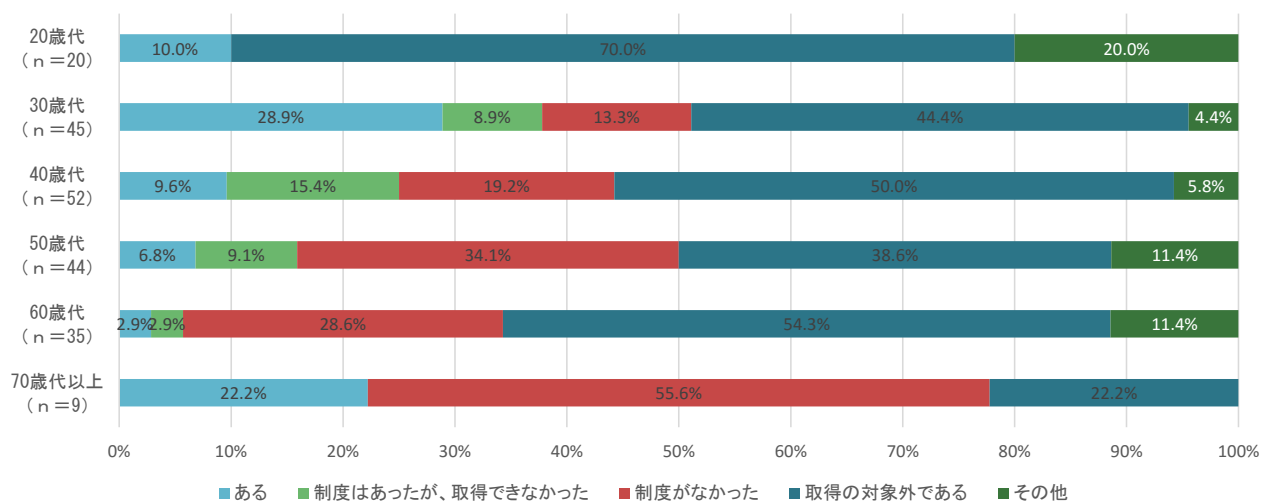
育児休業や介護休業の有無については、「取得の対象外である」が最も多かった。

育児休業を取得したことがあるのは、年代別では30歳代が最も多かった。性別だと女性の方が多い結果となったが、男性でも取得したことがある人がいるという結果となった。

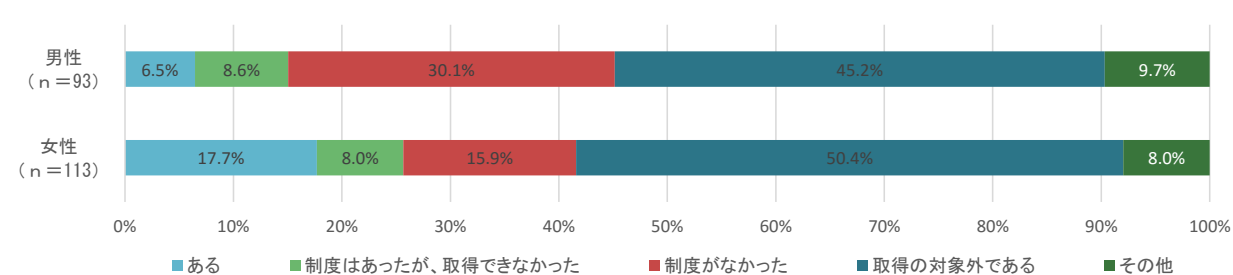
【全体（育児：n=207、介護：n=204）】



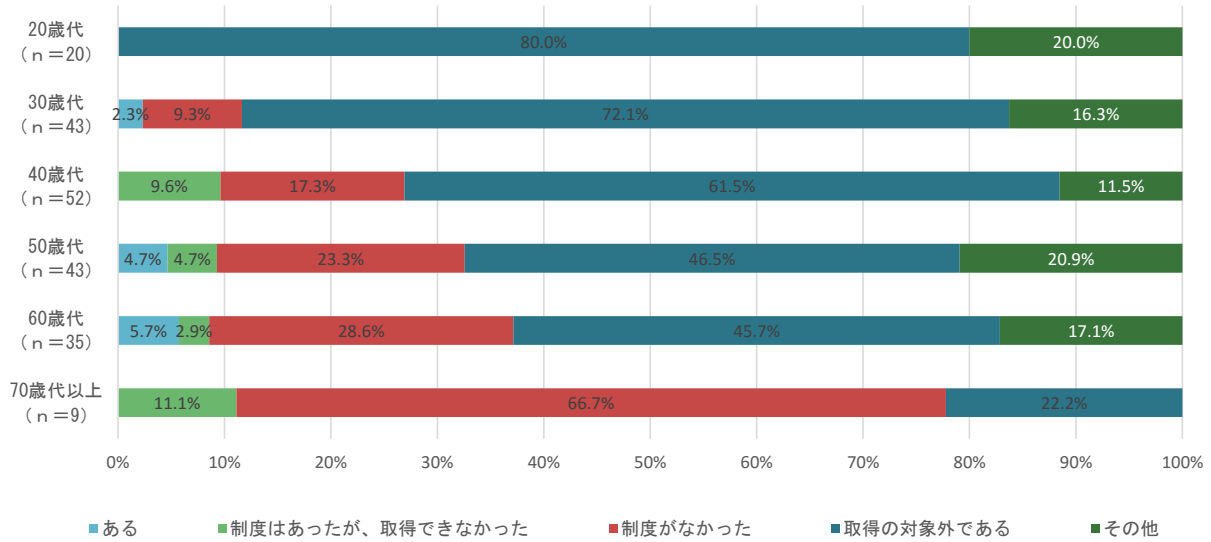
【育児休業・年代別】



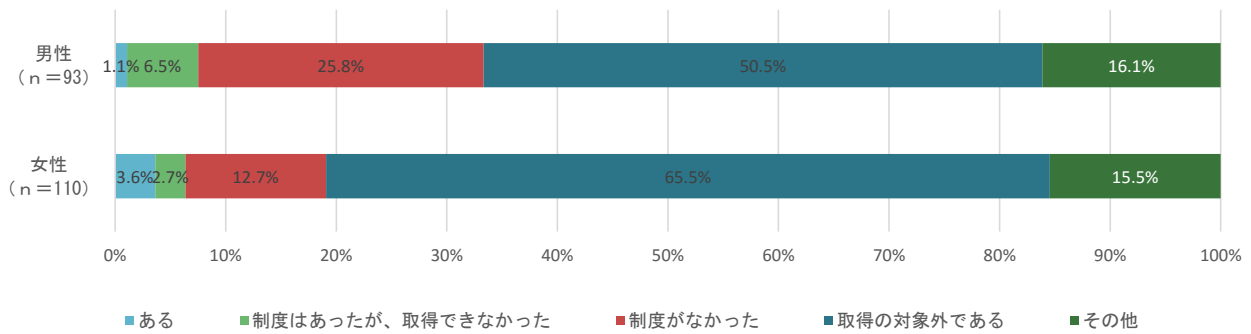
【育児休業・性別】



【介護休業・年代別】



【介護休業・性別】



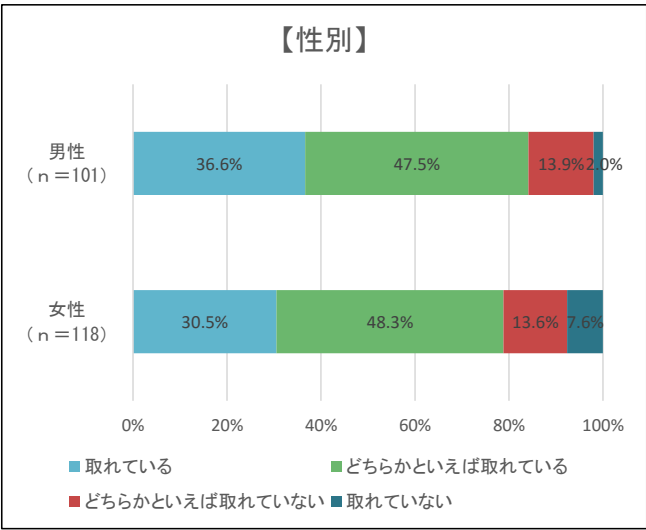
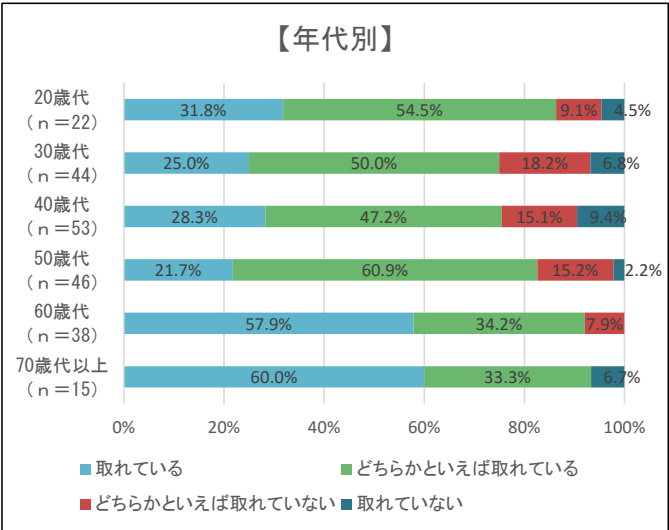
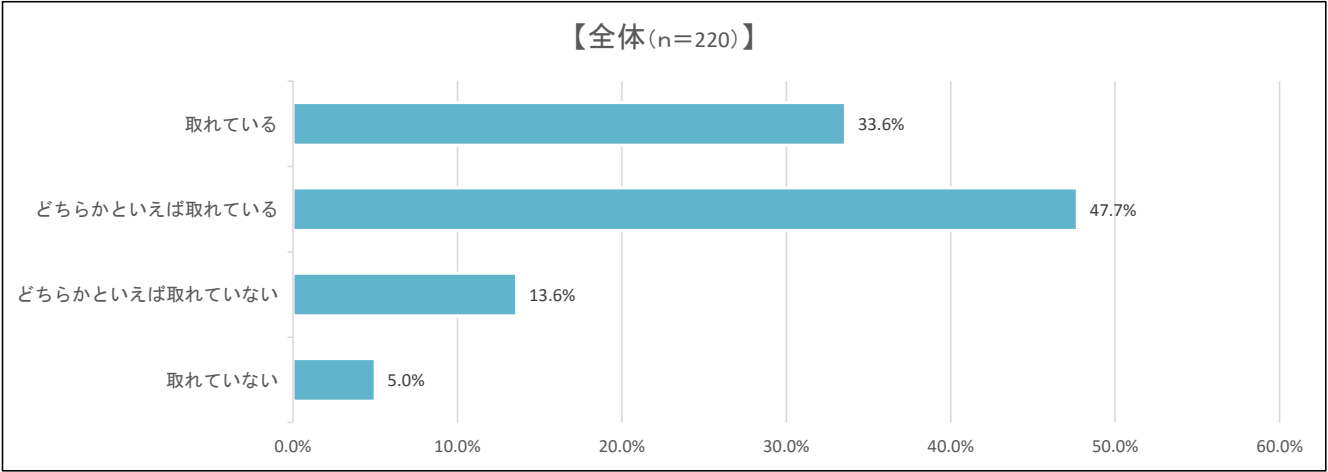
問21. あなたの今の生活スタイルにおいて、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）は取れていると思いますか。理由も教えてください。【択一式】

【分析結果】

ワーク・ライフ・バランスについて、「どちらかといえば取れている」が47.7%と最も多く、次に多かった「取れている」33.6%と合わせると、取れている割合は8割だった。

年代別では、60歳代、70歳代以上で「取れている」と答える割合は、約6割で、他の年代に比べて目立って多かった。

性別では男性の方が「取れている」「どちらかといえば取れている」の割合は、若干多かった。



＜理由＞

○取れている

子どもが小さい頃（0～5歳くらいまで）は、本当に大変でしたが、子どもが大きくなるにつれて、バランスよく生活できるようになってきました。

特に不満なく過ごせているから。

出産等の立会や看護休暇が取れ、時差出勤等もできている

働きやすい職場で、上司他、皆理解があり、休みも取りやすい。（子供の体調不良等）

生活費に追われての就労ではなく、社会奉仕の意味を含めている。

普段残業もなく帰るため。

好きな仕事だから

午前～午後4時間パート勤務、共働きしている次女夫婦の子供たちの保育所の迎え、食事の世話をしつつ、自分の趣味の時間も持てる。幼い子を保育所に預ける娘は、労働環境があまりよくなく、私の手助けがなければ困難な状況。娘の夫もなかなか理解してもらえない職場で、やはり子育て中の夫婦が安心して共働きできる環境ではない。周りの目もあるだろう。妻の方が早退するんが当たり前の風潮がまずおかしい。

現状で満足している。

家庭、職場ともに理解がある。

繁忙期には仕事に集中し、閑散期には休める体制を目指しているから。
主人がある程度収入があるので、バランスが取りやすいです。収入がなければ、今以上に働かなければならないと思っています。
仕事の無い日は、しっかりと休めているため。
子育てが終わりに近づき、自分の時間が持てるようになってきた。仕事も充実している。定年後に少し不安はある。
職場の理解がある
自分の健康のために働いている程度
主人と二人の会社です。忙しい時は大変ですが、自由な時間が取れることもあるのでトータルで考えればバランスがよいと思っています。
1日4時間勤務なので、家事も子育てもできるから。でも自分の時間はないです。

○どちらかといえば取れている

繁忙期以外は、休日出勤、残業がほとんどないため「仕事」と「休み」がきちんととれているから。
仕事の時間外に仕事をする事が出来ない。考えることがないから。
国が取り決めた、時間外労働上限（基本月80時間）よりもう少し働いても私的には問題ないと思っています。例えば、「それ以上月20時間ぐらい増やして、その分は代休で取得できる。」とすれば、仕事はうまくいき、連休をとることが出来るようになると思います。
パートだから。正社員だと難しいと思います。
無理のない仕事、生活、ただお金がない。
ある程度子育ての都合で、会社を当欠することもあるが、その後も普段と変わり無い。また、家庭との両立を考えてもらっており、無理強いはない。休みの日は休んでリフレッシュできている。
理由はない。自分がそう感じるから。
主人と2人の生活なので時間を合わせやすい
自由に時間を取れるため
週休2日制で、休みの時は家のこともできるし仕事と休みの時のリラックスもできているので取れていると思う。
残業が少なく自分のペースで仕事ができているため（残業をすべきでないという面もあるが）
仕事をしながら、子どもを育てることが出来ているため
取れていると思わなければ、ストレスを感じるのではないかな。自分で努力してワークライフバランスを保っていると思う。
仕事中心になるときもあるが、周りの協力により何とか過ごせている。バランスが取れていない？と思うときは多いが、バランス取れていると思って生活しないと、仕事などできないと思う。小さな問題は常にあることなので気にしてられないですね。
育児のための制度（部分休業）を活用し、自分にとってベストなバランスで仕事と子育てが両立できている。
仕事を一人でしているから、自分の都合に合わせて時間を使うことが出来るから。
家事、育児に必要な時間がある。休みたい日に休めるため、学校行事にも参加できる。1人の時間もある。
対人援助関係の仕事で、精神的負担が大きく、心理面でのしんどさがある。もう少し仕事量を減らし、趣味や生きがい等につながる活動を行い生活に重きを置いた過ごし方にしたい。
仕事の時間を1日5時間におさえているから
やりがいのある仕事がある。家庭のことは、女性に負担が大きいと感じているが何とかバランスはとれている。
仕事が楽しい
今は、仕事の時間も自分にあった所に勤めているので、家のこともそれなりにできていると思う。
8時間労働、月9日休日
急な呼び出しなどもなく、家に持ち込まないといけない仕事もないから
ワーク・ライフ・バランスが取れるように転職し、融通のききやすい職場を見つけたから。
自分自身充実していると感じるから
年のせいか、疲れが残こりやすい。毎日があっという間
パートでシフト制休みの希望も可なので
仕事の日数が週半分くらいだからバランスがよい。
シフト制なので、都合の悪い日は他の人と交替して勤務ができる。
繁忙期以外は有休も取得しておりプライベートの時間も確保している。
仕事は週4日で、午後2時までとし、学校（子ども）、家庭もできるようにしている
調和がとれていると思うから。どちらといえば。
特に調和がとれていないとは思わなかったから。
農業なので天候に左右されますが、体調の悪い時は休み、暑い夏場は、日中昼寝などをし、涼しい時間帯に仕事します。好きなスポーツも続けられています。みかんの収穫・出荷や消毒など特別忙しい時期は仕事を優先します。
ストレスを感じていないので。
繁忙期を除けば、時間は確保できているため

長年、慣れた仕事だし、生活もぜいたくしなければ不自由はないから。
夜遅くまで、毎日残るといことはないので（毎週水曜日のみ）。
無理のない生活ができていたため
現状は残業も少なく、あったとしても残業手当が出るので負担に思わない。家内も理解してくれている。ただ今後どうなるかわからないので2番です。

○どちらかといえば取れていない

コロナウイルスの影響で仕事時間が短縮
仕事は、ある程度やりがいは感じていますが、ひとり親家庭で仕事の時間も不定で残業もあり子供を親に見てもらうことも多くなり、生活や子供との交わりは少なくなり、バランスがなかなか取りずらいです。
年度末に休日をとれない月がある。
常に仕事用携帯電話を持っている。緊急があれば出勤の必要があって仕事優先の生活である。
収入が少なく、満足な生活が出来ていない。
生活のため、仕事を多くしているため、家庭のことをする時間があまりないので
仕事はどうしても優先となる。
余裕がない
仕事が充実していない
掛け持ちなので、休みが主人と合わないから、ゆっくり眠れない。
仕事が多岐にわたる。
経営者側であり、株式会社ではあるが、家族のみの経営なので、若い自分が一番の労働力であり、仕事を優先しないといけない。
休日出勤しても代休がなく、有給休暇も取りにくいので生活の中で仕事が占めている割合が多い。
生活はやはり仕事の状況にとらわれる。
テレワークに慣れていないから
多忙

○取れていない

学歴、資格がない為収入が少なく日々出勤数を計算して過ごしている。ぜいたくをしていなくても、税金や最低限の出費だけで苦しく、生活の安定など取れない。
①仕事上女性+正社員じゃないが原因で責任ある仕事を任されない②家庭内で「誰のおかげで・・・」と言われるし
休みは、家事に追われる。自分の時間を1時間でも確保するのが勿体ないと感じてしまう。また、家族は家庭の中のことは協力的ではない。
自営業であるから、その場の状況での判断で選択する。
仕事が優先。人がいない。
仕事の負担が大きすぎる
仕事時間は長いのに収入が少ない

問22. あなたは、どのような生き方をしたいですか。【択一式】

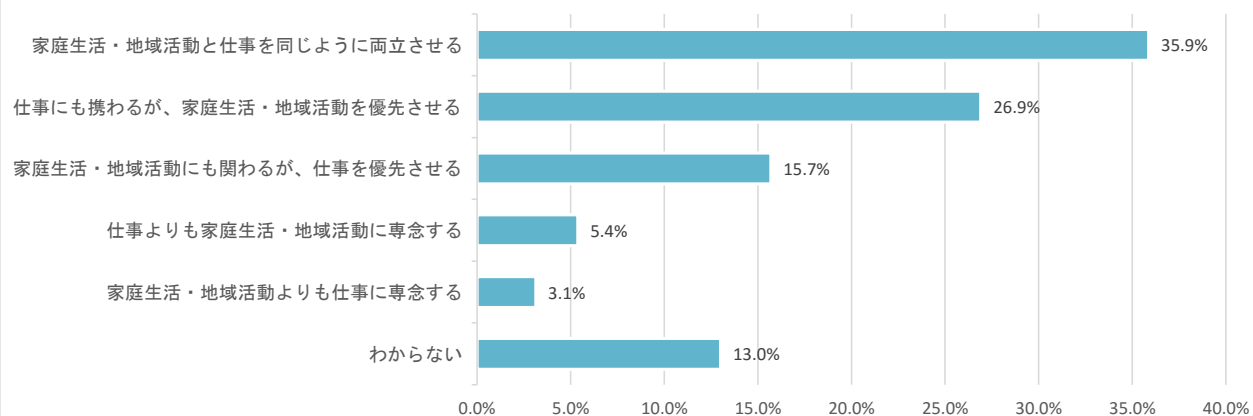
【分析結果】

「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が35.9%と最も高く、「仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる」26.9%、「家庭生活・地域活動にも関わるが、仕事を優先させる」15.7%と続いた。

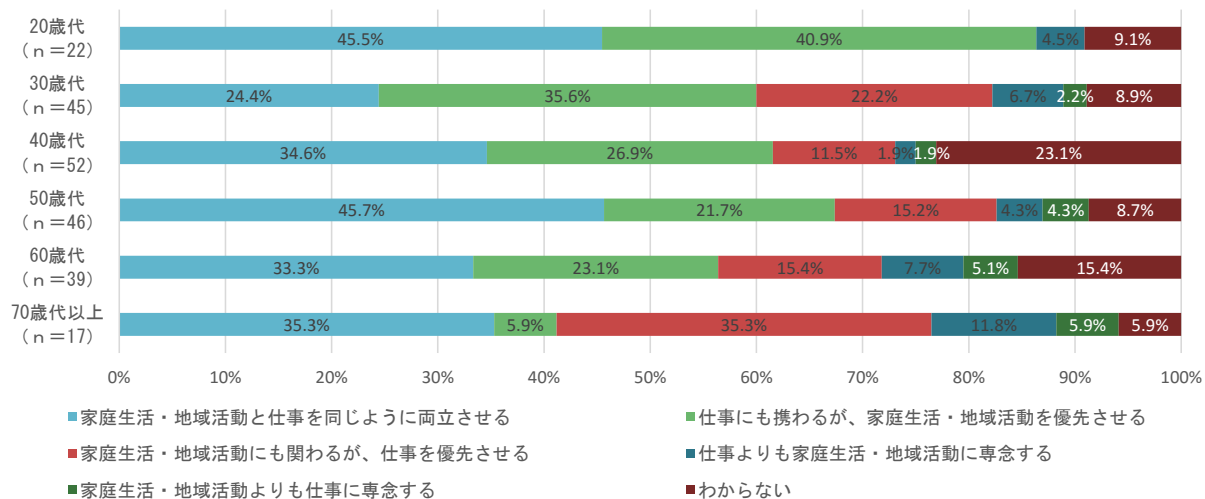
年代別で見ると、20歳代と50歳代で「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」が特に多く、20歳代は「仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる」も同じくらい多い結果となった。

性別で見ると、男女とも「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」と回答した人が多かった一方、「家庭生活・地域活動にも関わるが、仕事を優先させる」と回答した男性の割合が女性の割合の約4倍となった。

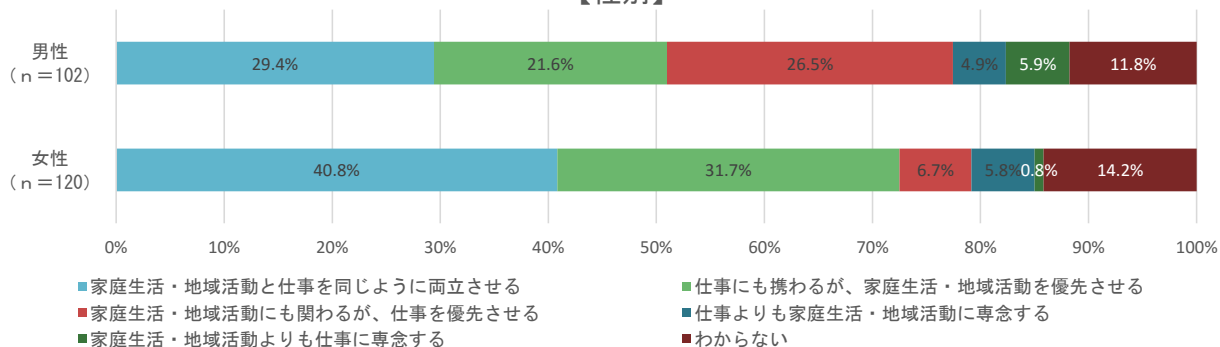
【全体 (n=223)】



【年代別】



【性別】



問23. 男女共同参画社会の実現を目指していく中で、今後砥部町にどのようなことを期待しますか。【複数回答式：3つ以内】

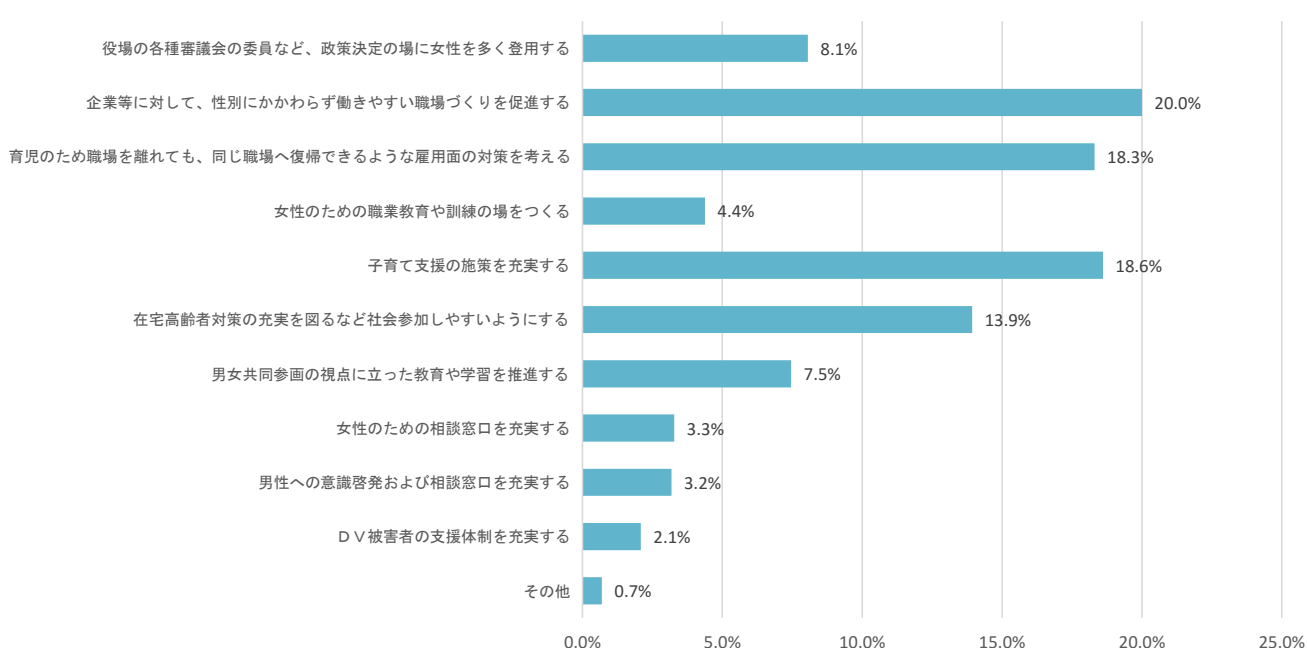
【分析結果】

砥部町に期待することとして、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」が20%と1番多く、「子育て支援の施策を充実する」18.6%、「育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える」18.3%と続いた。

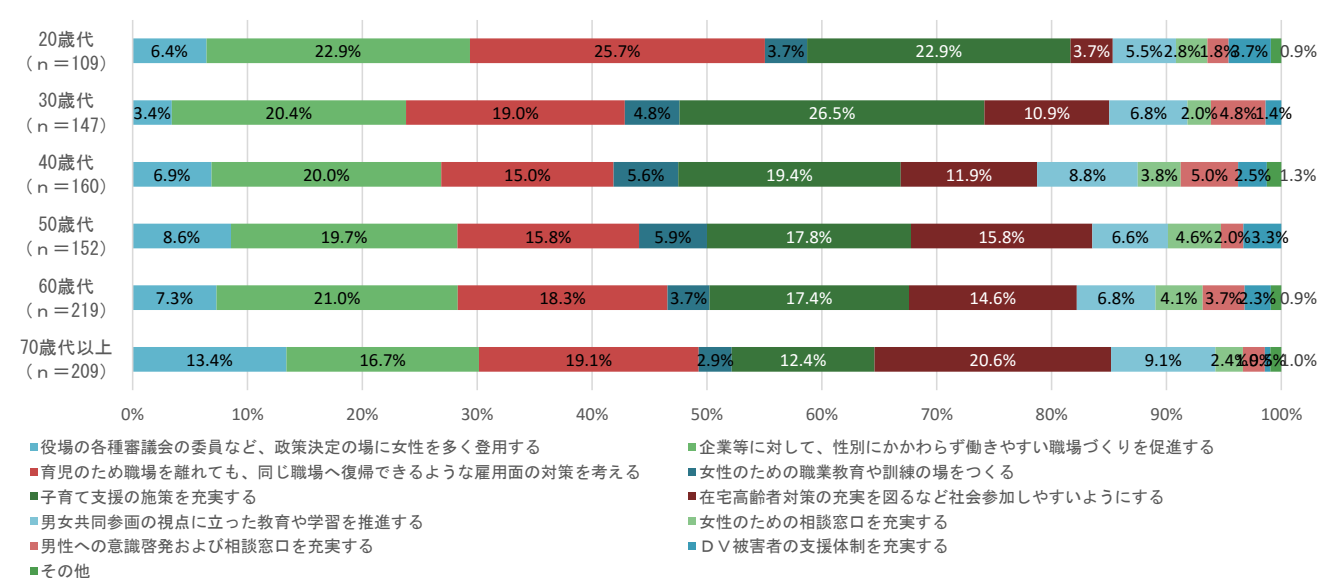
年代別において、20歳代では「育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える」、30歳代では「子育て支援の施策を充実する」、40～60歳代では「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」、70歳代以上では「在宅高齢者対策の充実を図るなど社会参加しやすいようにする」がそれぞれ最も多い結果となった。

前回調査との比較すると、「育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える」の割合が少なくなり、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」の割合が多くなった。

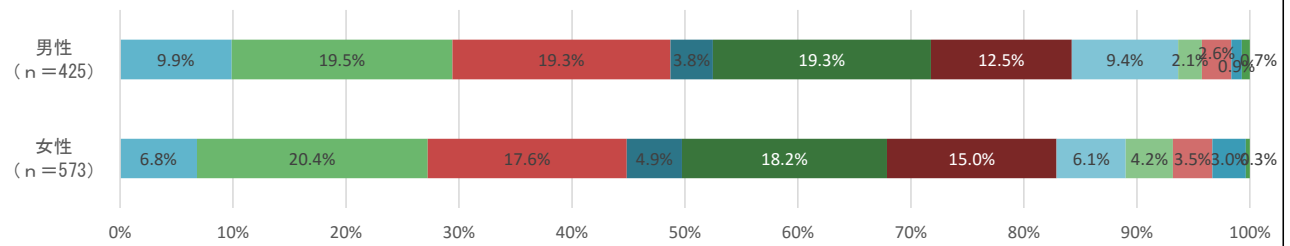
【全体 (n=1,005)】



【年代別】

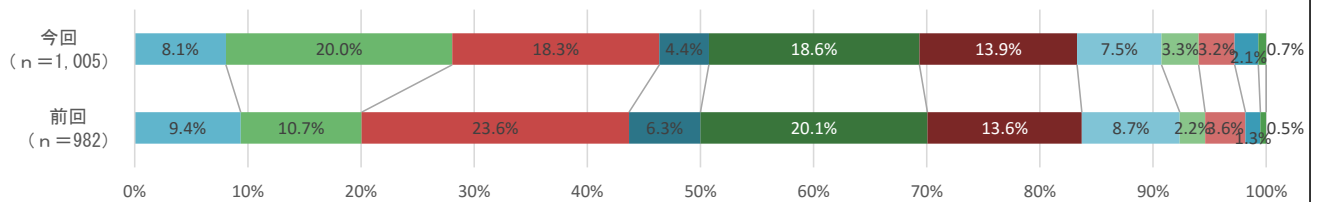


【性別】



- 役場の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する
- 育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える
- 子育て支援の施策を充実する
- 男女共同参画の視点に立った教育や学習を推進する
- 男性への意識啓発および相談窓口を充実する
- その他
- 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
- 女性のための職業教育や訓練の場をつくる
- 在宅高齢者対策の充実を図るなど社会参加しやすいようにする
- 女性のための相談窓口を充実する
- DV被害者の支援体制を充実する

【時系列比較】



- 役場の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する
- 育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える
- 子育て支援の施策を充実する
- 男女共同参画の視点に立った教育や学習を推進する
- 男性への意識啓発および相談窓口を充実する
- その他
- 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
- 女性のための職業教育や訓練の場をつくる
- 在宅高齢者対策の充実を図るなど社会参加しやすいようにする
- 女性のための相談窓口を充実する
- DV被害者の支援体制を充実する

問24. 男女共同参画社会づくりに向けて、ご自由にご意見をお書きください。

子どもが安心して預けられる環境づくりと子供を育てるのにお金がかかるので少しでも教育面での負担が少なくなればいいと思う。小学校等は、先生の負担を減らすため民間と連携すればいい。例えばスイミングスクールを利用する等する。そうすると、子どもの習い事をしたい気持ちと送迎するスケジュール管理や費用・時間も軽減するのに…と思う。毎日家のこと子育てでいっぱい働ける気がしません。在宅ワーク等もっと様々な働き方ができる社会になればいい。【女性・30歳代】
職場で、育児休業を取得する人、子どもの迎えのため、残業をせずに帰宅する職員に対し、男性上司がよい顔をしない時がある。制度の問題ではなくて”個人の考え”の相違が問題となってくるのでは、と思う。【女性・20歳代】
いくら男女平等といったって変わらないと思う。政治家などの役所関係の人は口だけのように感じられるところがある。【女性・20歳代】
例えば、砥部町役場に女性管理職が何人いますか。そういう情報をどこで得ることが出来るのか私は知りません。毎月配られる広報紙に出ているのでしたら私の不注意で申し訳ありません。私の地区では、区長は大体男性が歴任しています。田舎では、男女共同参画は、まだまだ難しいようです。【男性・70歳代以上】
男女平等は理想ではあるが事実上、性差はあり、特に子育てについては女性の役割が大きい事は否定しがたい。男女各々が互いの性・役割について理解し、尊重し合える社会人を育てることが必要。学校も重要だが家庭教育の役割は大きい。役場の方々にはDVの疑いのある家庭に積極的に関わっていただきたい。【女性・60歳代】
女性が前に出すぎて世の中がおかしくなってきた感じがします。仕事をする事は、男性の気持ちを理解するためにはいいと思いますが、子どもの基本的な教育（挨拶等）、家事等がおろそかになり子供がさみしい思いをし、人としての常識が欠けている子供が多くなってきたと思います。男性は外、女性は中にいる時代の方が、私はよかったのではないかと思います。【女性・30歳代】
尊重し合うこと【男性・50歳代】
男女共同参画社会づくりの推進は、一時的に進んでも、放っておくといつの間にか元に戻ってしまう。常に、気を緩めず、施策を打ち続けなければならないと思う。【男性・60歳代】
いつもお仕事お疲れ様です。↑ 番伝えたいことは、「問6」「問10」で答えています。近年、性虐待や子ども同士での性行為により女の子が傷ついて、命を絶つ事例もあります。もちろん、男の子も傷ついている事例もあります。心が痛い。「日本では、性に対して奔放だ。」と、ニュースでも取り上げられていました。けれど、伝えるだけです。”改善”はしていない。これから生きていく子ども達、現在を生きる私たちもスイスを真似して、「自分の身体は自分だけのもの。」と、大切に教育してほしい。まずは、保護者、教育者、町、市、県、国がしっかり学習して改善して欲しい。「女の子だから。」「男の子だから。」「我慢しなさい。」、周囲からの無視を無くす（少なくしていく）ことが大切だと思います。長文になりましたが、よろしくお願いします。【女性・20歳代】
砥部町は、スポーツ大会が盛んに行われており、この点においては、大変努力されており、良い町だと思います。重要なのは、この良い点をいつまでも長く続けて行くことではないでしょうか。役場の皆様、毎日とても暑い日が続いていますが、頑張ってください。【男性・50歳代】
男女の差はあって当然だと思う。元々は性格が違っていると思います。しかし、お互いに「思いやる」ことの重要性を考えれば、共同参画社会になると思います。決して何でも平等でなくても良いと思う。【男性・60歳代】
この制度（男女共同参画）は非常に良い。やるべきだと思います。【女性・70歳代以上】
基本は男女平等と考えて行動する事だと思う。【男性・70歳代以上】
こちらのアンケートの中で”女性の為の”という言葉が多く見られました。確かに、社会的にもそういった言葉も多くみられるのですが、、、この言葉自体がそもそもまちがっている気が、、、女性だから苦労しているのではなく、女性だから大変なのではないと思います。そう思わせてしまう社会性の方に問題があると思います。男性は苦労していませんか？大変じゃありませんか？誰もが、誰かが何とかしてくれると思っている。自分が関わらなくても社会は動く。確かにそうなのですが、、、。誰もが責任を持った笑顔の世の中になればと思います。【女性・30歳代】
少子高齢化が進み、男女関係なく、すべての人が社会的役割を果たしていく時代になっていると思う。現在は、いろいろな意味で、コロナ、自然災害の多発と不安な状況が様々である。時代は、男女共同参画社会にならざるを得ない。性別など関係なく、すべての人が生きがいをもって日々過ごせるような社会になってほしい。【女性・60歳代】
昭和生まれの男性の半分が、女性をナメきっている。高圧的な態度を取る人も多い。男性だから、女性だから、という概念が消えることは無いだろうから、共同参画社会が思う通りになることは無い。【女性・20歳代】
昔よりは女性の地位が高くなっていると思う。【女性・70歳代以上】
子供の多い家庭に対してもう少し手厚くしてほしい。【男性・30歳代】
女性が職場で働き続けるには、育児ももっともですが、年齢的に介護を余儀なくされる時期にあたります。役職に就けても、親の介護で十分な仕事ができず、あきらめてしまう様な事になりかねません。もっと、介護の方にも力を入れていただきたいです。【女性・50歳代】

一般的にここ10～15年で女性の就業状況は変わってきていると感じる。以前は、結婚退職が多かったが今は結婚、出産しても継続就業が普通となってきたので、この点はシステムが改善されていると思う。前回（10年前）のアンケート集計結果を拝見した。細かく集計されていたが、その後10年間の活動内容や活動結果をぜひ発信して欲しい。砥部町の行政においても何か変化があったのであろうか。（ホームページの会議録を見ても何が活動で何が成果なのか全くわからない）会議録の中に横文字が並んでわかりにくいという意見に対しわかり易く直すということになっているが、何も変わっていない。他にも直すとか検討するとかの結論が多いが、実際何もされていない項目が多いのではなかろうか。私自身は砥部町でのこの活動の内容を全く知らなかった。アンケート集計だけで終わらないことを願う。【男性・60歳代】
女性は育児、介護、家事、社会とのつきあい、色々大変で男性といっしょと言うのは、無理があると思います。肉体的、経済的、精神的にも男性といっしょは無理だと思う。【女性・70歳代以上】
男女共同参画社会は実現を目指すべき重要な社会的課題であると思う。しかし、特にマスコミや行政（政府を含む）が、安直英語（ジェンダー、エンパワーメント、ポジティブアクション等）を使っている限り、努力は形だけの上すべりに終るような気がする。【男性・70歳代以上】
老人の世話を長男の嫁が優先的に動かなければならないのでなかなか長時間働けない。主人には収入が少ないといわれ悲しい。なぜか通院とかで休むのは女。職場に休ませてもらうのに気を遣う。長男の嫁は本当にしんどい。【女性・50歳代】
非正規雇用で生活の不安が多いです。【女性・20歳代】
まずは、女性だからという思いを無くし、すべてに於いて男女平等の考えを持つべきであると思う。男性でも、女性でも、職場において職責が人を育てると思うので、まずは、先入観を取り除く事であり、女性にチャンスを与える事であると思います。【男性・70歳代以上】
砥部町は保育施設は良い状況と思う。砥部町役場での女性管理職の割合や女性議員の割合を公表し、積極的に登用や参入を促進したらどうでしょうか。【男性・70歳代以上】
砥部町でも子育て支援が進んでいるようですが、手続きも面倒だし、祖母の出番が多くなる。夫婦だけの場合だと大変だと思う。【女性・60歳代】
地域の組としての活動がどうしても土日になっており、土日に仕事をしないといけない仕事をしている自分からしたら、参加しないことを文句言われても困る。年間で日程を組むよう町から地域へ発信してほしい。年寄りや仕事が農家はいつでも参加できるし、昔のままの考えを今一度見直してもらわないと若者は離れていくばかりだと思います。【女性・40歳代】
学生の頃は、あまり感じなかったが、職場や地域社会では、まだまだ、男性優位な風潮があると思う。特に年齢が上がるにつれその傾向があると感じる。制度面はもちろんだが、そのような人々の考え方を変化させるようなソフト面の対策が必要不可欠だと思う。【男性・20歳代】
今すぐには無理かもしれませんが、子どもたちが大人になったとき実現していて、住みやすい砥部町になってほしいです。【男性・40歳代】
女性の方が男性より優れている業務が多くあることをもっと認知すべきと思う。「男女共同参画」なる考えより、女性優位の仕事をもっと賞賛すべき。私は、イチゴ農家ですが、イチゴの生産管理は女性中心の農家の方が収量、売上金額ともに高い農家が多い。農業のみにかかわらず、あらゆる職種で女性優位の場面があるはず。【男性・60歳代】
砥部町の町議会議員の女性議員の少さが全てを物語っていると思う。【男性・50歳代】
女性が働きやすい環境が整っている一方で、男性の長時間労働はあまり改善されていないように感じる。女性に仕事も、家事、子育ても求めるのではなく、男性も家事、子育てに参画できるようにすべき。そのためには、ICT等を活用した働き方改革、長時間労働を美德としない職場風土の改善などが求められるのでは。【女性・30歳代】
職場では育休制度はあるが、それを使用して復帰する人は少ない。戻りづらい雰囲気があるからです。そのためそのままやめて違うところに行ってしまう人も多いです。私は家庭の事情で既婚ではあるけれど子どもを作らない選択をした夫婦です。ですが、もし自分に子どもが出来育休をとり社会復帰を目指すこととなったら、やはりブランクのことも考え、不安になると思います。ですので、もし復帰を望む方たちがいれば、会社で3時間から働ける「短時間勤務」があれば、いいなと思います。また、今は、コロナで実現は難しいかもしれませんが、子育てを終えたシニアの人たちが支援員となって定期的に家に訪問したり、子育ての悩み等を聴く会を開いたりして、地域で情報を共有していけば、お母さんたちの不安や負担を減り、虐待もある社会も減っていくのではないかと思います。【女性・40歳代】
高齢者や障害者が災害や困ったときに対応できる地域の連携の充実ができれば良いと思います。【女性・50歳代】
家事を労働だと考えてくれない人が多いのが嫌になります。家事をしないで外で仕事だけしていれば、家に帰ってからは、自分が自由な時間を過ごせるだけなんて都合がよすぎます。主婦にも、休みを！！そのための社会サービスが充実してくれるといいと思います。それと、ひきこもり対策をしてほしいです。社会参画していない大人が多すぎなのでは？女性がもっと社会に出るためには、家のこと家族各々が協力する家庭でなければならないと思う。また、女性ならではの仕事が推進されると女性も働きやすいと思う。【女性・40歳代】
砥部町は「男性はこうあるべき、女性はこうあるべき」という考えが各家庭にも職場にも残っているように感じます。職場の20代が自分だけだからなのか私が異端児扱いされているような気がします。（男女平等であるべき、などの意見をのべると）少しずつ変わっていくと良いですね。【女性・20歳代】
行政側に従来の考え方を変えて、組織改革をまず図ること。ウイズコロナの時代に突入するので、早急に従来の取り組みについてチェックしなおすことが第一。上から目線を辞めること。【男性・70歳代以上】

社会で女性が活躍する機会が増えるのは、いいことだと思う。しかし、家庭内での女性の負担はまだ多く、両立するのは大変だと思います。また、収入格差も大きく、二人で働かないと生活できない現状です。仕事で疲れて地域活動にまで時間や体力が残っていないので、ゆとりある生活ができる社会になってほしいです。【女性・40歳代】
いくら教育をしても、人間は生きるために適応する。いくら教育しても、社会に出た時、上に立つ者は（ルールを決める者）年上だから、その方々の意識を変えないと意味がない。質問が差別ありきで作られているから、若者である私から見ると、問題は解決しづらいのだろうと思う。【男性・20歳代】
これから先もっともっと大切になり子育て支援、高齢者対策、男性への理解が大切だと思う。【女性・60歳代】
家庭でも職場でも1人1人の今までの考えを見直す機会がなければ何も変わらないと思います。【女性・30歳代】
子供を安心して生める社会を！【女性・60歳代】
育児のための時短等のために、周りがよく思わない雰囲気の場合をよくみる（その分の仕事が他にまわるせいか）・育児する人も精神的にしんどいと思うので、もう少しサポートがあるといいのかなとも思った。【女性・20歳代】
定年の年齢を65歳以上まで上げて、男女共、意識を持って仕事ができる社会にしてほしい。【女性・50歳代】
幼少期に人格が形成されてゆくとと思うので幼いうちからこのような問題の教育や学習をもうける機会を増やすべき【女性・30歳代】
それぞれの現場でこのプロジェクトにどのように携われるか考えてみるのもいいかも！【男性・50歳代】
意識しすぎると逆に差別やハラスメントや同調圧力を生んでしまうことになりかねない。共同参画社会という名目や形にとらわれて本末転倒となってしまうような、強引な策をとってしまいがち・・・。本来は、性別に限らず、他と認め合うことが出来る。認め合うことが当たり前といった文化が構築されることが重要。そのような意識（無意識）を持った人々が構成するものが社会である。他を認め合える寛容な人を育てることが大切だと思います。「和をもって貴しとなす」【男性・60歳代】
それぞれの家庭で違うでしょうし、男性・女性でも得意・不得意があるでしょうから回答しにくい項目がありました。男女共同参画という言葉が聞き慣れてきたように思います。審議会の委員等、できるだけ男女同数になるように声かけされています。より良くなるよう、教育や学習を継続していく必要があります。よろしくお願いします。高齢者になると奥さんが入院または死亡で一人になった場合、食事に困るというのを聞きます。元気なうちに多少、家事ができるよう意識を変えていければ良いと思います。【女性・50歳代】
決めごととはすべて男性の集まりで決まる。結果女性の推薦は発想外・依頼するときは女性の登用を強く依頼しては？【男性・70歳代以上】
社会において男女差別はあってはならないと思います。しかし、そもそも男性と女性では体のつくりも違うし、出産ができる、できない等の役割の違いがあります。できる事、できない事を尊重し合ったうえで、差別のない社会になってほしいです。何でもすぐに男女差別だ！というのはおかしいと思います。【女性・50歳代】
男性の家事分担を中国や欧米並みに多くすべきです。（半分以上）【男性・30歳代】
特に女性は働くという事に対し、就活の時の意気込みを結婚後も持ち続けられるかどうかが男女共同参画社会の発展につながると考える。そのためには女性の働きやすい環境づくりが必要。【男性・70歳代以上】
男女関係なく人と人がつながりあえて、みんながいきいきと楽しく生活できるのが理想だと思ってます。【女性・50歳代】
児童クラブ、保育所の開所時間を延長してくださり本当に助かっています。さらに、働きながら子育てのしやすい町になってほしいです。【女性・30歳代】
家庭で子どもに教えてゆく事が大事なのは、と思っています。夫とは性格が合わず大変な毎日でした。子どもは二人共、ちゃんと家庭を持ち安心して過ごせています。何事も行政には相談はできなかった。職場では昨年より行政のおかげで働きやすくなって来ました。あまりいい意見は書けませんでした。砥部町ももっとよくなるよう期待します。【女性・60歳代】
役場等で自由に参加でき、政策などをききたい。【女性・50歳代】
特にありませんが不必要に女性だけが優遇される社会はどうかと思います。【女性・20歳代】
マタニティ・ハラスメント 妊娠・出産までは女性にとって大きな仕事です。仕事と家事に追われ流産される人もいます。妊娠初期に悲しいことがおこります。この期間の休日を増やせたら無事に産まれてくる子供も増えると思います。【女性・70歳代以上】
地域での働き場が増えてほしい。職場が近いと、生活との両立がしやすいと思う。【女性・20歳代】
男女平等と言いつつも、実際は男性の方が給料が優遇されていると思います。経済的に弱い立場も弱くなると思います。【女性・60歳代】